

土倉 宗明君 島田七郎右衛門君
松村 謙三君

決議案(雪害對策ニ關スル件)
(以上五月十六日提出)

提出者

高橋熊次郎君 氏家 清君
佐藤謙之輔君 奥山 龜藏君
助川啓四郎君 山田 又司君
三鬼鑑太郎君 三宅 正一君
高岡 大輔君 内ヶ崎作三郎君
村松 久義君 小山倉之助君
栗山 博君 仲西 三良君
湊 季松君 林 平馬君
比佐 昌平君 鶴見 祐輔君
工藤 鐵男君 菊池 良一君
信太儀右衛門君 中川 重春君
土田 莊助君 松井 郡治君
佐藤 與一君 川合 直次君
添田敬一郎君 齋藤 直橋君
永井柳太郎君 櫻井兵五郎君
喜多壯一郎君 野村 嘉六君
松村 謙三君 菅原 傳君
宮澤 清作君 佐々木家壽治君
大石 倫治君 松岡 俊三君
熊谷 直太君 西方 利馬君
八田 宗吉君 堀切善兵衛君
菅野善右衛門君 鈴木辰三郎君
八角 三郎君 菊池長右衛門君
松川 昌藏君 志賀和多利君
小笠原八十美君 藤井 達二君
工藤十三雄君 小山田義孝君
中田 儀直君 山本悌二郎君
松本 弘君 武田德三郎君
船田 中君 坪山 德彌君
岡田伊太郎君 東 武君
登坂 良作君 南條 德男君
東條 貞君 三井 德寶君
尾崎 天風君 芦田 均君
田中 好君 牧野 良三君

大野 伴陸君 木村作次郎君
加藤 賢司君 田中 彌助君
植原悦二郎君 箸本 太吉君
益谷 秀次君 神保 重吉君
石坂 豐一君 土倉 宗明君
島田七郎右衛門君 久山 知之君
佐藤洋之助君 木村 武雄君
北 吟吉君 畔田 明君
中原 謹司君 小山 亮君
平野 力三君 今井 新造君
笠井 重治君 北 勝太郎君
守屋 榮夫君 兼田 秀雄君
川俣 清音君 大竹 貫一君
佐藤 啓君 由谷 義治君
(以上五月十七日提出)

一 去十六日ニ於ケル特別委員ノ異動左ノ如シ
米穀自治管理法案(政府提出)外二件委員
辭任内藤 正剛君 補關中村不二男君
辭任川橋豐治郎君 補關池本甚四郎君
昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ
ル爲公債發行ニ關スル法律案(政府提出)
委員
辭任篠原 義政君 補關石坂 豐一君
辭任内藤久一郎君 補關大島 寅吉君
商工組合中央金庫法案(政府提出)委員
辭任前田 幸作君 補關北 勝太郎君
大正十二年法律第五十二號中改正法律案
(政府提出)委員
辭任久山 知之君 補關名川 侃市君
辭任松本 弘君 補關砂田 重政君
土地賃賃價格改訂法案(政府提出)委員
辭任西田 郁平君 補關岡本實太郎君
辭任三善 信房君 補關小笠原八十美君
昭和六年法律第四十號中改正法律案(政
府提出)委員
辭任中野 正剛君 補關三浦 虎雄君

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ會議ヲ開キ
マス、議長ヨリ一言申シマス、過日ノ各派
交渉會ニ於キマシテ、秘密會ノ内容ノ漏レ
ナイヤウニスルト云フ申合セヲ致シマシタ
コトハ、諸君御承知ノ通りデアリマス、然
ルニ一昨日ノ本會議ニ於テ、杉浦武雄君ノ
豫算案ノ討論中、委員會ニ於ケル秘密會ノ
内容ニ觸レタ點ガアリマシタコトハ、洵ニ
遺憾トスル所デアリマス、今後斯ルコト
ノナイヤウ十分御注意アラシコトヲ望ミマ
ス、尙ホ議會ノ信用保持ノ爲メ、議員各位
ニ於カレテモ互ニ相戒メ、將來斯ノ如キコ
トノナカラシコトヲ、議長ハ此際特ニ希望
致シテ置キマス(拍手)
御諮リ致スコトガアリマス、第二部選出
豫算委員松田喜三郎君、第二部選出決算委
員小笠原八十美君、右常任委員辭任ノ申出
ガアリマス、之ヲ許可スルニ御異議ハアリ
マセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
マス、仍テ許可スルニ決シマシタ、其部ノ
諸君ハ速ニ補關選舉ヲ行ヒ、御届アラシ
コトヲ望ミマス、更ニ御諮リ致シマス、昭
和六年法律第四十號中改正法律案、商工組
合中央金庫法案、土地賃賃價格改訂法案、
昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツ
ル爲公債發行ニ關スル法律案、重要肥料業
統制法案、航路統制法案、臺灣拓殖株式會
社法案外一件、朝鮮事業公債法中改正法律
案、不穩文書等取締法案、大正十二年法律
第五十二號中改正法律案ノ各委員長ヨリ、
本日本會議中委員會ヲ開キタイトノ申出ガ
アリマシタ、之ヲ許可スルニ御異議ハアリ
マセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メ
許可スルニ決シマシタ、是ヨリ日程ニ入
リマス、日程第一、退職積立金及退職手当

法案ノ第一讀會ヲ開キマス、内務大臣潮
惠之輔君

第一 退職積立金及退職手当法案(政
府提出) 第一讀會

退職積立金及退職手当法案

第一章 總則

第一條 本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル
事業ニシテ當時三十人以上ノ勞働者ヲ
使用スルモノニ之ヲ適用ス

一 工場法ノ適用ヲ受ケル工場

二 鑛業法ノ適用ヲ受ケル事業

三 其ノ他勅令ヲ以テ指定スル事業

主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限リ
本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

第二條 本法ノ適用ヲ受ケル事業ガ規模
ノ縮少其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用
ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ事業
主其ノ旨ヲ行政官廳ニ届出ヅル迄ハ前
條ノ規定ニ拘ラズ仍テ本法ヲ適用ス

第三條 第一條第一項各號ノ事業ニシテ
本法ノ適用ヲ受ケザルモノノ事業主退
職積立金、退職手当積立金又ハ退職手
當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金
ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ
受ケタルトキハ其ノ事業ニ第十一條、
第十六條及第十七條中積立ノ率ニ關ス
ル規定並ニ第三十條第三項ノ規定ヲ除
クノ外本法ヲ適用ス

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程
ヲ廢止又ハ變更セントスルトキハ行政
官廳ノ許可ヲ受クベシ

第四條 營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ
事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ勞働者
ガ引續キ承繼人ニ使用セラルトキハ
其ノ勞働者ト從前ノ事業主トノ間ニ本
法ニ依リテ生ジタル法律關係ハ承繼人
ニ移轉ス

前項ノ場合ニ於テ積立金ノ承繼ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セラルル労働者ノ中左ニ掲グル者ニハ本法ヲ適用セズ但シ第一號若ハ第二號ニ該當スル者ハ六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ適用ス

一 六月以内ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二 日日雇入レラルル者

三 季節的ノ事業ニ使用セラルル者

前項第三號ノ季節的ノ事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條 賃金及標準賃金ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 行政官廳ハ事業主ニ對シ本法ニ依リ積立金ノ積立若ハ運用、退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給其ノ他本法ノ施行ニ關スル事項ニ付必要ナル検査ヲ爲シ又ハ事業主ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條 本法ニ依リ事業主ノ積立ツベキ退職手當積立金及準備積立金ノ額ハ命令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相當スル額以下トス

第九條 本法ノ適用ヲ受クル事業ガ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テ退職積立金支拂又ハ退職手當支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ仍本法ヲ適用ス

第十條 本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セ

道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付命令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二章 退職積立金

第十一條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ労働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各労働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツベシ

災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十二條 労働者退職（解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同ジ）其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ非ザレバ前條ノ退職積立金ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ズ

第十三條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル上労働者ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ労働者ノ退職積立金ヲ運用スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムル額ノ國債ヲ供託スベキコトヲ命ズルコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ前項ノ國債ノ増額ヲ命ズルコトヲ得

労働者ハ事業主ノ運用シタル退職積立金ニ關シ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

前項ノ權利ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條 前條第一項ノ規定ニ依リ退職積立金ヲ運用シタル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ運用シタル金額ニ前條第一項ノ利子ヲ附シタルモノヲ退職積立金トシテ其ノ労働者ニ支拂フベシ

第十五條 退職積立金ノ支拂ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三章 退職手當

第十六條 事業主ハ命令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ少クトモ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ還滞ナク積立ツベシ

災害其ノ他已ムヲ得ザル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ積立ヲ爲サズ又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十七條 事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外命令ノ定ムル所ニ依リ左ノ各號ノ一ニ該當スル金額ノ十分ノ一ノ限度トシテ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度末、個人タル事業主ニ在リテハ曆年末ニ於ケル労働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三ニ達スル迄ノ金額ヲ退職手當積立金トシテ還滞ナク積立ツベシ

一 事業主法人タル場合ニ於テ事業年度ニ於ケル利益配當金ガ拂込株金額又ハ出資金額ニ對シ年百分ノ五ノ割合ヲ以テ算出シタル金額ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

二 事業主個人タル場合ニ於テ事業一年ノ純益金額ノ百分ノ六十ガ五千圓ヲ超過スルトキハ其ノ超過金額

第十八條 前二條ノ退職手當積立金ハ計算期毎ニ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ但シ前條ノ退職手當積立金ニ限リ事業主豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勤務年限、勤務狀態其ノ他ニ依リ異ル率ヲ以テ労働者別ニ計算スルコトヲ得

第十九條 事業主ハ退職手當積立金ヨリ生ジタル利子（第二種所得稅又ハ資本利子稅ヲ課セラレタルトキハ之ヲ差引キタル金額）及第二十一條第二項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ還滞ナク積立ツベシ

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ計算期ニ於テ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

第二十條 退職手當積立金ノ積立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ財産ト分別シテ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スベシ

一 郵便貯金

二 銀行ヘノ預金

三 金錢信託

四 登錄國債

第二十一條 事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ退職手當積立金ヲ運用スルコトヲ得

第二十二條 本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準ズベキモノハ本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ズ

第二十三條 退職手當積立金ノ拂戻又ハ償還ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ但シ本法ニ依リ退職手當ヲ受ケベキ者第二十四條第一項第一號ノ金額又ハ第二十六條第一項ノ特別手當ノ金額ニ付差押フルコトヲ妨グズ

第二十四條 労働者退職其ノ他ノ事由ニ

因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ事業主ハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セザルコトヲ得

一 第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ労働者ノ計算ニ屬スル金額

二 第十六條第一項ノ規定ニ依リ積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額

前項第一號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給シ退職手當積立金ヲ以テ之ヲ支給スルコト能ハザルトキハ事業主ノ他ノ財産ヨリ之ヲ支給スベシ

第一項第二號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得ズ労働者死亡シタル場合ニ於テハ退職手當ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遺族又ハ労働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給スベシ

第二十五條 前條第一項但書ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セザル金額ヲ生

シタルトキハ事業主ハ第二十六條第一項ノ特別手當ニ充ツル爲ノ積立金(特別手當積立金)トシテ之ヲ保留スベシ

第二十六條 事業主事業ノ都合ニ依リ労働者ヲ解雇シタルトキハ退職手當トシテ第二十四條第一項ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ達スル迄ノ金額(特別手當)ヲ加算シテ支給スベシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ加算スルコトヲ要セズ

一 勤続一年以上三年未満ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額
二 勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃

金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クベキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金ガ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラザルトキハ其ノ支給ヲ受クベキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額ト爲スベシ

第二十四條第二項ノ規定ハ特別手當ノ支給ニ之ヲ準用ス

第二十七條 事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ特別手當積立金ノ限度ヲ定メタルトキハ其ノ限度ヲ超ユル金額ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツベキ金額ニ之ヲ充當スベシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得

第二十八條 事業主ハ第十九條第二項ノ計算期ニ於テ退職手當積立金ノ缺損ヲ填補シ餘額ヲ積立ツベシ

前項ノ規定ニ依リ餘額ヲ積立ツル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ労働者別ニ計算ヲ明ニスベシ

第二十九條 本法ニ依リ退職手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ譲渡シ又ハ差押フルコトヲ得ズ

第三十條 事業主退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ

第十六條及第十七條ノ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ノ廢止又ハ變更ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非ザレバ其ノ效力ヲ生ゼズ

事業主ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ労働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタルトキハ少クモ勤続一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當(事業ノ都合ニ依リ解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未満ノ者ニ付テハ

勤続一年以上三年未満ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給スベシ此ノ場合ニ於テハ第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第二十四條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ第一項ノ準備積立金ニ、第二十四條第四項、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ退職手當ニ之ヲ準用ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ準備積立金ノ増額ヲ命ズルコトヲ得

第四章 退職金審査會

第三十一條 退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ニ付民事訴訟ヲ提起スルニハ退職金審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時効ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十二條 退職金審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章 罰則

第三十三條 事業主第二十一條第一項

(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)ノ許可ヲ受ケズシテ退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

事業主法人ナル場合ニ於テ前項ノ許可ヲ受ケザルニ拘ラズ其ノ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキ其ノ者ニ付亦前項ニ同ジ

第三十四條 事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス
一 第三條第二項、第十一條第一項、

第十四條、第十六條第一項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條

(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十四條第一項第四項(第三十條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條(第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)又ハ第四十一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二 第十三條第二項第三項(第二十一條第二項、第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム)、

第十七條又ハ第三十條第五項ノ規定ニ依リ命令ニ從ハザルトキ

三 第三條第一項、第三十條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル準備積立金ノ積立ヲ爲サザルトキ

四 第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スベキ退職手當トシテ勤続一年ニ付標準賃金十二日分以内ニ相當スル金額(事業ノ都合ニ依リ解雇ノ場合ニ於テハ勤続一年以上三年未満ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分以内、勤続三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分以内ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ)ヲ支給セザルトキ

第三十五條 第七條ノ規定ニ依リ檢査ヲ拒ミ、妨ゲ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サズ若ハ虚偽ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條 事業主ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコ

トキ

トヲ得ズ

第三十七條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事業主ニ適用スベキ罰則ハ其ノ者ガ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

附則

第三十八條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十九條 第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ最初ノ積立金ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條 勞働者第十六條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ積立ノ最初ノ期間中ニ退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ於テハ第二十四條第一項第二號ノ金額ハ本法適用後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額トス

第四十一條 事業主及勞働者ノ出捐ニ係ル組合ガ本法施行ノ際現ニ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サザルコトヲ得

前項ノ組合ガ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケザルニ至リタル場合ニ支給スベキ金額ヲ支給セザルトキハ事業主ハ組合ノ支給セザル金額ニ相當スル金額ヲ勞働者ニ支給スベシ行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十二條 事業主本法施行ノ際現ニ使用スル勞働者ノ本法施行前ノ勤務ニ對テ退職手當及之ガ支給ニ充ツル爲ノ

準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ準備積立金ニ、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ退職手當ニ之ヲ適用ス

第四十三條 本法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依リ退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ支給スベキ退職手當ハ其ノ差額ヲ支給スルヲ以テ足ル

第四十四條 國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

退職積立金及退職手當法ニ依リ退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同ジ

第四十五條 郵便貯金法第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

五 退職積立金及退職手當法ニ依リ積立金ノ預入金

(國務大臣潮惠之輔君登壇)

○國務大臣(潮惠之輔君) 只今上程ニ相成リマシタ退職積立金及退職手當法案ニ付キマシテ提案ノ理由ヲ説明致シマス、今ヤ我國ノ産業界ニ於キマシテ、事業主ト勞働者トハ各、益、相親和シ、相協力シ、勞資一體トナリマシテ、産業ノ健全ナル發達ヲ圖ラナケレバナラナイ時期ト考ヘル次第デアリマス、近時我國ニ於ケル勞働運動ガ眞摯ナル發達ヲナシ、勞資ノ間ハ漸次其理解ヲ深メ、偕和協力シテ國家産業ノ發展ニ努メントスルノ機運ニ向ヒツ、アリマスコトハ、誠ニ喜バシキ傾向ト存ズルノデアリマス、惟フニ勞働者ノ生活安定ハ、國民生活安定ノ一礎石ヲ成スモノデアリマシテ、之ガ對策ヲ講ズルコトハ、現下ノ情勢ニ鑑ミ極メテ緊要ノコトト考ヘ、茲ニ其一方策トシテ、

退職手當制度ノ確立ヲ圖リタイト考ヘタ次第デアリマス、抑、退職手當制度ノ慣行ハ、我國獨特ノ美風トシテ夙ニ發達シタモノデアリマシテ、勞働者ノ生活不安ヲ緩和スル爲ニ、極メテ推奨スベキ制度デアルト存ジマス、然ルニ此制度ハ大規模ノ工場礦山ニハ比較的普及シテ居リマスガ、未ダ一般的ト言フコトガ出來ズ、又手當ノ支給ニ關シテモ、多クハ事業主ノ任意ニ決スル所デアリマスノデ、其間種々ノ問題ヲ惹起スル場合同アルノデアリマス、斯ル事情ニアリマスノデ、之ヲ法制化シテ其普及ヲ圖リ、其內容ヲ合理的ナラシムルト共ニ、平素ヨリ是ガ支給準備ノ爲メ積立ヲ爲サシメテ、其支給ヲ確保スルコトハ、極メテ緊要ノ事デアリマス、仍テ本法案ハ、事業主ニ對シ賃金ノ百分ノ二ノ積立義務ヲ課シ、更ニ事業主ノ負擔能力ヲ考ヘマシテ、其負擔能力ニ應ジ賃金ノ百分ノ三迄ノ積立ヲ爲サシメ、其積立額ヲ基礎トシテ、退職手當ヲ支給セシムルコトトシタノデアリマス、同時ニ勞働者ニ對シテモ、事業主ガ退職手當ヲ支給スルノニ相應ジテ、自ラモ亦其退職時ニ備ヘル趣旨ノ下ニ、賃金ノ百分ノ二ノ積立ヲ爲サシムルコトニシタノデアリマス、本法案ハ

シテ、現下ノ情勢ニ鑑ミ極メテ緊要ノコトト考ヘ提出シタ次第デアリマス、何卒慎重審議ノ上御協賛アラシコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許可致シマス——村岡吾一君

(村岡吾一君登壇)

○村岡吾一君 茲ニ議題トナツテ居リマス退職積立金及退職手當ノ法案ハ、我國ニ於ケル古來ノ美風デアアル所ハ、勞働者ガ退職致シマス場合ニ於テ、事業主ガ之ニ關シテ給與スルコト云フ、此慣習ヲ法制化致シマシテ、以テ失業對策及比養老ノ目的ヲ達セントスルモノデゴザイマス、之ニ依リマシテ勞働者ノ經濟的利益ヲ増進スルコトハ申ス迄モナイノデアリマスガ、一面ニハ勞働者ノ人格ヲ尊重スル結果トナルト思フノデアリマス、今日ハ勞働者ノ人格ヲ尊重スルト云フコトガ、最モ必要デアルト私ハ思フ、從來ノヤウニ多年勤メタ者ガ暇ヲ取ル場合ニ於テ、事業主ガ唯何程カノ包金ヲ渡シテ感謝ノ意ヲ表スル、勞働者ハ唯其御慈悲ニ甘ンジナケレバナラヌト云フヤウナ制度ハ、舊來ハソレレ宜カッタノデアリマスガ、今日人文ガ發達ヲ致シ、オ互ノ人格ヲ尊重セナケレバナラヌ、勞資共ニ人間トシテ進マナケレバナラヌト云フ場合ニ於キマシテハ、斯様ナル恩惠ノ制度ノミニ置クヨリモ、適當ニ之ヲ法制化シ、合理的ニ法規ヲ以テ定メルト云フコトハ必要デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、是ハ我ガ民政黨ノ所謂國家ノ統制ニ依ツテ分配ヲ公正ニスル、而シテ生産ヲ旺盛ニシテ、社會不安ノ禍根ヲ排除スル政策ノ一ツデアルト私ハ思フ、此案ハ今期議會ニ於ケル所ノ、殆ド唯一ノ社會立法デアルト言ツテモ宜イノデアリマシテ、此庶政一新ヲ要スルノ秋、政府ガ斷乎トシテ提案ヲセラレマシタノハ、吾々ノ多トスル所デアリマス、私ハ此案ニ付キマシテ、政府ニ對シテ少シク御尋ラ致シテ見タイト思ヒ

マス

第一ニハ、此法案モ同様デアリマスルガ、獨リ此法案ノミナラズ、近頃政府ガ制定セラレマスル所ノ諸種ノ法律命令等ヲ見マスルノニ、其配列、或ハ其字句、即チ文章ト云フヤウナモノガ、著シク複雑難解デアリマシテ、之ヲ遵奉致シマスル所ノ國民ニ取リマシテハ、頗ル苦痛アルノデアリマス、甚シキニ至リマシテハ、其適從スル所ヲ知ラナイト云フヤウナ感ガアルモノサヘアルノデアリマス、惟フニ是ハ此法令ヲ作ル場合ニ於テ、ソレノ所管ノ官廳ニハ起草者ナル者ガアツテ、此起草者ガ學識トカ學理トカ云フモノニ囚ハレル、或ハ條文ノ體裁トカ云フモノニ拘泥スル、更ニ又官廳トシテ取締其他ノ便宜ヲ圖ル、斯ウ云フヤウナコトニ急ニシテ、法令ヲ守ル方、即チ法令ヲ遵奉シテ、之ニ依テ生活ヲシテ行ク一般國民トシテノ立場カラ見テ、如何ニシタナラバ宜イカト云フ、其方ヲ考慮セザル所ノ結果デハナイカト私ハ思フノデアリマス、現ニ選舉法ニ付キマシテモ、吾々議員ニナラントスル者ハ、自ラ其法令ニ從テ選舉ヲヤツテ見マシテ、如何ニ苦痛アルカ、吾々ハ善良ナル、神聖ナル考ヲ以テ、苟モ過チナカラントシテ法令ヲ遵奉セントスルノデアリマスルガ、其字句文章等ガ徒ニ難解デアツテ、如何様ニモ解釋ガ出來ルト云フヤウナコトデアリマスル爲ニ、甚シク苦痛ヲ感ズルト云フコトハ、オ五ガ苦キ經驗ヲ持ツテ居ルノデアリマス、是ハ吾々議員ガ選舉ヲ自ラヤツテ見デ能ク分ルコトデアリマスルガ、唯一部ノ問題デゴザイマスルガ、吾等ノ如ク地方ニ居リマシテ、日々法律命令ノ遵奉サレル所ノ状態ヲ見テ居リマスル所ノ者ニ於キマシテハ、一層此感ガ深イノデアリマス、此儘ニシテ年々歳々多數ノ法令ガ作ラレマスルガ、左様ニナリマスルト、國民ノ言語、動作、即チ國民行爲ノ範圍ト

云フモノハ益ニ窮乏ニナルノデアリマシテ、如何ニ法治國ノ國民トハ云ヒナガラ、堪ヘ得ザル結果トナルト私ハ思フノデアリマス、政府ニハ法制局ガアリ、内閣調査局ト云フモノガアルノデアリマス、今後ハ從來ノヤウナ御役所本位、官吏本位ノ法令ノ作リ方ヲ改メテ、遵奉者本位、即チ國民本位ニ此法令ナルモノヲ簡易平明ニ作ル、斯ウ云フコトガ最モ緊要デアルト私ハ存ズルノデアリマスルガ、此點ニ付テ庶政ノ革新ヲ標榜セラレル現内閣ニ於テ、英斷ヲ施サル、ノ御意思ハナイカト云フコトヲ御尋シテ見タイノデアリマス、

次ニ第二項ト致シマシテ、此法案ノ内容ニ付テ二三ノ御尋ヲ致シタイノデアリマス、「イ」ト致シマシテ、此法案ノ第八條ニハ、事業主ノ積立金ヲ賃金ノ百分ノ七以下、斯ウナツテ居リマスルガ、是ハドウ云フ趣旨デアルカ、是ハ免稅點ニ關スル規定デアルト云フヤウニモ聞イテ居ルノデアリマスルガ、退職手當ノ積立金トシテ、其積立テタル金額ニ對シテ免稅ヲスルト云フ趣旨デアラナラバ、第二十二條ニ免稅ニ關スル規定ガアルノデアリマスルカラ、ソコヘ其範圍ヲ入レテ置ケバ宜シイムデアリマス、然ルニ此八條ヲ總則ニ定メ、而シテ又第十六條ヲ見マスルト、賃金ノ少クトモ百分ノ二ト云フノデアルト、百分ノ二積メト云フ風ニ見エルト思ヘバ、百分ノ七以下ト云フコトニナルノガ此第八條デアリマシテ、此兩方ノ八條ト十六條ヲ綜合致シマスルト、吾々ノ常識カラ致シマスレバ、少クトモ百分ノ五位ハ事業主トシテ積マナケレバナラスト云フ風ニ考ヘラレノデアリマス、此點ハ甚ダ疑惑ヲ生ジ、事業主ハ不必要ニ惧レヲ生ズルヤニ考ヘルノデアリマスルガ、此點ハドウデアルカ、御伺致シマス

次ニ第十七條、此十七條ハ利益ノアル場合ノ積立金ニ關スル規定デアリマシテ、而

シテ法人、即チ會社ハ利益配當金ヲ標準トスルコトニナツテ居リ、個人ニ對シテハ純益金ヲ標準トスルコトニナツテ居ルノデアリマスガ、此利益、純益ト云フ金額ハ、一體誰ガドウシテ決メタルノデアルカ、御伺致シマス、是ハ法律ヲ決メテ置キマシテモ、中困難ナ問題デアリマスルノニ、之ヲ勅令ニ讓ルト云フコトニナツテ居リマスルガ、勅令デ如何ニ定メマシテモ、中々是ハ面倒ガ起ルノデアリマス、一口ニ利益ト云ヒマスレバ、會社ニハ決算報告ガアルデヤナイカ、總收入カラ總支出ヲ引イタ殘リガ利益デヤナイカ、洵ニ簡單ナヤウデアリマスルケレドモ、第一此決算報告、考課狀ト云フヤウナモノハ、是ハ種々ノ事情ニ依リマシテ、必シモ其期間ノ事業ノ實績トハ一致シナイコトガアルノデアリマス、時ニハ餘リニ利益ガ多過ギル場合ニハ、之ヲ調節シテ寡小ニ見積ルトカ、或ハ餘リニ利益ノ少イ場合ニ於テハ、之ヲ誇大ニ見積ルト云フヤウナコトモアルノデアリマシテ、此利益金ト云フコトヲ標準トスル場合ニ於テ、之ガ決定ハ相當困難ガ生ズルノデアルト、是ガ延イテ勞働者ト事業主トノ間ノ疑惑紛爭ノ種トナル虞ガアルノデアリマス、是ハ役所ノ方ハ御存ジアリマスマイガ、或ル會社ガ自分ノ規定ニ於テ、百分ノ九ニ相當スル積立ヲスルト云フコトヲ定メテ置イテ、考課狀ニハ餘リ儲カリ過ギタト云フノデ、數百萬圓ノ金ハ之ヲ自分ノ同族會社ノ利益ノ方ニ組込シテ、謂ハハ胡麻化シテ居タト云フヤウナ實例ガアルノデアリマス、ソコデ斯ノ如キ利益金額ヲ定メルト云フコトハ困難ナ問題デアルト、更ニ又同條ニハ、法人ニ於テハ利益ノ配當金額ヲ標準トシテ積立ヲスルコトニナツテ居ル、是ハ何故ニ利益ノ高ニ依ッテ積立ヲサセナイデ、配當金ヲ標準トスルノデアルカト私ハ思フノデアリマス、私共ノ考ヘル所ニ依リマスレバ、苟モ利益ガアリ

マス以上ハ、之ヲ配當スルト否トニ拘ラズ、其一部ヲ積立テサセルト云フコトガ至當デアルト思フ、利益ヲ會社ニ留保スル、若クハ株主ニ配當シテ分ケルト云フガ如キコトハ、是ハ株主ノ内部ノ關係ノ問題デアリマシテ、是ガ爲ニ勞働者ノ利益ヲ左右スルト云フガ如キコトハ、全ク理由ガナイノデアリマス、又十七條ノ積立金ノ計算、此十七條ノ條文ヲ見マスル洵ニ複雑デアルト、百分ノ六十ガ五千圓ヲ超過スル金額トカ、又百分ノ三ニ達スルマデノ金額ヲ標準ニスルトカ、能ク讀メバ分ルノデアリマスレドモ、中々普通ノ人ガ、勞働ニ從事スル人、若クハ小サイ工場ヲ經營シテ居ルガ如キ人々ニ取ツテハ、斯様ナ法文ハ洵ニ難解デアリマス、斯ノ如キ事業主ニ取リマシテモ、亦勞働者ニ取リマシテモ、容易ニ之ヲ會得スルコトガ出來ナイノデアリマシテ、非常ニ面倒ナ規定デアリマシテ、是ガ爲ニ雙方ノ不安疑惑ヲ助長スルト云フヤウナコトニ相成ルノデアリマスガ、是ヨリモ寧ロ此規定ハ廢シテ、サウシテ第十六條ノ積立ノ率ヲ相當ニ高メル、一定ノ率、利益ノ有無ト云フヤウナコトハ別ト致シマシテ、一定ノ確定シタル率ニ依ッテ積ムト云フコトニ明確ニ定メタ方ガ、雙方ノ爲ニ適當デハナイカト思ハレルノデアリマス、次ニ又第三十一條以下ニハ、退職金ノ審査會ト云フモノガ設ケラレマシテ、サウシテ若シ勞働者ガ退職ノ場合ニ於テ、事業主ガ之ヲ給與シナイ時ニハ、勞働者ハ先以テ此審査會ニ御願ヲシテ、サウシテ裁決ヲシテ貰ツテカラデナケレバ、普通ノ請求ハ出來ナイト云フコトノ規定ニナツテ居ルノデアリマスガ、私ハ斯様ナ審査會ト云フガ如キモノハ無益ニシテ、否、却テ有害ナリト認メルノデアリマス、何故ナラバ既ニ拂フベキ場合ニ於テ、事業主ガ之ヲ拂ハナイ、勞働者ト事業主トノ間ニ於テ、既ニソコニ意見ノ相違ガ

アリマスカラシテ、斯様ナ結果ニナルノデ
アリマス、サウ云フ場合ニ之ヲ審査會ニ持ッ
テ行ッテモ、審査會ハ何モ之ヲ決定スル權能
ハ無い、サウシテ其決定スル權能ノナイ所
ノ審査會ニ之ヲ要求シナケレバナラス、而
モソレガ容レラレナイ場合ニ於テ、普通ノ
訴訟手續ニ依ッテ裁判所ニ持ッテ行カナケレ
バナラスト云フノデアリマスルガ、單純ナ
民事訴訟デサヘモ中々日ニチガ掛ッテ、目的
ヲ達スルマデニハ容易デナイ、其前ニ斯ウ
云フ審査會ト云フモノ、機關ヲ定メテ、之
ヲ一遍通過シナケレバナラスト云フガ如キ
ハ益、其期間ヲ長引カセルノデアアル、職ヲ離
レテ一日モ早く退職手當ヲ貰ハナケレバ
ラス労働者ニ取ッテ、何時貰ヘルカ分ラナイ
ト云フガ如キ、不安ナ念ヲ生ゼシムルト云
フコトハ、此法律ノ精神ニ反スルモノデア
ルト私ハ思フノデアリマス、是方即チ無益
ニシテ寧ろ有害ナリト私ノ信ズル所以デア
リマス

次ニ御尋シタイノハ、此法律案ヲ提案サ
レルマデニ、政府トシテ或ハ労働者、事業者
雙方ノ意見ヲ徵セラレテ居リマスルカ否カ、
無論徵セラレテ居ルト思ヒマスルガ、其大
要ヲ承リタイノデアリマス、吾々ノ所ニ此
法案ガ出テ以來、主トシテ事業主側カラ色
色ノ陳情ガ參ッテ居リマスルガ、此法案ガ成
立シタトシテ、一體事業主側ノ負擔スル關
係ハ、ドウ云フ風ニナッテ居ルカト見マスル
ノニ、假リニ日給一圓ノ職工ガ一年三百日
働クトシテ、其賃金ノ總額ハ三百圓デアリ
マス、而シテ其一年三百圓ノ賃金ニ對シテ、
事業家ハ百分ノ二即チ六圓ヲ積立テレバ宜
イノデアリマス、六圓以上、最高ハ此案ニ
依レバ百分ノ三ナッテ居リマスカラシテ、
合計五ニナリマスガ、百分ノ五ハ即チ一年
間十五圓デアリマス、此位ノ金額、一年ニ
日給一圓取ル労働者ニ對シテ、事業主ガ給
與スル金額、一年間ニ六圓乃至十五圓ト

云フ位ノコトハ、是迄モ無論ハ給與セラ
レテ居ルコトダラウト私共ハ思フノデアリ
マス、盆トカ暮トカ云フヤウナ場合ニ於テ
ハ、相當ノ謝意ヲ表スルト云フコトハ、普
通ノコトダラウト私共ハ思フノデアリマス
ニ、此位ノ負擔ニ對シマシテハ、苟モ事業
ニ任ズル所ノ我國ノ眞面目ナル實業家、義
俠ニ富ンダ我國ノ實業家ハ、此負擔ニ關ス
ル限り、必シモ之ヲ拒ムモノデハナカラウ
ト私ハ思フノデアリマス、寧ろ此法案ガ何
ダカ怖イヤウナ、色々ヤカマシイ規定ガア
リマシテ、之ニ違フ場合ニ於テハ、三年以下
ノ懲役トカ禁錮ト云フヤウナコトニナッテ居
ルト云フヤウナ、事業者ヲシテ不安ノ念ヲ
抱カシムルト同時ニ、労働者トシテハ又表
向好イヤウダガ、果シテ現金ヲ何時貰ヘル
ノデアラウカト云フヤウナ感ジモ、亦無キ
ニシモアラズデアリマシテ、要スルニ私ハ
此案ニ付キマシテハ、是ハ條文ヲ整理シ
テ、簡易ニシテ、一見明瞭ナ規定ニシテ、
事業者ト云ハズ、労働者ト云ハズ、此規定
ヲ明瞭ニ遵奉シテ、オ互ニ共存共榮シテ、
我國産業ノ發達ニ貢獻スル必要ガアルト思
フノデアリマス、以上ノ點ニ付キマシテ、
政府當局ノ意見ヲ質ス所以デゴザイマス(拍
手)

〔國務大臣潮惠之輔君登壇〕

○國務大臣(潮惠之輔君) 御答致シマスガ、
我國ノ法律規則ガ如何ニモ其配列ト云ヒ、
其字句ト云ヒ、複雑デアリ又難解デアアル、
是ハ國民本位ヲ旨トスル法令ノ組立デトシ
テハ宜シクナイト云フ御意見デゴザイマシ
テ、私共モ全ク左様ニ考ヘマス、今後ハ出
來ルダケ、多少ノ體裁ノ如キモノニハ拘泥
セズシテ、分リ易ク、讀ミ易ク、眞ニ國民
本位ノ法令デアアルヤウニ仕組ンデ參リタイ
ト存ジテ居リマス、其點ハ左様ニ御承知ヲ
願ヒタイト思ヒマス

尙ホ本法案ニ付キマシテノ御質問デゴザ

イマシタガ、法律ノ第八條ノ規定ハ、免稅
ノ規定デアルト云フナラバ、他ノ所ニ
持ッテ行ッテ規定スル方ガ世間ノ誤解モ招カ
ズ、又組立デトシテモ相當デハナイカ
ト云フ御趣意デアッタト存ジマス、御
覽ノ通り、法第八條ハ免稅ト差押ノ禁
止ノ範圍ヲ明ニシタモノデゴザイマス
ガ、事業主ガ積立テマスル積立金ハ、
御示ノ第十六條、第十七條ノ退職手當積立
金、又第三十條ノ準備積立金ガアリマスル
外ニ、尙ホ附則ノ第四十二條ニ參リマシテ
モ、準備積立金ノ規定ガアリマスノデ、是
等各條文全部ヲ通ジマシテ、免稅ト差押禁
止ノ範圍ヲ明確ニシマスルニ付キマシテ
ハ、寧ろ是ハ總則ニ置キマシタ方ガ適當デ
アラウト考ヘテ、總則ニ規定致シマシタ次
第デゴザイマス、ソレカラ第十七條ニ付キ
マシテ、利益ノ配當トカ、純益金トカ云フ
コトガ、大變ムツカシクモアルシ、又一面何
故勅令ナドニ讓ッタカト云フ御尋デゴザイ
マシタガ、利益配當金或ハ純益金ノ決定ハ
手續規定デアリマス爲ニ、之ヲ勅令ニ讓リ
マシタノデアリマス、利益配當金ノ類ハ、
客觀的ニ之ヲ見ルコトガ比較的容易デアリ
マスルガ爲ニ、隨テ是ハ法人ノ場合ナドニ
於テハ、利益金ト云フヨリモ配當金、表ニ
現レルモノヲ押ヘル方ガ明デアルト思ヒマ
ス、デ是ガ却テ勞資ノ紛爭ヲ豫防スル所以
デモアルト思ヒマシテ、配當金ヲ押ヘマシ
タノデアリマス、ソレカラ第十七條ノ場
合、即チ利益ノアリマシタ場合ノ積立方ナ
ドハ、如何ニモ計算ガ難解デハナイカ、此
難解複雑ヲ避ケル爲ニハ、一定ノ率デ増シ
タラバ宜シデハナイカト云フ御趣意デ
アッタト存ジマス、元來第十七條ノ計算方法
ハ、一定ノ利益ガアリマスル場合ニ、其利
益金中ヨリ一定金額ヲ控除致シマシテ、ソ
レ以上ノ金額ノ一割ノ限度ニ於キマシテ積
立テルモノデアリマシテ、サマデニ計算方

ニ難解ノ所ガアルヤウニモ考ヘラレナイノ
デアリマス、之ヲ廢メマシテ、若シ一律ニ
各事業主ニ負擔セシムルト云フコトニ致シ
マスレバ、寧ろ畫一ト云フ弊ニ墮スルノ虞
モアルノデハナイカト思ヒマス、隨テ一般
ニハ低イ程度ノ積立ヲサセマシテ、積立能
力ノゴザイマス場合ニハ、其能力ニ應ジテ
或ル程度ノ積立ヲ加ヘテ參ルト云フ方ガ、
實情ニ合フノデアアラウト考ヘルノデアリマ
ス

次ニ積立審査會ト云フモノガ無用デハナ
イカト云フコトデアリマス、退職手當ヲ支
給スルニ當リマシテハ、其労働者ノ退職原
因ノ如何ニ依リマシテハ、或ハ支給金ノ減
額トカ、極端ナル場合ニハ、全額支給シナ
イト云フ場合モ生ジ得ルノデアリマスルノ
デ、是ハ事業主ノ管理スル上カラ、又洵ニ事
情已ムヲ得ヌ場合モアリマシテ、今日ノ慣
行ニ於テモ認メラレテ居ル所デアリマス、
斯ル場合ニ於キマシテ労働者ニ不滿ガア
ル、意見ノ一致ガ見ラレズト云フコトニナ
リマシテ、サウ云フコトモ往々ニハ起ルデ
アラウト思ヒマスルガ、若シ斯様ナコトガ
起リマシタ場合ニ、其都度直チニ裁判所ニ
訴ヘサセルト云フコトニシマスルコトハ、
却テ勞資兩者ノ融合協力ヲ壞スト云フ虞ガ
アルノデハアルマイカ、又斯ル事情ハ之ヲ
判定スルノニ、平生事業ニ對シテ相當ノ理
解、通曉ヲシテ居リマスルコトガ、最も事
實ニ適スル判斷ガ出來ルト思ヒマスルノ
デ、各地方廳ニ於キマシテ、民間ノ有識者
ヲ加ヘマシタ審査會ト云フモノヲ設ケマシ
テ、之ニ掛ケテ參ル方ガ、労働者ノ爲ニ
モ、事業主ノ爲ニモ、能ク實相ガ得ラレルノ
デハナイカ、斯様ニ考ヘマシテ積立審査會
ト云フモノヲ設ケマシタ次第デアリマス
最後ニ本法ヲ提案スルマデニ、事業主ナ
リ、労働者ナリノ意見ヲ聽イタコトガアル
ノカドウカト云フ御尋デゴザイマシタガ、

此法案ハ本ヲ中シマスレバ、失業對策委員會カラ建議セラレマシタ要綱ヲ本トシテ立案ヲシタノデゴザイマス、失業對策委員會ノ委員ノ中ニハ、民間側ノ方トシテハ、事業主ノ側ト認メラレル方モアリマスルシ、又労働者ノ側デアルト認メラレル方モアルノデアリマス、又是等ノ雙方ノ方々ノ意見ハ、對策委員會ニ於テ十分ニ御述ベニナッテ居リマスルシ、其以後世間ニ廣ク一般ニ相當論議ガ此問題ニ付テ行ハレテ居リマスルノデ、民間ノ聲モ相當聽キ得タコト考ヘルノデアリマス、唯之ヲ正式ニ民間ノ某團體ニ諮問致シタト云フヤウナコトハナイノデゴザイマスルガ、併シ官民雙方ノ意見ハ、大凡此案ヲ見ラレテ聽クコトガ出来テ居ルモノト信ジテ居ルノデゴザイマス、尙ホ又私ノ答デ漏レマシタリ、或ハ補足スベキ所ハ、更ニ私ナリ政府委員カラモ御答ヲ申上ゲルコトニ致シマス

○村岡吾一君 此席ヨリ發言ヲ御許ヲ願ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○村岡吾一君 尙ホ御尋致シタイコトハ澤山ゴザイマスルガ、詳細ハ委員會ニ讓ルコトト致シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切りマ

○議長(富田幸次郎君) 加藤鏖五郎君

(加藤鏖五郎君登壇)

○加藤鏖五郎君 只今上程サレテ居リマスル退職積立金及退職手當法案ハ、先刻モ御話ガアリマシタ如ク、條文頗ル難解デゴザイマシテ、複雑ヲ極メテ居リマスガ故ニ、私ハ何レ詳細ノ點ハ委員會ニ於テ政府ト質問應答ヲ致シタイト思ヒマスガ故ニ、此場合ハ極メテ簡單ニ、極ク此法案ノ大綱骨子

ニ付キマシテ質問ヲ致シ、政府ノ意見ヲ質問シタイト思フ者デゴザイマス

先ヅ第一ニ伺ヒタイト思ヒマスコトハ、茲ニ御提出ニナリマシタ此法案ハ、以前政府ガソレ相當ノ機關ニ御諮問ニ相成リマシタモノト、内容ニ於テ大ナル相違ヲ來シテ居ルノデハナイカ、即チ私ノ聞ク所ニ依リマスレバ、最初政府ハ失業對策委員會ニ其要綱ヲ示シテ、是ノ決議ニ依ッテ立案ヲサレタ、而シテ後社會局參與會議ニ諮問シテ、其結果ニ依ッテ此法案ヲ茲ニ提出サレタノデアルト聞クノデアリマスガ、其間ニ、曩ニハ百分ノ五トアリ、今はニハ百分ノ七トアリ、尙ホ條文中ニ資本家事業主ガ積立率ヲ、少クモ百分ノ二トシテ、少クモト最小限ヲ規定シタルガ如キ、内容ガ頗ル相違シテ居ルヤウニ思フノデアリマスガ、是レ果シテ事實ナリヤ否ヤ、若シ然リト致シマスレバ、昨今新聞ニ全產聯ト社會局ト盛ニ論争シテ居ル、即チ斯様ナ機關ニシテ提出シタト云フコトハ、背信行爲デハナイカト言ッテ、彼此レ論議ガアルノデアリマスガ、ソレハ兎ニ角ト致シマシテ、ソレ相當ノ機關ニ諮リ、其決議ニ依ッテモノヲ、茲ニ獨斷ニ依ッテ内容ガ違タモノヲ提出サレルト云フコトハ、是ハ背信行爲呼バハリサレテモ已ムヲ得ナイヤウニ思フノデアリマスガ、私ハ茲ニ果シテ内容ハ諮問決議ト相違セリヤ否ヤ、此點ヲ政府ニ質問シタイト思フノデアリマス

第二ニ御尋致シタイト思ヒマスルコトハ、此法律ヲ制定シタル結果ハ、政府ガ目下力ヲ入レツ、アル所ノ中小工業ノ助長政策ト、矛盾背馳スルヤウナコトニナリハシマイカ、

私ハ我國ノ中小工業家ガ我が産業界、貿易ノ上ニ於テモ、多大ノ貢獻ヲ爲シツ、アルコトヲ知ルノデアリマス、然ルニ此中小工業者ガ疲弊困憊ノ極ニ達シテ居ルノデアリマスカラ、我が議會ニ於キマシテモ何トカシテ之ヲ救済助長シナケレバナラスト云フ聲ガ盛ニ相成リマシテ、其ノ方法トシテ資金ノ融通ヲスルガ爲ニ、今回商工組合中央金庫法案ナルモノガ議會ニ提案サレ、今審議中デアルノデゴザイマス、是ハ即チ疲弊セル中小工業者ニ對シテ救済助長ノ意味ニ外ナラスノデアアルノデアリマス、我が中小工業家ガ——世界ニ於テハ大工業ガ起リマスレバ、是ハ滅ビルノデアアルニ拘ラズ、

我が日本ノ中小工業者ハ特異ノ性能ヲ以テ、我が産業界ニ多大ノ貢獻ヲ致シテ居ル、私ノ知ル範圍ニ於キマシテモ、我が輸出貿易ノ約六割五分ト云フモノハ、此中小工業者ノ手ニ依ッテ生産セラレタル所ノモノデアアルノデゴザイマス、現ニ此法律ガ實行致サレマシタナラバ、私共ノ縣、愛知縣ノ尾西方面ニ於ケル織物業者ノ如キハ、多大ノ苦痛ヲ加ヘルコトデアアラウト思フノデアリマス、殊ニ昨今農村ノ工業化ト云フモノガ、此議會ニ於テモ叫バレテ居ルノデアリマスガ、即チ此法律ガ實施サレマスレバ、ソレ相當ノ苦痛ヲ増スコトニ相成ルノデアリマス、私ノ承知致シタル所ニ依リマシテモ、此積立金ハ百分ノ二ツ、デアリマシテモ、一年ニ約二千二百六十萬圓ニ達スルト云フコトデアアル、固ヨリ是ガ中小工業者ノミデハゴザイマセヌケレドモ、此一年二千二百六十萬圓ノ大部分ヲ占ムルデアアラウト思フノデアアル、一面ニ於テ資金ノ融通ヲスルガ爲ニ、政府ガ商工中央金庫ノ施設ヲ爲シ、

一面ニ於テ之ヲ苦シメル所ノ政策ヲ行フト云フコトハ、是ハ如何ナモノデアリマセウカ、是ハ商工大臣ニ一ツ其御所信ヲ伺ヒタイト思ヒマス、一面ニ於テ火ヲ入レ、一面ニ於テ水ヲ差ス、冷ヤス、暖メル、ドチラニ向クノデアリマスカ、之ヲ私ハ伺ヒタイト思ヒマス

第三ニ私ガ伺ヒタイト思ヒマスルコトハ、何故ニ此法案ニ於テ官業ヲ除外シタカト云フコトデアアル、即チ此第十條ニ「本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セズ」トアルノデアアル、政府自ラ斯様ナ社會立法ハ、範ヲ民間ニ示サナケレバナラスノデアアルニ拘ラズ、民間ガケヤラシテ、政府ハ此適用ヲ受ケヌト云フコトハ、如何ナルコトデアアルノデアリマスカ、私ハ之ニ對シテ内務大臣ノ御所信ヲ伺ヒタイト思フノデアアル

第四ニ伺ヒタイト思ヒマスルコトハ、本法ニ於テ三十人以上ニ限定セラレタル理由如何デアアル、即チ第一條ニ於テ「常時三十人以上ノ労働者ヲ使用スルモノニ之ヲ適用ス」トアリマシテ、三十人ト限定サレタル其根據如何、初メ失業對策委員會デアリマスルカ、其時ニ政府ノ示サレタルモノハ、十人以上トアツタト思フノデアアル、之ヲ三十人ニ變ヘラレタル理由如何、思フニ是ハ漸ヲ追ウテ、此法律ヲ實施シタイト云フ趣意デアアラウト思フノデアリマスガ、果シテ然ラバ之ヲ五十人トシテハドウデアアルカ、此三十人ニサレタル根據如何、之ヲ私ハ政府ニ伺ヒタイト思フノデアアル

第五ニ伺ヒタイト思ヒマスルコトハ、先刻モ少シク之ニ觸レラレタヤウデアリマスルガ、利益配當及ビ超過利益ノ積立金ヲ爲スコトニ付テハ、是ハ勞資ノ間ニ爭鬭ノ種

ヲ作ルコトニ相成リハシマイカ、即チ此條文ノ第十七條ニ依リマスルコト云フト、先刻モ御話ガアリマシタ如ク、頗ル難解デアリマスルガ、是ハ要スルニ政府ガ法人ニアッテハ、五朱以上ノ配當ヲシタル時ハ其十分ノ一、個人所得ニアリマシテハ、五千圓以上ノ儲カッタ場合ハ其十分ノ一、之ヲ積立テ、斯ウ云フノデアリマシテ、理窟ト致シマシテハ、机上ノ議論ト致シマシテハ、五朱以上ノ配當ノアツタ場合、五千圓以上ノ利益ガアツタ場合ハ、積立テ置イタ方宜イト云フノハ、是ハ洵ニ理論ニ於テハ然リデアリマスガ、之ヲ實際行ヒマシタ場合ニ於テハ、勞働者ノ方ヨリ致シマスレバ、何故モウ少シ多ク配當ヲセナイカ、斯ノ如ク配當ヲセスト云フノハ、不都合ナコトデアルト云フノデ、營業ノ内部ニマデ立入ルコトニナルノデアリマシテ、之ニ依ッテ勞資爭鬭ノ端ヲ私ハ啓クモノデアラウト思フノデアリマスルガ、之ニ對スル政府ノ所見如何、殊ニ個人所得ニ至リマシテハ、五千圓以上トアルノデアリマスルガ、何ニ依ッテ此純益五千圓以上ト云フコトヲ算定サレノデアリマスガ、是ハ稅務署ノ査定ニ待ツノデアルト言ハレルカモ知レマセヌガ、元來營業收益稅ナルモノハ、私ガ十數年前ヨリ叫ビマシタ如ク、眞ノ收益ヲ發見スルコトハ困難デアル、是ニ至リマシテ、何ニ依ッテ五千圓ト云フ根據ヲ以テ——此五千圓以上ノ收益ガアツタ場合ハト云フコトハ、頗ル議論トシテハ明白デアリマスルガ、實際問題トシテハ頗ル複雑デアリマス、是ハ必ズヤ勞資爭フ所ノ種ヲ蒔クコトデアリマシテ、折角我ガ産業ノ平和、勞資ノ間ノ圓滿ナルコトヲ破壞スルコトニ相成ルノデアリマスルガ、之ニ對スル政

府ノ所見如何

第六ニ伺ヒタイト思ヒマスルコトハ、第一條ニアリマスル「主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限リ本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得」トアリマシテ、本法ノ適用除外事業ノ種類ハ、此處ニ明確ニ擧ゲテナイノデアリマスガ、是ハ大事ナコトデアリマスルガ故ニ、何々ガ本法適用除外事業デアルカト云フコトヲ、出來レバ明確ニサレ、何ガ故ニソレヲ除外シタカト云フコトヲ明ニサレタイト思フノデアル

次ニ伺ヒタイト思ヒマスルコトハ、齊シク第一條ニゴザイマスガ、第一條ノ三項「其他勅令ヲ以テ指定スル事業」ト云フノハ、何ノコトデアリマスルカ、是モ明確ニ私ハ伺ハナケレバナラスト思ヒマス、又其理由ヲ私ハ伺ヒタイト思ヒマス、以上極メテ簡單デゴザイマスルガ、是ハ本法ニ對スル骨子デゴザイマスルガ故ニ、丁寧ニ其理由ヲ示シテ御説明アラシコトヲ希望致スノデゴザイマス（拍手）

（國務大臣潮惠之輔君登壇）

○國務大臣（潮惠之輔君） 只今ノ御尋ノ中デ、本案ガ何カ外部ニ内示シタ所ト違ッテ居ルデヤナイカ、サウ云フ世間話モアルガト云フ御尋デアリマシタガ、此案ノ成立チニ付キマシテハ、先刻申上ゲマシタヤウニ、別ニ内示ト云フ譯デヤゴザイマセヌガ、失業對策委員會、參與會議ナドト云フモノニ於テ相談ヲ致シタト云フコトハアルノデゴザイマス、併シソレガ内示デアアルナシハ、是ハ姑ク別問題ニ致シマシテ、決シテ其當時ノ精神ト根本ノ趣意ニ於キマシテハ、此法案ハ變ッテ居ラナイノデアリマス、例ヘバ少クトモ百分ノ二トカ、或ハ百分ノ七トカ

申シマシテモ、法定義務ヲ命ズルノハ百分ノ二ダト云フコトハ明カナノデアリマシテ、若シソレ以上ニ積立テヨウト云フ事業主ガアリマシタ時ニハ、是ハ妨ゲナイト云フ趣旨ニナルノデアリマシテ、當初カラ考ヘテ居リマシタ、百分ノ二ヲ法定シテ積立テ、貫ヒタイト云フ精神ニ於キマシテ變リハナイノデアリマス、百分ノ七ト致シマシテモ、之ヲ無制限ニ何モ置キマセスト云フト、或ハ却テ免稅金額ノ高ガ無限ニ上ル虞モアリマスシ、又差押ヲ禁止シマスル關係上、申サバ不融通物ガ非常ニ多クナル虞モアリマスシ、或ル程度ニ於キマシテ、此稅ノ關係、差押ノ關係デ制限ヲ付スルト云フコトハ、是ハ已ムヲ得ナイノデアラウト考ヘテ居リマス、之ヲ要シマスルノニ、決シテ其立法ノ精神ニ於キマシテ、他デ申サレルヤウニ背信ヲシタトカ、何トカ云フコトハ毛頭ナイ積リデ居リマス

ソレカラ中小工業者ニ迷惑ヲ掛ケルノデハナイカト云フ御話デアリマシタガ、中小工業者ノ保護、是ハ固ヨリ必要デゴザイマシテ、有ユル方面、有ユル方法カラ、ソレヲ講ジナケレバナラスト存ジマスルガ、本案ノ三十人以上ト定メテ居ル工業ノ點ニ於キマシテハ、中小工業者ニ對シテ左マデノ苦痛ハナイノデアラウト思ヒマス、ヤハリ事業主ノ積立モ、原則トシテ百分ノ二ノ程度ニ止ルノデアリマシテ、此程度ノ負擔ハシテ戴キタイ、シテ貫ッテモ非常ニ工業者ノ苦痛ニナルノデモアルマイ、又之ヲ保護スル途ハ他ニ於テモ色々講ズベキデアル、斯様ニ考ヘテ居リマス

ソレカラ官業ニハ何故適用セヌカト云フ御話デゴザイマシタガ、官業ハ今日各、ソレ

ゾレノ立場デ、獨自ナ發達ヲ致シテ參ッテ居リマシテ、今之ヲ此法制ノ下ニ強制シテ、法制化スルダケノ必要ガナイノデヤナイカ、又慣行上カラ申シマシテモ、官業等ニ於キマシテ多數ノ解雇ナド致ス場合ニハ、特別ノ手當ナド實行致シテ居ルコトハ御承知ノ通りデアリマス、又將來モ斯ル類似ノ場合ニ於キマシテハ、又同様ノ手段ガ執ラレ得ルデアラウト考ヘ得ルノデアリマス、而モ是ハ各、議決機關ノ審議ヲ經テ、豫算ヲ執行スル問題デアリマスルカラ、積立金制度ヲ法制化シテ、支給ヲ確保シテ置クト云フ程ノ必要モナカラウ、斯様ニ考ヘマシテ、官業ヲ除外シテ居ルノデアリマス

ソレカラ三十人以上ト極メタ點ニ付テデゴザイマス、或ハ五十人ニモシタラバドウカト云フ御質問デゴザイマシタガ、併シ此點ハ考ヘ方ニ依ッテハ兩様ニ考ヘラレルノデゴザイマシテ、或ル考ヘ方ハ三十人デハ高イカラ、五人、十人デモ適用シロト云フ御意見モアラウト思ヒマス、ソレカラ今御示シノアツタヤウナ、五十人ガ宜シイト云フ御意見モアラウト思ヒマス、併シ三十人程度ノ工場デアリマス、三十人以上ヲ雇ヒマスルモノハ、或ハ其設備ノ關係ナリ、資本ノ關係ナリ、組織ノ關係、是等ヲ綜合シテ考ヘマスルト、先ヅ近代的ノ工業組織ニナッテ居ル形ヲ具ヘテ居ルモノト見テ宜シイト思フノデアリマス、デゴザイマスルカラ、當時三十人以上ヲ使用スルヤウナ工場ニ於キマシテハ、是ダケノ負擔ハシテ貫ッテ宜シイト云フコトヲ極メタノデアリマス、御示ノ通りノ五十人トカ云フコトモ、一ツノ御說デハアルト思ヒマス、又此反對ニ十人以上ハヤレト云フコトモ、一ツノ御說ト

思ヒマスルガ、政府ハ餘リ無理ノ行カナイヤウニ、大體ノ所デ漸進シテ行ク方ガ宜シイト云フノデ、之ヲ三十人ニシテ、五十人ニ今極メルト云フコトハ少シ宜シクナイ、

ス様ニ考ヘマシテ、三十ト云フ所ヲ兩方面カラ見テ妥當ナモノト考ヘタノデアリマス

ソレカラ利益積立ノコトニ付テノ御尋ネガアリマシク、是モ先刻一寸觸レマシタヤウニ、一般ニ於キマシテハ百分ノ二、併シ或ル程度ノ利益ノ上ツタ場合ニハ、事業主ノ負擔能力モ増ス譯デアリマスルカラ、左様ナ場合ニ於テハ百分ノ三ト云フコトノ利益積立ハシテ貰ヒタイ、之ニ依ッテ労働者ノ福祉ヲ増進シヨウト云フノデアリマシテ、此趣旨ガ能ク徹底ヲ致シ、運用ガ誤ラナケレバ、勞資ノ間ニ此爲ニ紛争ヲ起スト云フヤウナコトモアルマイト存ジテ居ルノデゴザイマス、尙ホ純益金ノ計算等ニ付キマシテ、何故ニ五千圓ニシタカト云フヤウナ御尋モアリマスルガ、此點ハ政府委員カラ詳シク御答ヲ申上ゲルコトニ致シマス

ソレカラ次ニハ第一條ノ第二項ニ何カラ除外スル規定ヲ設ケテ居ルガ、ドンナモノカ、此點モ委員會等ニ於テ詳シク申上ゲヨウト思ヒマスルガ、大體ノ目安ト致シマシテハ、法文ニ書イテアリマスルヤウニ、或ハ其事業ノ種類ニ、或ハ其規模ニ依リマシテ云々ト致シテゴザイマスルガ、是ハ或ル種類ノ製絲トカ、織物トカ、或ハ石炭山トカ云フヤウナモノニ付キマシテハ、是ハ一ツ此條文ニ依ッテ考慮ヲ致スベキ點ガアルノダラウト考ヘテ居リマス

ソレカラ尙ホ勅令ヲ以テ指定スル事業ハ何カ、是ハ只今ノ所デハ直チニ此法ヲ施行スル際ニ、勅令デ指定シヨウト云フ事業ハ

考慮致シテ居リマセヌガ、是ハ追々研究致シマシタラバ、此法文ヲ通シテ置イテ載ケバ、之ニ依ッテ勅令ヲ運用シテ参リタイト存ジテ居リマス

〔國務大臣小川郷太郎君登壇〕

○國務大臣(小川郷太郎君) 私ハ加藤君ノ御演說ノ半バニ参リマシタノデ、或ハ御尋ノ要點ヲ聽漏ラシテ居ルカモ知レマセヌ、御趣旨ハ、中小工業ヲ擁護スルト云フ方策ヲ執リツ、モ、尙ホ此法ヲ適用スレバ、中小工業者ヲ壓ヘルコトニナリハセヌカト、斯ウ云フヤウナ御趣旨ノ御陳述ト了解致シマス、勿論私共ハ中小工業ノ維持發達ヲ企圖致シマシテ色々ノ方法ヲ講ジテ居ルノデアリマス、本法ヲ適用致シマシテモ、中小工業ガ打撃ヲ受ケルモノトハ思ッテ居リマセヌ、唯一番ノ御論旨ハ、三十人以上ノ工場、鑛山等ニ適用スルト云フノ無理ガアリハセヌカト云フ御考ダラウト思ヒマス、無理ノナイ所デ行クノデアリマスガ、若シモソレガ無理デアアルヤウナコトガアリマス場合ニ於キマシテハ、實情ニ付キマシテ、内務省トモ能ク協議ノ上デ、適當ニ善處スル考デアリマス、左様御諒承ヲ願ヒタイノデアリマス

〔政府委員廣瀨久忠君登壇〕

○政府委員(廣瀨久忠君) 第十七條ノ五千圓ノ根據ニ付テノ御尋デゴザイマスルガ(加藤錄五郎君「ソナコトヲ聞イテ居リマセヌ」ト呼フ)此五千圓ハ事業主法人ナル場合ノ百分ノ五ニ相當スル金額ト致シマシテ、吾々ノ方デ色々調査ヲ致シテ決定ヲ致シタモノデゴザイマス、御承知ノヤウニ臨時利得稅ノ場合ニ於キマシテモ、法人ノ利得ニ對シテ個人ノ利得ヲドノ程度ニ見ルノ

ガ、兩者ノ「バランス」ヲ得ルカト云フコトニ付テハ、隨分御研究ニナリマシテ、或ル程度ノ標準ヲ得タヤウニ伺ッテ居リマス、ソレト同ジヤウナ意味ニ於テ、法人ニ於テ百分ノ五ト云フコトデアアルナラバ、之ヲ個人ノ場合ニハ、ドノ程度ニ見クラ宜シイカト云フコトニ付キマシテハ、色々研究ヲ致シマシタガ、先ヅ五千圓位ガ適當デアラウト云フコトニ決定ヲ致シマシタ、其大體ノ論據ト致シマシテ、詳細ニ委員會等ニ於テ申上ゲタラバ宜カラウト思ヒマスガ、極ク分

リ易イ一點ヲ申シマス云フト、個人ノ事業ニ於キマシテ、十萬圓ノ事業ヲ假定致シマシテ、十萬圓ニ對シテ五分、其五千圓ヲ以テ此標準ト致シマシタ、然ラバ個人企業ノ十萬圓ヲ何故ニ取ツタカト云フコトヲ申上ゲマス、大體ノ見當デハ、五十人以上ノ個人企業ガ約二千、千九百餘アリマス、之ニ對シマシテ五十人未満三十人ニ至ル所ノ個人企業ガ約四千アリマス、大體此十萬圓ノ個人企業ハ五十人使用位ノ工場ニ相當致シテ居リマス、隨ヒマシテ、此十萬圓ノ企業ヲ一應計算ノ基礎ニ取リマスルコトハ、個人企業ニ對シマシテハ、比較的大キナモノヲ取ツタコトニナルノデアリマシテ、此點ニ於キマシテモ、出來得ル限り個人企業ノ、中小企業ノ壓迫ヲ避ケヨウト致シマシテ、此五千圓ノ根據ヲ決メテ、之ヲ標準ト致シタ次第デアリマス、尙ホ詳細ノ點ニ付キマシテハ、委員會等ニ於テ申上ゲタイト思ヒマス

〔加藤錄五郎君登壇〕

○加藤錄五郎君 何レ詳細ナル點ニ付キマシテハ、委員會ガ質疑應答ヲ重ネベ明白ニナラナイト思ヒマスガ、只今私ノ御尋致シマシタル第一ノ諮問シマシタ機關、内務

省社會局ガソレノ御諮問ニ相成ツタ其内容トハ、餘程相違シテ居ルデハナイカト云フ私ノ質疑ニ對シマシテ、只今内務大臣ハ、法ノ精神ハ失ハヌト申サレタノデアリマス、勿論デアリマス、唯私ガ御尋致シマシタノハ、百分ノ五トアツタノヲ百分ノ七トサレタト云フコトハ、是ハ大ナル變更デハナイカト、斯ウ云フ質疑デアッタノデアリマス、是ハ百分ノ五デアツテモ七デアツテモ、此法ノ精神トハ變ラヌナドト云フコトハ、洵ニ是ハ亂暴千萬ナル御答辯デアルト思フノデアリマス、而シテ私ガ何故此本法ヲ實施スルニ當

テ、官業ヲ除外例ニ致シタカト云フ質疑ニ對シマシテ、官業ノ方ハソレ相當ノ機關ガ、ソレ相當ノコトヲ致シテ居ルガ故ニ、此慣行ニ依ッテ差支ナイト云フヤウナ意味ノ御答辯ガアツタノデアリマス、若シ夫レ慣行ニ依ッテ宜シイト云フコトデアアルナラバ、民間ニ於キマシテモ、不完全ナガラ慣行ハアルノデアリマス、併シ慣行ニ依ッテ宜イト云フ譯ニハ参リマセヌ、私ノ知ル所ニ依リマスレバ、鐵道ニ於テハ共濟組合ト云フモノガアリマシテ、鐵道ノ従業員ガ之ニ入ッテ居ル譯デアリマスルガ、其内容ヲ見マスル時ニ於テ、此掛金ニ於テ政府ハ五、従業員ハ六ト云フコトデ、政府ガ少クテ従業員ニ多イ率ヲ課シテ居ルヤウニ思ッテ居ルノデアリマス、然ルニ今度此政府ノ御出シニナリマシタモノハ、先刻モ申シマシタ如ク、労働者ノ方ハ二、事業主ハ五ト云フアルノデアリマス、政府ガ自ラ多ク負擔ヲ致シマシテ、サウシテ政府ノ官業ノ相當ノ機關ノアルノモ宜シイノデアリマスルガ、政府ガ少イ負擔ヲサレテ、労働者ニ多クサス、而シテ此民間ニ強ユル

モノニ當リマシテハ、勞働者ガ二事業主
ガ五ト云フ、アベコベノ負擔ヲ負ハシメテ
居ルノデアリマス、私ハ此民間ノ事業者ニ
負ハシメルコトガ多イ少イ言フノデハナ
イ、政府ノヤラレルコトハ、自分ハ安キニ
置イテ、民間ノ事業者ニ重キヲ置クト云フ
コトハ、是ハ何事デアアルノデアリマス、

カ、其點ヲ具體的ニ承リタイト思フ、何レ
是等ノ問題ニ付キマシテハ、長時間ニ互ッテ
質疑應答ヲ重ネナケレバナラヌノデアリマ
スルガ故ニ、私ハ以上申シマシタ再質問ノ
御答辯ヲ待チマシテ、私ノ質疑ハ終了致ス
コトニ致シマス(拍手)

〔政府委員廣瀬久忠君登壇〕

○政府委員(廣瀬久忠君) 只今内務大臣ノ
答辯中足リナイ點ガアリマシタヤウデ、御
質問ガアリマシタノデ、其點ノ御答ヲ申上
ゲマスガ、失業對策委員會等ニ於テ審議サ
レマシテ、内務省ニ答申セラレタモノニモ、
百分ノ五ト云フコトハ書イテナイノデアリ
マス、唯一般のニハ百分ノ二ヲ積立テ、尙
ホ一定ノ條件アル場合、即チ年五朱以上ノ
配當アル場合ニ於テ、其五朱ヲ超ユル金額
ノ一割ヲ限度トシテ、サウシテ百分ノ三ヲ
積立テル場合ガアル、即チサウ云フ條件ガ
成就致シマスレバ、ソコニ一般の百分ノ
二ト合セテ百分ノ五ニナルト云フ結果ニハ
ナリマスガ、百分ノ五ト云フコトハ特ニ書
イテナイノデアリマス、併シ今回第八條
ニ於テ百分ノ七ト云フ數字ガアリマスノデ、
兎角問題ヲ起シマシテ、甚ダ遺憾ニ思ッテ居
リマスルガ、其意味ハ先程申上ゲマシタ
ヤウニ、此十六條並ニ十七條ノ積立、是ハ
全部合シテ百分ノ五ニナルノデアリマスル
ガ、其積立以外ニ不足ノ場合ニ第四十二條、
並ニソレヨリ先ノ第三十條、是等ニ於テモ
或ル程度ノ積立ガアリ得ルノデアリマシテ、
斯ウ云フ積立ガアリマシタ場合ニハ、其取
扱トシテハ免稅モ致シ、或ハ差押禁止等モ
致サウト云フ、其範圍内ニ入レル、其範圍
内ニ入レル爲ニ、特ニ百分ノ二ノ餘裕ヲ取ッ
タト云フ意味デアリマシテ、其處ニ何等他

ニ意味ガアル譯デアアリマセヌ、左様ナ次
第デアリマシテ、本法ノ根本精神ニ付テハ、
各委員會等ニ相談ヲ致シタモノト異ツク點
ハナイト思ッテ居ルノデアリマス、又官業ニ
付テ御質問デアリマシタガ、官業ニ付テ本
法ヲ適用致シマセヌノハ、官業ニ於キマシ
テハ、民間ノ事業者ノ如クニ、退職手當支拂
ノ確保ノ爲ニ特ニ積立ヲ致シマセヌデモ、
政府ノ豫算デ以テ支拂ガ確實ニ出來ルノデ
アリマスルカラ、其意味ニ於テモ官業ニハ
積立金ヲ本旨ト致シテ居リマスル本法ヲ適
用スル必要ハナイト認メタノデアリマス、
又共済組合等ニ付テノ御議論モアリマシタ
ガ、共済組合ノ外ニ政府ノ事業ニ於テハ
政府ノ退職手當ナルモノガ別ニアリマ
シテ、サウシテ政府ノ事業ノ大體ハ、
之ヲ達觀致シマスレバ、本法以上ノ待遇ヲ
大體ニ於テ致シテ居ルノデアリマス、サウ
云フ譯デアリマシテ、而モ官業ノ共済組合
等ニハ、ソレノ勅令ヲ以テ共済組合ノ内
容ニ付テノ規定モ致シテ居リ、ソレノ
制度ガアリマスルカラ、本法ヲ強テ之ニ適
用スルコトハ、却テ混亂ヲ來ス結果ニナリ
マスノデ、是ガ適用ヲ避ケテ次第デアリマ
ス

〔國務大臣小川郷太郎君登壇〕

○國務大臣(小川郷太郎君) 三十人以上ノ
工場鑛山等ニ本法ヲ適用スルコトガ、適當
デナイト認メラレルモノニ付キマシテハ、
内務省ト協議ノ上デ適當ニ善處スルト、斯
ウ申上ゲタノデアリマス、其適當ニ善處ス
ルト云フコトガ、餘リ抽象的デ分ラスト云
フコトデアリマス、餘リ抽象的デ分ラスト云
フコトデアリマス、斯様ナル爭議ノ發生ヲ
見マスルコトハ、資本主及ビ勞働者トモ物

現在我國ノ工業經營ガ資本主義經濟組織
デアリマシテ、資本主ハ成ベク勞働賃金ヲ
低下シテ、生産費ノ低減ヲ望ミ、勞働者ハ
賃金ノ増額ヲ要求シ、待遇ノ改善ヲ求ムル
等、資本主ト勞働者ノ間ニ動モスレバ意思
ノ疏通ヲ缺キマシテ、勢ノ赴ク所遂ニ「サボ
タージュ」「ストライキ」ノ戰術ヲ以テ經濟
闘爭ヲ致シマス、資本主義ニ於テハ無條件
解雇ヲ以テ之ニ應戰スルト云フ場面ガ、往
往ニシテ吾人ノ眼前ニ現レルコトハ事實デ
アルノデアリマス、斯様ナル爭議ノ發生ヲ
見マスルコトハ、資本主及ビ勞働者トモ物

スレバ、中小工業者ガ非常ニ迷惑スルト云
フヤウナコトガ認メラレマスレバ、即チ本
法ノ適用ヲ除外致シマシテ、或ハ五十人以
上ノモノニ適用スルト云フヤウナコトガ起
ルノデアリマス、其事ニ付キマシテ能ク内
務省ト協議ノ上デ、適當ニ中小工業者ヲ痛
メナイヤウニ善處スルト申上ゲタノデアリ
マス

○議長(富田幸次郎君) 岡幸三郎君

〔岡幸三郎君登壇〕

○岡幸三郎君 本員ハ退職積立金及退職手
當法案ノ上程セラル、ニ當リマシテ質疑ヲ
試ミタイト存ジマス、前ニ質疑ヲ致サレマ
シタ所ノ村岡君若クハ加藤君ニ依ッテ、本員
ガ質疑ヲ試ミントスル其大部分ハ、既ニ質
疑ガ試ミラレタノデアリマス、併ナガラ
其質疑ノ内容ニ至リマシテハ、吾々ト非常
ニ觀點ヲ異ニ致シテ居リマス、又政府當局
ノ答辯ニ於キマシテモ、必シモ吾々ハ承服
スルコトガ出來ナイノデアリマスルカラ、
私ハ茲ニ極メテ簡單ニ、吾々ノ質疑ヲ致サ
ント欲スル所ヲ、當局ニ御尋ラスル次第デ
アリマス

現在我國ノ工業經營ガ資本主義經濟組織
デアリマシテ、資本主ハ成ベク勞働賃金ヲ
低下シテ、生産費ノ低減ヲ望ミ、勞働者ハ
賃金ノ増額ヲ要求シ、待遇ノ改善ヲ求ムル
等、資本主ト勞働者ノ間ニ動モスレバ意思
ノ疏通ヲ缺キマシテ、勢ノ赴ク所遂ニ「サボ
タージュ」「ストライキ」ノ戰術ヲ以テ經濟
闘爭ヲ致シマス、資本主義ニ於テハ無條件
解雇ヲ以テ之ニ應戰スルト云フ場面ガ、往
往ニシテ吾人ノ眼前ニ現レルコトハ事實デ
アルノデアリマス、斯様ナル爭議ノ發生ヲ
見マスルコトハ、資本主及ビ勞働者トモ物

質上精神上大ナル損失アルノミナラズ、國家モ亦其損害ヲ負擔シナケレバナラナイノデアリマス、果シテ然ラバ現在ノ我國ニ於テ工業經營ヲ爲スニ當リマシテハ、先ヅ勞資ノ協調ヲ第一ニ考慮致サネバナリマセヌ、政府當局モ御同意デアルト信ジマス、果シテ然ラバ勞資ノ對立ハ、之ヲ如何ナル方法ヲ以テ緩和スレバ宜イカ、爭議ノ發生ハ如何ニスレバ防グコトガ出來ルカト申シマスレバ、先ヅ勞働者側ノ主張ト致シマシテハ、國家ノ總テノ生産機關ヲ社會ノモノトシテ、社會生産ヲ以テ解決策トスル急進論者モアリマス、又社會ノ缺陷ヲ改良シテ、勞働者ノ幸福ヲ増進スルト云フ主張モアルヤウデアリマス、又資本主ト協調シテ、漸進的ニ勞働者ノ收入ノ増加及ビ地位ノ向上ヲ圖リ、以テ勞働爭議ヲ避クルノガ得策デアルト主張スル、穩健ナル意見モアリマスルガ、要スルニ本員ノ考ト致シマシテハ、政府ハ勞資兩者主張ノ中庸ヲ採リ、最モ公平ニ法規ヲ以テ之ヲ律シ、勞働爭議ノ絶滅ヲ期セラレンコトヲ望ム者デアリマスルガ、此意味ニ於テ退職積立金及手当法案ノ提案セラレマシタコトハ、洵ニ適當デアルト思料致シマス、何トナレバ本法實施ノ場合、少クモ退職者ハ失業ト同時ニ生活ノ苦痛ヲ受クルコトヲ防止スル上ニ、最モ效果的デアリ、又社會政策的の見地ヨリ見マシテモ、極メテ適切ナル法案デアルト信ジマス、本案ノ趣旨ニ至極同感デアリマスルガ、其立案ノ内容ニ至リマシテハ、十分ナル質疑ヲ試ミルニアラザレバ、不可解ノ點ガ多クアルノデアリマス、之ヲ要約シテ簡單ニ質疑ヲ致シマスルナラバ、本法ノ適用範圍ヲ當時三十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノトセラレテ

居ルノデアリマスガ、政府ハ常ニ小工業者ノ保護ヲ必要トスルト云フコトヲ主張セラルルノデアリマスガ、此三十人ノ使用者ヲ使用スル所ノ工場ニ適用スルト致シマシタナラバ、其實情ハドウデアアルカト申シマスルト、三十人位ノ勞働者ヲ使用スル工場ノ事業主ト云フモノハ、常ニ勞働者ノ仲間ニ立チ混ジテ、サウシテ勞働ニ從事シテ居ルト云フノガ、今日小工場ノ實情デアリマス、然ルニ此退職積立金及手当法案ノ上カラ見テ見マスト、是ハ年々積立金ヲ致シマシテ、サウシテ政府提案ノ此積立金ト云フモノハ、極メテ不確定ノ積立金デアアル、其計算ガ非常ニ煩瑣デアリ、且ツ複利ノ計算等ヲ致シマスニ於キマシテハ、到底此小サナ工場ヲ經營スル者ハ、其勞力、其煩瑣ノ點ニ於テ耐ユル所デナイト、私ハ斯様ニ考ヘル次第デアリマス、政府ハ一面ニ小工業者ヲ保護スルト同時ニ、反對ニ本法ニ於テ小工業者ヲ絶滅スル、隨テ斯様ノ煩瑣ノ此適用ヲ、小工業經營者ニスルト云フコトデアリマスレバ、我國ノ中小工業ノ盛衰ニモ多大ノ關係ガアルト私ハ考ヘルノデアリマスガ、政府當局ハ果シテ如何ナル信念ヲ御持チニナッテ居ルカ、是ガ第一問デアリマス

ソレカラ此勞働者及ビ事業主ノ積立金ハ、是非共確定的デナクテハナリマセヌ、之ヲ不確定的ノ提案ヲ爲サレタ理由ニ付キマシテハ、内務大臣其他ノ政府委員ヨリ、此壇上ニ於テ御説明ガアリマシタケレドモ、ドウシテモ吾々ハ承服スルコトガ出來ナイノデアリマス、何トナレバ此一方ノ、所謂利益配當及ビ收益ノ率ニ依ッテ、不確定ノ積立ヲスルト云フコトデアリマスルナラバ、必然的ニ勞働者ニハ非常ニ利害ノ關係

ガアルノデアリマスカラ、其損益關係ニ立入ッテ調査スル必要ガ必然的ニ起ッテ來ルノデアリマス、此場合ニ於キマシテハ、資本主ト勞働者トノ間ニ爭議ヲ激成スルト云フコトハ、火ヲ賭ルヨリ明カナ事實デアリマス、私ハ斯様ナ問題ニ付テ澤山御尋ヲ致シタイノデアリマスガ、此提案ハ案其モノハ極メテ結構デアアルノデアリマスケレドモ、内容ガ甚ダ整ッテ居ナイノデアリマス、輪島塗ノ重箱ニ馬糞ヲ盛ッタヤウナモノデアアル斷言シテ憚ラヌノデアリマス、若モ此案ガ無修正ニシテ通過致シマスナラバ、私ハ我國ノ折角發達シテ居リマス所ノ中小工業ハ非常ニ衰頹シ、我國ハ勞働爭議國化シハシナイカト云フコトヲ恐ル、ノデアリマス、此點ニ對シマシテハ、政府ノ率直ナ且ツ明快ナ御答辯ヲ要求シテ已マナイノデアリマス、以上私ハ質問ヲ終リマス

(國務大臣潮惠之輔君登壇)

○國務大臣(潮惠之輔君) 御答致シマスガ、只今御尋ノ要項ハ、大體先刻來ノ御質問ニ對シテ御答ヲ申シマシタ點デ、御諒解ヲ願ヘタト思ッタノニ、重ネテ御尋ヲ蒙リマシタ、先ヅ三十人ニ限ッタコト云フ點ハ、先刻續續申上ゲマシタガ、是ハ三十人デハイカス、五十人ト云フ說モアリ、又逆ニ五人、十人ト云フ說モアルノデアリマスガ、兩方面カラ見テ、事業主ナリ勞働者兩方面カラ見テ、最モ妥當ナ所ガ三十人程度デアラウト云フコトヲ申上ゲタ、唯勞働者ノ立場ノミカラ考ヘレバ、ドノ工場ニ使ハレテ居ル者モ、皆手當ヲ貰フコトガ生活上宜シイノデアリマス、併シ事業主ノ關係、産業ノ發達ヲ考ヘレバ、サウモ參リマセヌノデ、ソレデ此三十人ト云フ所ニ落著ケテ居ルノデアリマ

ス、手續ガ大變困難ダト云フコトモアリマスガ、此事業主ノ方カラ積立テラレマスモノハ、必シモ月々ニ之ヲ積立テル必要ハナイ、或ハ年ニ一回、二回若クハ數回ト、定期ニ積立テラレ、バ宜イノデアリマスカラ、其爲ニ非常ナ中小工業者ニ煩雜ナ手數ヲ掛ケテ、煩スト云フコトニハナラナイダラウト思ッテ居リマス、又今日デモ工場ニ依リマシテハ、勞働者ノ爲ニ郵便貯金ナドノ取扱ヲシテ居ル所モアルノデアリマスカラ、左様ナ點ヲ考ヘレバ、此爲ニ非常ナ迷惑ヲ受ケルト云フコトニハナラナイカト考ヘテ居リマス、又積立率ニ付テ裕リ付ケルト云フ御話デアリマスガ、ソレハ先程申スヤウニ、最小限度ヲ法律デ強制ヲシテ、後ニ裕リ付ケテ置クコトガ實情ニ適スルノデアリマス、是モ能ク趣旨ガ分リ、運用サヘ良ク行クナラバ、之ヲ以テ勞資ノ紛爭ヲ招クコトハアルマイト思ヒマス、寧ろ紛爭ヲ起サナイヤウニスルノガ此積立法案ノ趣旨デアリマス、中小工業ノ保護ノ趣旨ニ付キマシテハ、先程商工大臣ノ御答サレタ通りニ私モ承知致シテ居リマス

(岡幸三郎君登壇)

○岡幸三郎君 只今内務大臣ヨリ御答辯ヲ伺ヒマシタガ、此三十人ニ適用スルト云フコトニ關シマシテハ、不都合デアルナラバ之ヲ考慮スルト云フ商工大臣ノ言明ヲ内務大臣モ認メル、斯様ナ御答辯デアリマシタ、其點ニ於キマシテハ深ク咎ムルコトヲ致シマセヌ、併ナガラ本員ノ御尋ヲ致シマシタル所ノ積立ノ率ヲ不確定ニスルト云フコト、若クハ此資本主側ノ計算ニ依ル利益ノ率ニ依ッテ積立ノ率ガ違フト云フコトニ對シテ、此計算ノ調査ヲスルト云フコトガ必然的ニ

起テ來ルガ、ソレニ對シテドウ云フ御考デアリマス、是ガ勞働爭議ノ誘因ニナリハシナイカト云フコトヲ御尋致シマシタガ、此點ニ付テハマダ明確ナル御答辯ガナイヤウデアリマス、是ハ全國ノ工業家ニ取リマシテ洵ニ重大ナル問題デアリマスカラ、是非トモ其點ニ付テ明確ナル御答辯ヲ承リタイト存ジマス

（政府委員廣瀬久忠君登壇）

○政府委員廣瀬久忠君 十七條ノ利益ニ付テ、殊ニ配當ノ方ハ客觀的ニ決リマスルノデアリマスガ、個人ノ純益等ニ付キマシテハドウ云フ風ニスルカ、是ハ事業主ノ計算ニ依ルコトニ致サウト思ッテ居リマス、ソレハ勅令ニ於テソレ等ノ手續規定ヲ決メマシテ、事業主ノ計算ニ依ルコトニ致サウト思ッテ居リマス、サウシテ其事業主ノ計算ガ著シイ不當ナ事項ガアリマシヤウナ場合ニ於テハ、是ハヤハリ稅務署ノ意見等モ聽キマシテ、ソレニ依ッテ適當ニ之ヲ更正マシタルト云フ方法ヲ執リタイ、サウ云フコトニ依ッテ最後ノ決定ハ、問題ガアレバ役所ニ於テ決定シタイ、斯ウ云フ決心ヲ持ッテ居ルノデアリマス

○岡幸三郎君 マダ承服致シ兼ネマスケレドモ、時間ノ都合上、他ノ機會ニ於テ尙ホ質疑ヲ遂ゲルコトニ致シマシテ、此際ハ質問ヲ打切りマス

○議長（富田幸次郎君） 塚本重藏君

（塚本重藏君登壇）

○塚本重藏君 私ハ只今議題トナッテ居リマス退職積立金及退職手當法案ニ關聯致シマシテ、大要四ツノ質問ヲ試ミテ見タイノデアリマス、議員ノ質問ハ、國民ノ問ハントスル所ヲ、國民ニ代ッテ聽キ質スノデアルコ

トハ言フ迄モナイノデアリマス、特ニ私ノ質問ハ、現時日本ノ國民生活ノ基調ヲ成ス所ノ、六百萬勞働大衆ノ切實ニ聽カントスル所ヲ、勞働大衆ニ代ッテ聽カントスルモノデアリマス（拍手）而モ私ガ此質問ヲ致シマスコトハ、日本ノ憲政史上ニ極メテ意義深キモノナルコトヲ御諒解ガ願ヒタイノデアリマス、私ハ今現ニ一介ノ勞働者ニ過ギマセス、私ハ今大阪ノ汽車會社ニ働イテ居リマス所ノ、一旋盤職工ニ過ギナイノデアリマス（拍手）三十年ノ勞働生活ノ體驗ヲ通ジ、現ニ勞働者トシテノ苦痛ヲ嘗メテ居リマス私ガ、全日本六百萬勞働者ニ代ッテ、此勞働大衆ノ生活ニ直接關係アリマス所ノ法案ニ對シテ質疑ヲ試ミマスルコトハ、私ノ光榮バカリデハアリマセス、ソレハ實ニ此議會ガ漸次國民大衆本位ノ議會ヘ移行シツ、アル現狀ヲ物語ルモノトシテ、私ノ非常ナル欣快トスル所デアリマス

質問ノ第一ハ、現内閣ハ勞働組合法ノ制定ニ付テ、如何ナル所見ヲ持ッテ居ラレルカヲ聽キタイノデアリマス、現内閣ハ皆樣ガ續、申述ベラレマシタヤウニ、國民生活ノ安定ヲ力強ク主張シテ居ラレノデアリマス、今日最モ不安ナル生活ヲ爲シテ居ル者ハ何デアリマス、言フ迄モナクソレハ農民大衆デアリ、勞働大衆デアリノデアリマス、故ニ國民生活安定ノ政策ハ先ヅ農村ノ窮乏打開ト産業ノ發展ヲ圖ルベキ、ソレ等ノ政策ヲ遂行スルコト云フコトガ、何ヨリモ必要デアルト私ハ考ヘルノデアリマス、其事ノ爲ニハ勞働大衆ハ今何ヲ要求シテ居ルカ、團體協約法、或ハ失業保險法、最低賃銀法、小作法、或ハ商店員保護法、

母子扶助法等ノ各種ノ勞働立法ノ制定ヲ要求シテ居ルノデアリマス、ケレドモソレ等ノ勞働諸立法ノ制定ヲ要求スル前ニ、何ヨリモ痛切ニ吾々ガ長イ間要求シテ熄マナイモノハ、ソレハ勞働組合法ノ制定デアリマス（拍手）勞働組合法ノ制定ニ付キマシテハ、私ガ申上ゲルマデモナク、古イ議員各位ハ十分御承知下サッテ居ル所ト考ヘマス

ガ、現内閣ノ陸軍大臣デアラレル所ノ寺内氏ノ豪父寺内閣ノ時代ニ於テ、既ニ大正七年ニ内務省ノ救濟事業調査會ニ此問題ガ議セラレテ、勞働組合法ノ制定ガ認メラレテ居ルノデアリマス、越エテ原内閣ノ時代ノ四十二議會ニ是ガ提案セラレタノデアリマス、勿論其内容ハ極メテ不十分デアリマシタガ、既ニ政友會ニ於キマシテモ、亦憲政會ニ於キマシテモ、或ハ古ク農商務省ニ於キマシテモ、亦内務省ニ於キマシテモ、色々ナル勞働組合法ノ法案ガ立案セラレテ居ルノデアリマス、越エテ昭和五年濱口内閣ノ第五十九議會ニ於キマシテハ、今日ノ國民同盟ノ總裁デアラレル所ノ安達内務大臣ニ依ッテ提案セラレ、本衆議院ヲ通過シテ居ルノデアリマス、不幸ニ致シマシテ貴族院ニ於テ是ハ審議未了トハナッタノデアリマス、此間吾々無產政黨ノ間カラ、每議會ニ獨自ノ勞働組合法ノ制定ヲ提案シタコトハ言フマデモアリマセス、即チ勞働組合法ノ制定ハ朝野多年ノ懸案デアリマス、勞働大衆多年ノ熱望デアリマス、眞ニ現内閣ガ國民生活ノ安定ヲ圖ラウトスルナラバ、私ハ何ヲ措イテモ勞働組合法ノ制定ガ先ヅ必要デアルト考ヘルノデアリマス、隨テ此問題ニ對シテ現内閣ハ如何ナル所見ヲ持ッテ居ラル、ノデアルカ、更ニ又現

内務大臣ハ、此勞働組合法ニ對シテ如何ナル御所見ヲ御持チニナルノデアルカ、私ハ既ニ是ガ制定ノ御準備ニ掛ッテ居ラル、ト想像スルノデアリマスガ、次ノ通常議會ニ之ヲ提案スルノ運びニ進メラレツ、アルノデアリマセウカ、伺ッテ置キタイノデアリマス

第二ハ、一昨年ノ第十八回國際勞働會議ノ總會ニ於キマシテ、失業保障條約案ガ可決致サレマシタ、ソレト同時ニ失業保險ノ制定ヲ勸告シテ居ルノデアリマス、此問題ニ付テ此内閣ハ失業保險法ヲ制定スルノ意思ガアルカナイカ、退職積立金法案ヨリモ、更ニ是ガ必要デアルト思フノデアリマスガ、ドウ云フ見解ヲ持ッテ居ラル、ノデアルカ（拍手）仄聞スル所ニ依リマスルト、先月樞密院ニ於キマシテ、此問題ガ議題トナッテ、今直チニ失業保險法ヲ制定スルコトハ考ヘナケレバナラスガ、ソレニ代ルベキ何等ノ制度ヲ設ケネバナラスト云フヤウニ、話合ガアツタコト云フコトヲ聞及ンデ居ルノデアリマス、此退職積立金及退職手當法案ハサウ云フ意向ニ基イテ、失業保險法ヲ一時之ヲ阻止スルノ考ヲ以テ提案セラレタノデアリカ、或ハ又此退職積立金法案ヲ更ニ發展改善シテ、將來失業保險ニマデ到達セシメヨウトスル所ノ意圖ヲ持ッテ居ルノデアリカ、此點ヲ伺ッテ置キタイノデアリマス（拍手）

更ニ第三ノ問題ハ、是ハ既ニ今マデノ質問者ニ依ッテ言盡サレタ問題デアリマスケレドモ、其答辯ヲ承ッテ私ハ重ネテ質問セザルヲ得ヌノ遺憾トスルノデアリマス、本案ノ最初ノ社會局原案ハ、其適用ノ範圍ガ十人デアツタコト云フコトハ、皆サンノ申述ベラレテ居ル通りデアリマス、ソレガ今日三

十人以上ノ工場鑛山ニ適用スルト云フコトニ、其適用ノ範圍ガ極メテ狭メラレテ參ッタノデアリマス、更ニ職員ヲ除外シテ居ルト云フヤウニ、非常ニ此適用ノ範圍ガ狭メラレテ參ッテ居ルコトハ甚ダ遺憾デアリマス、元來説明ノ趣旨ニモアリマシヤウニ、本案ノ如キハ勞働者生活ニ於テ、屢、遭遇スル所ノ失業ト云フ悲惨事ニ對シテ、何トカシナケレバナラナイト云フ、必然ノ生活問題カラ出發シテ居ルト思フノデアリマス、果シテサウデアリマスナラバ、此法案ノ適用範圍ト云フモノハ、有ニル勞働部門ノ一切ノ勞働者ニ適用シナケレバナラナイト私ハ考ヘルノデアリマス(拍手)ソレガ出來ナイナラバ、セメテハ健康保險法同様ニ五人以上ノ工場鑛山ニ何故之ヲ適用シナイノデアルカ、少クトモ工場法、鑛山法ノ適用範圍デアル十人以上ニ何故之ヲ適用シナイカ、更ニ私共ハ此適用範圍ノ上ニ、交通運輸勞働者並ニ劇場、百貨店、商店従業員ヲモ含ムノデアル、勅令ヲ以テ定ム云々ト云フ所ニ是ガ入ルノデアラウカ、聽イテ置キタイノデアリマス

更ニ之ニ關聯シテ是非トモ伺ッテ置カナケレバナラナイノハ、先ノ加藤氏ノ質問ニ對シテ、小川商工大臣ガ、實情ニ依ッテハ適當ナ方法ヲ講ズルト云フ答辯ガアリ、ソレニ對シテ只今内務大臣ガ、又ソレヲ肯定ナサツタガ如キ御答辯ノアツタコトヲ甚ダ遺憾トスル次第デアリマス(拍手)若シ小川商工大臣ノ答辯ノ如キコトガ事實行ハレルトスルナラバ、此本案ノ適用ト云フモノヲ、全ク臺無シニシテシマフコトヲ、吾々ハ憂ヘナケレバナラスノデアリマス(拍手)果シテ内務大臣ハ眞實其様ナ見解ヲ持ッテ居ラレル

ノデアルカ、私ハ少クトモ此議會ニ於テ唯一ノ社會立法トシテ、此内容ニ付テハ尙ホ多クノ不滿ヲ持ッテ居ルケレドモ、無イヨリハマシデアルト云フ立場ニ於テ、本案ノ通過ヲ熱望シテ熄マナイ者デアリマス、ケレドモ今商工大臣或ハ内務大臣ノ答辯ノ如キコトヲ伺ヒマスナラバ、吾々ハ深ク考ヘナケレバナラスノデアリマス、殊ニ三十人以下ノ工場ニモ是ガ必要デアルト云フコトハ、内務省ニ於ケル幾多ノ勞働統計ガ、之ヲ雄辯ニ物語ッテ居ルノデアリマス、社會局ノ昭和十年七月ノ調査ニ依リマシテ、退職手當制度ヲ持ッテ居ル工場ト、持ッテ居ラナイ工場トヲ調べ統計ニ依リマスト、十人以上三十人未満ノ工場ニ於キマシテハ、二万二千二百一十一工場アル中デ、退職手當ノ規定アルモノ、或ハ慣例ニ依ッテ退職手當ヲ貰ヘル工場ト云フモノハ、一割シカナインデアリマス、サウシテ三十人以上五十人未満ノ工場ニ於キマシテハ、四千五百十七工場アル中デ、一割八分ノ工場ガ規定ヲ持チ、或ハ規定ヲ持タザルモ、慣例ニ依ッテ退職手當ヲ出シテ居ル、更ニ五十人以上百人未満ノ工場ガ四千八十五アリマスガ、此部ニ於キマシテハ、二割八分ノ工場ガ規定ニ依リ或ハ慣例ニ依ッテ退職手當ヲ出シテ居ル、百人以上ノ工場ハ二千七百六十九アリマスガ、此中ニテハ五割三分ト云フ大半ノ工場ガ規定ヲ持チ、或ハ規定ヲ持タザルモ慣例ニ依ッテ相當ノ退職手當ヲ出シテ居ルノデアリマス、此統計カラ見マスレバ、此退職積立金法案ノ必要デアルコトハ、寧ロ三十人以下ノ工場ニコソ必要デアルコトヲ、雄辯ニ物語ッテ居ルノデアリマス(拍手)而モ是迄起ッタ所ノ勞働爭議ノ統計ヲ見マシテモ、三十人以

下ノ工場ニ於ケル、退職金ノ問題ヲ中心トシテ起ッタ所ノ勞働爭議ガ、如何ニ多イカト云フコトヲ見マシテモ、小工場ニコソ是レノ必要デアアルコトガ、一層痛切ニ證明セラレルノデアリマス(拍手)ソレハ三十人以上ノ工場デアリマスナラバ、今申シマシタヤウニ、相當多クノ工場ガ手當ヲ出シテ居ル、併シ三十人以下ノ工場ニ於テコソ、各位ガ申サレマスルヤウニ、經營困難デアルト云フヤウナ事情ニ因リマシテ、手當ガ出難イノデアアルカラ、平常カラ此準備金ヲ積立テ、置ク必要ガアルノデアリマス(拍手)斯ウ云フ小工場ノ工業者ニ對シテ、解雇或ハ退職ノ場合ニ處スル何等ノ準備ナイ所ニ、多クノ金ヲ一時ニ出サセヨウトスルコトハ困難デアリマス、其事ガ勞働爭議ヲ惹起ス所ノ重大ナル原因デアリマス(拍手)勞働爭議ノ最小化ヲ希望シマスナラバ、是等ノ小工場ニコソ此適用ガ必要デアアルノデアリマス(拍手)然ルニ此所謂三十人未満ノ工場鑛山ヲ除外シタト云フコトハ、一體何故デアルカ、今日三十人未満ノ工場鑛山ニ働ク勞働者ノ數ハ約四十万人デアリマス、此四十万ノ多數ノ勞働大衆ガ、折角出來タ此法案ノ適用ヲ受ケラレナイト云フコトハ、私ハ不合理デアルト考ヘル、而モ今御話ノアツタヤウニ、此問題ニ對シテ全產聯カラ色ナ主張ガナサレ、色々運動ガ試ミラレテ居ルコトハ、我國産業ノ立憲的發展ノ上ニ、私ハ之ヲ憾マザルヲ得ナイ、悲シマザルヲ得ナイノデアリマス(拍手)村岡氏ノ御話ニモアリマシタヤウニ、一體斯ウ云フ勞働立法、社會立法ヲ制定スル場合ニ於テ、政府當局ハ常ニ資本家ノ意ヲ聽クニ忠實デアツテ、勞働大衆ノ意ヲ聽クコトニ甚ダ不

忠實デアルト云フコトニ、私ハ限リナキ不滿ヲ持ッテ居ル者デアリマス(拍手)本案ガ上程セラレマス經過ニ付テハ説明ガアリマシタ、内務省ニ於ケル失業對策委員會デ色ト議ヲ練ッテ、原案ガ作リ上ゲラレタノデアリマスガ、其後ニ於テ所謂社會局ノ内ニアリマス所ノ參與會議ニ於テ、是ガ改惡ヲセラレテ居ル、其參與會議ノ中ニ、果シテ勞働階級ノ利害ヲ代表スル者ガ入ッテ居ルノデアアルカ、失業對策委員會ノ中ニハ勞働階級ノ利害ヲ代表スル者モ入ッテ居ルト、内務大臣ハ御答辯ニナリマシタケレドモ、參與會議ノ中ニ勞働階級ノ利害ヲ代表スル者ガ一人デモ入ッテ居ルノデアリマセウカ(拍手)ソレヲ伺ヒタイノデアリマス、即チ此法案ガ改惡セラレルニ至リマシタ經過ヲ見マスルナラバ、サウ云フヤウニ參與會議ノ經過ヲ經、或ハ資本家團體ノ各方面ノ猛烈ナ反對ガアルコトニ因ッテ改惡セラレタノデハナイカ、更ニ三十人ニ改メヨウトスル場合ニ於キマシテモ、是ハ實ヲ申シマスト、全產聯其他ノ資本家階級ノ意ニ迎合致シマシテ、十人以上ノ原案ガ三十人以上ニ改メラレタノデアアル、今又資本家階級ノ意ヲ迎ヘテ原案ヲ修正シ、茲ニ提案スルヤ、貪慾飽タナキ資本家階級ハ、更ニ之ヲ五十人以上ノ工場ニ縮小シヨウト云フ主張ヲナサレルコトハ、甚ダ心外ニ堪ヘザル者デアリマス、私ハ此點ニ付キマシテ、最初ニ質問シマシタヤウニ、事情ニ依ッテハ——小川商工大臣ノ答辯ノ如クニ、其特殊ナモノニ付テハ除外スルト云フ、加藤錄五郎氏ノ質問ニ對スルアノ答辯ガ適當デアアルカドウカ、私ハ此點ハ慎重ニ兩相ガ御協議ノ上、慎重ニ御答辯下サルコトヲ御願シタ

イ、是ハ實ニ吾々勞働大衆ニ於テハ重大ナ
問題デアリマス

私ハ最後ニ極メテ小サナ問題ヲ取上ゲテ
質問シタイ、其内容ニ付テハ恐ラク何人モ
氣付カナイ問題デアラウト思フ、何人モ氣
付カナイ問題ニシテ、而モ吾々勞働大衆ニ
取ッテハ是程重大ナル問題ヘナインデアル、
一體此法案ヲ實施スル場合ニ於キマシテ、
果シテ是ガ現内閣ノ所期スルガ如キ效果ヲ
擧ゲ得ルカドウカ、甚ダ疑問ヲ持ツ者デア
ル、ソレハ今日資本家階級ガ實行致シテ居
リマス所ノ、所謂臨時職工ノ問題デアル、
此法案モ亦臨時職工ノ惡用ニ依リマシテ、
今日全國三十万ノ臨時職工ハ、何等本法ノ
適用ヲ受ケザルニ至ル結果ヲ見ルデハナイ
カト思フ、即チ此法案ノ中ニハ、六箇月ヲ
超エテ引續キ使用セラル、ニ至リタルト
キ、或ハ季節的勞働者ガ一年ヲ超エテ引續
キ使用セラル、ニ至リタルトキト、斯様ニ引
續イテ使用セラレタルトキ本法ヲ適用スル
ト云フ、此條文ニ依ッテ本當ニ現内閣ガ所期
スルガ如キ效果ヲ擧ゲ得ルデアラウカ、之
ニ依ッテ三十万ノ臨時職工ヲシテ、此制度ノ
恩典ヲ受ケル範圍ニ入ラシムルコトガ出
來ルデアラウカ、私ハ疑問ヲ持ツ者デアリ
マス、ソコデ今日資本家階級ガ採テ居ル臨
時職工使用ノ實情ヲ申サナケレバナラス、
私ハ事實ヲ申上ゲマスガ、若シ斯ウ云フ場
合ガアツタナラバ、内務大臣ハドウナサルノ
デアリマスカ、茲ニ多クノ勞働者ヲ雇入レ
ル、ソレハ期限ガ六箇月デアルトスル、サ
ウシテ六箇月ノ期限ガ滿了シタ場合ニ、二
日、三日或ハ五日、六日ノ間休マシテ置イ
テ、其間ニ改メテ就職志願書ヲ出サセ、形
式的ナ體格検査ヲ行ヒ、サウシテ之ヲ工場

ニ入レル、工場ニ入レタ場合ニ於テハ、試
驗職工トシテ一週間ナリ十日ノ間ハ、極メ
テ安イ賃金デ働カシテ居ル、サウシテ又六
箇月ノ期限ガ來タナラバ、改メテ一日ナ
リ、三日ナリ休マシテ、サウシテ又同様ニ就
職志願書ヲ出サセテ、體格検査ヲ行ウテ、試
驗職工トシテ之ヲ工場ニ雇入レル、斯ウ云フ
ヤウナコトニ依ッテ、今日全國ノ三十万ノ勞
働者ガ願使セラレテ居ルノデアアル(拍手)斯
ウ云フ場合ニ於テ本法ノ適用ハ、是ガ引續
キト云フ解釋ノ中ニ當嵌ルモノデアアルカ、
是迄資本家階級ガ採ッテ居タヤウニ、ソレ
ハ引續キデハナク、中斷トノ見解ガ妥當デ
アラウカ、若シ是ガ引續キデナイト云フコ
トデアツタナラバ、之ヲ取締ル爲ノ方策トシ
テ何ヲ考ヘテ居ラレルノデアアルカ、本案制
定ノ趣意トシテノ内務省社會局ノ理由ノ中
ニハ、臨時工ヲ救済スル爲ニモ本法ハ必要
デアルト言ハレテ居ルノデアリマスガ、
果シテ之ニ依ッテ六箇月以上ノ引續キ採用
セラル、者ガ、此適用範圍ニ入ルノデアラ
ウカ、今日或ル工場ニ於テハ、長イ者ハ十
七年、十八年ト云フ長イ間、此制度ニ依ッ
テ今尙ホ臨時工デ働イテ居ルノデアアル(拍手)
實ニ人道ニ上サベカラザル行爲デハアリマ
セスカ、是ハ笑ヒ事デハナイ、既ニ此制度
ニ於テ二年、三年、五年ノ長イ年月ヲ臨時
職工トシテ雇ハレテ居ル者ガ多イノデアアル
〔罷メタラ宜イ〕ト呼ヒ其他發言スル
者多シ

○議長(富田幸次郎君) 靜肅ニ

○塚本重藏君(續) 吾々ガ臨時工ヲ罷メル
ト云フコトハ、衆議院議員ガ議員ヲ辭スル
ガ如キ問題デハナイノダ、吾々ガ職工ヲ辭
スルト云フコトハ、吾々ガ死ヲ擇ブ場合デ

アル、吾々ノ生活ノ問題デアアル、吾々ハソレ
ガ辛イノダ、今日働カナケレバ明日食フコ
トノ出來ナイ勞働階級ノ生活ノ實情ヲ何ト見
テ呉レルカ(拍手)吾々ガ若シ其勞働條件ニ
不滿デアルナラバ、罷メテモ宜イノダト云
フコトガ、簡單ニ今日ノ勞働階級ニ言フコ
トガ出來ルカ、實ニ今日ノ臨時工ト云フモ
ノハ罷メルニ罷メラレナイ、一家ノ妻子眷
族ヲ養フ爲ニ、如何ニ安イ賃金デアッテモ、
ソレヲ我慢シテ働カナケレバナラナイ、言
ヒタイコトガアッテモヨウ言ハナイ、次ニ來
ルベキ期限滿了ノ際ニ引續イテ使ッテ貰ハ
ウト思フナラバ、言ヒタイコトヲ言ハズニ
デット我慢シテ、惡イ勞働條件ニ甘ンジテ働
イテ居ルノガ今日ノ現狀デアアル(拍手)而モ
其狀態ガ當ニ三十万臨時職工ノ問題ダケデ
ハナイ(臨時工ハ十六日ニ川村君カラ質問
ガアツタ)ト呼フ者アリ)延イテ六百万勞働
大衆ノ勞働條件ヲ低下スル最大ノ原因デア
ル、勞働大衆ノ勞働條件ガ低下シ、勞働大衆
ノ生活ガ段々ト疲弊困憊ノドン底ニ陥
ルコトニ依ッテ、勞働大衆ノ購買力ハ減退スル、
勞働大衆ノ購買力ノ減退ガ、延イテ今日小
賣商人疲弊ノ原因デアアル、今日都市ニ於ケ
ル所ノ商業ノ不振ガ、又延イテ農村疲弊ノ
原因デアアルト云フコトヲ、吾々ハ看過シテ
ナラナイノデアアル(拍手)此點ニ於テ今日ノ
農村窮乏打開ノ爲ニモ、都市勞働大衆ノ生
活向上ノ爲ニモ、何トカシテ臨時工惡用ヲ
根絶シナケレバナラナイト考ヘル、此點ニ
付テ政府當局ハ如何ニ考ヘルカ、少クトモ
本案ノ實施ニ依ッテ、以上ニ述べタル脫法行
爲ヲ完全ニ防イデ、此法案ノ適用ノ範圍ニ
入ル、コトガ出來ルト云フ確信ヲ持ッテ居ラ
ル、カドウカ、其他尙ホ質問シタイ事モ澤

山アルノデアリマスクレドモ、私ハ切ニ本
案ガ會期內ニ於テ無事通過スルコトヲ希望
スル餘リニ、其他ノ質問ハ委員會ニ讓ルコ
トニシテ、此質問ハ打切ルノデアリマス、
但シ答辯ノ如何ニ依リマシテハ、ソレニ關
聯シテ再質問ヲ許シテ戴カナケレバナラス
ト思ヒマス(拍手)

(國務大臣潮惠之輔君登壇)

○國務大臣(潮惠之輔君) 塚本君ハ數項ニ
互ッテ御質問デアリマシタ、先ツ勞働組合法
ノ取扱ニ付テノ御尋デアリマス、十分御承
知ノ通り、此法律ノ沿革ト云フモノハ非
常ニ古ク、未ダニ何人モ相當ノ方面ヲ満足
サセルヤウナ案ヲ作り得ナイヤウデアリマ
ス、私モ引續イテ研究致シテ居リマスケレ
ドモ、愈々之ヲ立法化スルト云フコトニナ
リマスレバ、勞働界ノ情勢モ、其他各方面
ノ實況モ、意見モ十分ニ綜合シテヤラナケ
レバナリマセスカラ、之ヲ來議會ニ出スト
カ出サストカ云フコトヲ、今此處デ明瞭ニ
申上ゲルト云フコトハ困難デアリマス、ソ
レカラ失業保險法ノ點ニ付テモ、是ハ同ジ
ク失業ノ狀況ナリ、色々ノ方面ノ關係ガア
ルノデアリマスガ、此法案ヲ以テマシテ、
決シテ失業保險法ヲ阻止シヨウナドト云フ
考ハ持ッテ居リマセス、併ナガラ此法案ヲ以
テ失業保險ノ前提準備デアルトモ考ヘテ居
リマセス、此法案ハ此法案、失業保險ノ問題
ハ別ニ研究スベキ問題ダト思ッテ居リマス、
ソレカラ適用ノ範圍ヲ十人ニ限ッテハドウ
カ、三十人デハ高過ギルト云フ御説デアリ
マスルガ、是ハ先程カラ度々繰返シテ申上
ゲテ居ル、勞働者カラ言ヘバ、人數八十人
ヨリモ五人ニ下ゲタ方ガ宜シイカモ知レナ
イ、併ナガラ一方ニハ事業主ノ負擔、其他

産業全體ノ發達モ考ヘナケレバナリマセヌカラ、雙方ノ方面カラ適當ノ所ニ著落ケル外ハナイノデアリマス、ソレデ今私共ハ之ヲ十人トカ五人トカ云フコトハ考ヘテ居リマセヌ、尙ホ商店員等ニ適用スル考ヘナイカ、斯ウ云フ御説モアリマシタ、是モ立法ノ際ニハ研究致シマシタ、併ナガラ今日ノ商店ノ從業員ノ關係ハ、鑛山工場等ニ於ケル從業關係、雇傭條件等トハ餘程趣ガ異ニナッテ居リマスルカラ、差當リ直チニ此法案ヲ以テ商店員ヲ律スルコトハ、商店ニ適用スルト云フコトハ適當デナイ、寧ロハ別ニ考ヘテ、然ルベキ途ガアッタナラバ、ソレニ向ッテ善處スベキデアル、斯様ニ考ヘテ居リマス、ソレカラ尙ホ御承知デハアルト思ヒマス、此三十人以下ヲ常時使用スル事業主デアリマシテモ、第三條ニ依リマスレバ、ヤハリ準備積立金ノ制度ヲ設ケテ、勞働者ノ福祉ヲ増進シ得ル途ハ開ケテアルノデアリマス、是デビツタリ窓ヲ押ヘテハ居リマセヌ、次ニハ商工大臣ト同意見ヲ述ベタヤウデアッタ、事業ノ種類等ニ付キマシテハ除外例ヲ設ケル、是ハドウモ致方ガナイガラウト思ヒマス、併シ其内容ハ十分研究ノ上ニ、商工省ト協議ノ上デナケレバナリマセヌ、是ハ第一條第二項ガソレデアリマス、ソレカラ此法律ニ依ッテ所期ノ目的ガ達セラレルト思フカ、全クソレハ遂ゲタイト思フカ、御審議ヲ願フノデ、是ハ極力之ニ依ッテ目的ヲ達ゲナケレバナラヌ、ソレデ臨時工ノ問題等ニ付キマシテモ、何レ詳シクハ委員會デ御答致シマスガ、先程御示シノ二日罷メトラドウカ、三日、四日ハドウカト云フ具體ノ問題ニ付テハ、今御答ヲ致シ兼ねマス、是ハ事實ニ依リマス、ダカラ假ニ中斷

シタ所デ、事實ニ能ク依ッテ見テ、是ハ中斷ト認メラレモノハ、ヤハリ臨時工デヤナク、是ハ常傭ノ名義デ此法律ヲ適用シナケレバナラヌト云フ場合モ起ルコトダト思ッテ居リマスガ、是ハドウモ事實問題デ考ヘル外ハナイト存ジテ居リマス

○塚本重藏君 簡單ニ自席カラ再質問ヲ致シタイト思ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 御許シ致シマス

○塚本重藏君 只今ノ臨時工ノ問題ハ事實問題デアルト言ハレマシタガ、慎重ニ其場合其場合ヲ考ヘテ行クト云フコトデアリマシタガ、ソレデアルト私共ハ非常ニ不安ナノデ、今私ガ申シマシタヤウナ實際ノ場合ニ於テハ、ソレハドウナルノデアアルカ、二日、三日ゾツ休マセテ、ソレガ同じ工場ニ同一ノ職業ニ從事シテ、其切替ヲ三週、四週、五週ト繰返シ、長イ者ハ三年、四年、十數年ノ長キニ互ッテ、臨時職工トシテ使ハレテ居ル事實ガ澤山アルノデアリマス、ソレ等ノ者ヲ其儘臨時工トシテ認メルノデアリマスガ、ソレハ資本家ノ一ツノ脱法行為デアルト認メラレノデアアルカ、其點ハ極メテ明確ナル御説明ヲ戴キタイノデアアル(拍手)更ニ私ハ第五條ノ六箇月、或ハ季節ノ一年ノ問題トカ、或ハ第六條ノ賃金及其標準賃金ヲ勅令ニテ定メル問題、或ハ二十四條ノ但書ノ問題デアルトカ、進ンデハ特別手當ノ問題ニ付キマシテモ、色々質問シタイノデアリマスルケレドモ、今ノ内務大臣ノヤウナ答辯デハ、甚ダ私ガ質問ヲ試ミテ行クノニモ頼リナイノデアリマス、此點デハモット實情ニ明ルイソレ、擔當ヲシテ居ラレル所ノ、専門ノ委員ト質疑ヲ重ネテ行キタイト思ヒマスルカラ、其點ハ委員

會ニ譲リマスルガ、今ノ點ハ是非此會議ニ於テ明確ニ一ツ御答ガ願ヒタイト思ヒマス(拍手)

(政府委員廣瀬久忠君登壇)

○政府委員(廣瀬久忠君) 臨時工ノ問題ニ付テノ御質問デアリマスガ、六箇月使ッテ、ソレカラ後幾日カ休ンデ又使フト云フヤウナ問題、斯ウ云フ問題ガアッデ、長ク之ヲ繼續シトラドウカ、斯ウ云フデアリマスガ、引續イテ使用關係ガアルモノト云フ事實ニ基ク認定ガ出來マスレバ、ソレハ本法ノ第五條ノ適用ニ依リマシテ、普通ノ勞働者ノ取扱ヲ受ケルコトニナルノデアリマス、サウ云フ工合ニ解釋ヲ致シテ居リマス

○塚本重藏君 其點ハ私共ニ取ッテ非常ニ重大ナル問題デアリマス、是非共是ハ此會議ニ於テ明瞭ニシテ置カナケレバ、三十萬臨時職工ノ切實ナル問題デアアルノデアリマサルカラ、サウ云フコトデアリマスルナラバ、此三十萬ノ臨時職工ハ、恐ラク本法ノ適用ヲ一人モ受ケナイコトニナルト思ヒマス、ソレハ私ハ餘リニ殘酷ダト思ヒマス、本當ニ此法案ヲソレ等ノ人ニモ適用サセヨウト云フ意見ガアルナラバ、ソレハ今後ハ決シテ認メナイト云フ明確ナル答辯ヲ得タイノデアリマス、ソレデナケレバ此法案ヲ提出サレタ眞ノ意義ガ没却サレテ居ルト思フ、今ノヤウナ具體的ナ事實ノ問題デアリマス、唯其時ノ事情ニ依ッテ、ドウトカ斯ウトカ云フ問題デヤナイ、同一ノ工場ニ同一ノ人間ガ同一ノ仕事ヲヤッテ居ル、而モソレガ今言ッタヤウナ僅ニ二日カ三日、長クテモ一週間位休マスコトニ依ッテ、是ガ中斷セラレタルモノナリト云フ認定ノ下ニ、二年、三年、五年、十年ノ後ニ互ッテ、引續イテ臨時工

トシテ雇傭セラル、ガ如キコトハ、吾々ハ許サルベキコトデハナイト思フガ、是ガ許サレルノデアアルカ、重ネテ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス

(政府委員廣瀬久忠君登壇)

○政府委員(廣瀬久忠君) 第五條ノ但シ第一號ニ該當スル者、六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタル時、此中ニ今御話ノヤウナ大部分ノ者ハ入ルト思ヒマスガ、ソレハ其時ノ事實問題ヲ考ヘルダケノ餘裕ハ必要ダト思ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 質疑ハ終局致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○松永東君 本案ハ政府提出、不穩文書等取締法案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第六ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第六、昭和九年度第一豫備金支出ノ件外六件、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス——大藏政務次官中島彌國次君

テ行キタイト思ヒマスルカラ、其點ハ委員

會ニ譲リマスルガ、今ノ點ハ是非此會議ニ於テ明確ニ一ツ御答ガ願ヒタイト思ヒマス(拍手)

(政府委員廣瀬久忠君登壇)

○政府委員(廣瀬久忠君) 臨時工ノ問題ニ付テノ御質問デアリマスガ、六箇月使ッテ、ソレカラ後幾日カ休ンデ又使フト云フヤウナ問題、斯ウ云フ問題ガアッデ、長ク之ヲ繼續シトラドウカ、斯ウ云フデアリマスガ、引續イテ使用關係ガアルモノト云フ事實ニ基ク認定ガ出來マスレバ、ソレハ本法ノ第五條ノ適用ニ依リマシテ、普通ノ勞働者ノ取扱ヲ受ケルコトニナルノデアリマス、サウ云フ工合ニ解釋ヲ致シテ居リマス

○塚本重藏君 其點ハ私共ニ取ッテ非常ニ重大ナル問題デアリマス、是非共是ハ此會議ニ於テ明瞭ニシテ置カナケレバ、三十萬臨時職工ノ切實ナル問題デアアルノデアリマサルカラ、サウ云フコトデアリマスルナラバ、此三十萬ノ臨時職工ハ、恐ラク本法ノ適用ヲ一人モ受ケナイコトニナルト思ヒマス、ソレハ私ハ餘リニ殘酷ダト思ヒマス、本當ニ此法案ヲソレ等ノ人ニモ適用サセヨウト云フ意見ガアルナラバ、ソレハ今後ハ決シテ認メナイト云フ明確ナル答辯ヲ得タイノデアリマス、ソレデナケレバ此法案ヲ提出サレタ眞ノ意義ガ没却サレテ居ルト思フ、今ノヤウナ具體的ナ事實ノ問題デアリマス、唯其時ノ事情ニ依ッテ、ドウトカ斯ウトカ云フ問題デヤナイ、同一ノ工場ニ同一ノ人間ガ同一ノ仕事ヲヤッテ居ル、而モソレガ今言ッタヤウナ僅ニ二日カ三日、長クテモ一週間位休マスコトニ依ッテ、是ガ中斷セラレタルモノナリト云フ認定ノ下ニ、二年、三年、五年、十年ノ後ニ互ッテ、引續イテ臨時工

トシテ雇傭セラル、ガ如キコトハ、吾々ハ許サルベキコトデハナイト思フガ、是ガ許サレルノデアアルカ、重ネテ御答辯ヲ願ヒタイノデアリマス

(政府委員廣瀬久忠君登壇)

○政府委員(廣瀬久忠君) 第五條ノ但シ第一號ニ該當スル者、六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタル時、此中ニ今御話ノヤウナ大部分ノ者ハ入ルト思ヒマスガ、ソレハ其時ノ事實問題ヲ考ヘルダケノ餘裕ハ必要ダト思ヒマス

○議長(富田幸次郎君) 質疑ハ終局致シマシタ、本案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○松永東君 本案ハ政府提出、不穩文書等取締法案委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議ハアリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際日程第六ヲ繰上ゲ上程シ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(異議ナシト呼フ者アリ)

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ノ順序ハ變更セラレマシタ、日程第六、昭和九年度第一豫備金支出ノ件外六件、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス——大藏政務次官中島彌國次君

昭和九年度第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計第一豫備金支出ノ件

昭和九年度特別會計豫備費支出ノ件

昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ノ件

自昭和十年四月昭和十年十二月

至同 年十二月

年度特別會計第二豫備金支出ノ件

自昭和十年四月昭和十年十二月

至同 年十二月

年度特別會計豫備金外ニ於テ豫算外支出ノ件

（政府委員中島彌國次君登壇）

○政府委員（中島彌國次君） 昭和九年度第一豫備金支出外六件ニ關スル事後承諾ヲ求ムル件ニ付キマシテ御説明ヲ申上ゲマス、

昭和九年度第一豫備金ノ豫算金ハ六百萬圓デアリマスガ、昭和九年勅令第二百六十五號ニ依リ、第一豫備金ヨリ補充致シマシタル主ナル事項ハ、軍事救護費、諸拂戻及補填金、受託造修費、刑務所收容費等デアリマシテ、其總額ハ六百萬圓デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其第一豫備金又ハ豫備費ヨリ、豫算超過ノ支出ヲ爲シタルモノガアリマス

次ニ昭和九年度滿洲事件第一豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和九年度滿洲事件第一豫備金ノ豫算額ハ千萬圓デアリマスガ、昭和九年勅令第二百六十五號ニ依リ、滿洲

第六 件

（承諾ヲ求ムル）

事件費ニ補充致シマシタル金額ハ千万圓デアリマス、次ニ昭和十年四月ヨリ同年十二月ニ至ル間ニ於ケル、昭和十年第二豫備金支出ニ付キ申上ゲマス、昭和十年第二豫備金ノ豫算額ハ二千三百萬圓デアリマシテ、昭和十年四月十七日ヨリ同年十二月十四日ニ至ル間ニ於ケル支出總額ハ千九百二十萬八千五百六十六圓デアリマス、其中主ナル事項ヲ舉ゲマスレバ、應急土木事業助成費、砂防工事費補助、災害土木費、補助艦船損傷復舊費、風水害應急及復舊施設費、冷害應急施設費等デアリマス、各特別會計ニ於キマシテモ、其ノ第二豫備金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノト、豫備金外ニ於テ其歲計剩餘金ヲ以テ豫算外ノ支出ヲ爲シタルモノトガアリマス、何卒御審議ノ上速ニ御承諾ヲ與ヘラレシコトヲ望ミマス

○議長（富田幸次郎君） 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許可致シマス——福田關次郎君（福田關次郎君登壇）

○福田關次郎君 只今上程サレマシタ昭和九年度ノ第一豫備金支出ノ件、竝ニ昭和十年度ノ第二豫備金支出ノ件、竝ニ九年度滿洲事件費第一豫備金支出ニ關シマシテ、政府ニ質問シタイト存ジマス、此豫備金支出ニ關シマシテ、何時モ委員會ニ於キマシテ吾々ノ問題ニナルノデアリマスガ、元來豫備金ナルモノハ、緊急必要ナル時ニ、已ムヲ得ザル時ニ主トシテ是ガ支出ヲ行フベキモノデアアルニ拘ラズ、年度内ニ於キマシテ、其豫備金ヲ設定致シマシタル金額ハ、之ヲ使用シナケレバ或ハ自分ノ省デ不利益デアアルガ如クニ感ゼラレテ、其一定サレマシタル豫算額ダケ、即チ其豫備金ヲ一厘モ殘サズ使ヒ果スト云フ傾向ガアルノハ、今日ノ我が

日本政府ノ、此豫算執行ノ上ニ於キマシテ、甚ダ遺憾ダト思フノデアリマス、即チ豫備金ノ制度ハ避クベカラザル所ノ豫算ノ不足第二豫備金ハ豫算外ニ緊急ニ生ジタル必要ニ充ツル爲ニ、此豫備金制度ナルモノガ拵ヘテアルノデアリマス、濫リニ之ヲ使用致シマス云フコトハ、當然慎シムベキコトデナクテハナリマセヌ、豫備金ガ現存スルカラト云フ故ヲ以テ、緊急ナラザルモノニ、之ヲ分奪セントスル傾向ガアルト云フコトハ甚ダ遺憾デアリマス、是等ニ對シマシテ大藏省ハ如何ナル御考ヲ御持チニナルカ、年々歳々此豫備金ヲ、不必要トモ認メル部分ニマデモ使ッテ居ル事實ハナリカ、例ヘテ見マスト、九年度ノ第一豫備金ハ六百萬圓デアアル、其六百萬圓ヲ一文モ殘サズ、其儘或ル費途ニ充當シテ居ルト云フガ如キハ、不可解至極ト言ハナケレバナリマセヌ、殊ニ又豫備金ヲ一般豫算ト同一ニ思ッテ、其年度ニハドウシテモ使ヒ得ダト云フヤウナ傾向ニ流レテ居ルノデアリマセヌカ、此點モ私共ノ常ニ遺憾トスル所デアリマス、或ル省ノ如キハ豫備金ガアルカラト云フノデ、一厘モ之ヲ餘サズニ皆使果スト云フ、今マデノ因縁ヲ持ッテ居リマス、決算委員會ニ於キマシテモ、私共ハ此點ヲ餘程考慮セヨ、或ハ注意セヨト申シテ居リマスガ、年々是ガ改マリマセヌ、例ヘバ大藏省ニ於キマスル專賣局ノ如キ、一定ノ年度ニ一定ノ食鹽ノ製造ヲ限定シテ豫算ヲ取リナガラ、滿洲ノ製他ノ不要ナモノヲ多ク買入レテ、色々ノ不要ナモノヲ豫備金支出ニ依ッテ爲スガ如キハ、斷ジテ許スベキモノデナイト私共ハ言ヒタイノデアリマス、此點ニ關シマシテ豫備金制度設置ノ根本趣意ニ反シハシナ

イカ、是等ニ對シテ政府ハ將來ドウ云フ御考ヲ御持チニナッテ居ルカ

次ハ滿洲事件費デアリマス、滿洲事件費ハ御承知ノ通り一千万圓デアリマスガ、外務省ガ使ヒマシタルガ五十六萬三千圓、陸軍省ガ使ヒマシタルガ九百四十三萬餘圓デアリマスガ、右ノ中滿洲ノ航空隊充備ト説明ガアリマス、航空隊充備ニ九百餘萬圓ノ金ヲ使ヒマスト云フコトハ、相當ナ金額デアリマス、而モ之ヲ其年度内ニ消費シテ居ルノデアリマスガ、然ラバ唯充備費デハ分リマセヌ、飛行機何臺ヲ滿洲デ拵ヘタノデアルカ、ドウ云フ所ニ此航空隊ヲ充備ナサレタノデアルカ、此邊ニ付テ明瞭ヲ御答辯ヲ煩シテ置カナケレバ、吾々ハ輕々ニ之ヲ承認スル譯ニハ參リマセヌ

次ニ司法省ノ第一豫備金支出ニ付テ御伺シタイ、司法省ハ百五十七萬餘圓ノ多大ノ經費増加ヲ要求シテ、豫備金カラ支出サレテ居リマス、然ルニ其理由トスル所ハ、收容人員ノ増加ニ依ルト云フコトダケデアリマス、司法省ノ豫算ハ澤山ナモノデハナイ、其中ニ豫備金ヨリ百五十七萬餘圓ヲ取ルト云フコトハ相當ナモノデアリマス、此收容人員ノ増加トハ、何ヲ豫想サレテ何ガ増加シタノデアアルカ、ドウ云フ犯罪ノ部分ガ増加致シタカラ明ニ示シテ戴キタイト思ヒマス、私共惡ク考ヘマスト、昭和十年度ニ之ヲ取ッテ居ルガ、昭和十年九月ニハ御承知ノ通り府縣會議員ノ選舉ガアリ、之ニ依ッテ罪ナキ所ノ犯罪人モ括リ上ゲヨウト云フ豫定ノ下ニ此金ハ取ツタノデハナイカト云フ疑ガアル、斯様ナコトハドノ部類ニ於テ、斯ノ如キ龐大ナル豫備金支出ラシテ賁ハナケレバナラヌ程ノ、收容人員ガ増加

サレタカラ明ニシテ戴キタイ

次ハ外務省ニ關聯致シ、同時ニ關東局ニモ關係致シ、陸軍、拓務ニモ關係致シマス事件ニ付テ、是ハ民國、滿洲ニ於キマス裁判事務ガ増加シタカラト云フノデ、此處デ御承知ノ通り豫備金ノ支出ヲ爲サレテ居ルノデアリマス、此滿洲及ビ中華民國ニアリマス在外公館ニ於ケル、此犯罪或ハ訴訟事務ガ増加シタカラ、此豫備金支出ノ必要アリト御要求ニナリマスガ、ドウ云フ點ガ之ヲ増加シテ居ルカ、此中ニ私ハ外地ニ於ケル帝國ノ網紀官紀ノ紊亂ノ事實ニ付テ政府ノ所見ト、將來ニ對スル覺悟ヲ伺テ見タイト存ジマス、昭和九年七月十二日カラ同十六日ニ掛ケマシテ、五日間ニ亙テ、アノ瓦房店ヲ中心ト致シマシテ、夜間運行致シマス滿鐵ノ貨車ガ、北方ニ向テ行カウトスル時ニ、其汽車ハ空轉ヲシテ、車軸ハ廻リ居ルガ進行シナイノデアリマス、能ク其原因ヲ調査シテ見タナラバ、百六十米ノ長イ間ニ、十九箇所ニアノ豆油ヲ「レール」上ニ塗布サレテ居リマシタ、是ハ容易ナラザル犯罪デアリマス、而モ此十二日カナ十六日ニ至ル五日間ニ亙ル此犯罪搜查ニ對シテ、瓦房店警察ハ何ラシテ居ッタカト云フ疑問ガ起リテ來ル、一回起リマシタダケデモ、殊ニ昭和九年ノ七月ノ頃デアリマスカラ、事重大デアル、茲ニ滿洲事件費、滿洲警察費、巡查其他ノ給料ガ莫大ニ豫備金カラ支出サレテ居リマスガ、斯ウ云フ事件ハ果シテ如何ニシテ解決サレタノデアアルカ、過般外務大臣其他ノ政府委員ニ、他ノ委員會ニ於テ質問スレバ要領ヲ得ナイ、然ラバ一昨年本件ニ付テ答辯シタル政府ノ答辯ト、今年答辯スル所ガ根本ガ違ッテ居ル、

斯様ナコトハ帝國議會ト致シマシテハ不問ニ付シテ、斯様ナ厖大ナ豫備金支出ヲ盲信シテ承認スルコトハ斷ジテ出來ナイノデアリマス、其「ツ」内容ヲ申上ゲマスレバ、五日間ニ亙テ空轉シタガ、是ハ不思議デアルト云フノデ、守備隊ト警察署ガ協力シテ此調査ヲ致シマシタ結果、ドウモ犯人ハ其土地ノ商總會長等ガ之ヲ致シテ居ルヤウデアアル、所謂麻藥ノ密輸入團ノ存在スルコトガ略々推定出來タノデアリマス、茲デ警察ト守備隊トハ協力シテ犯人ノ搜查ヲ致シマシタガ、警察側カラサウスウスル中ニ眞犯人ガ捕リマシタト言テ來タ、ソレハ何處カラカト云フト、普蘭店ノ決馬商會ノ干雲霖外ニ名ヲ眞犯人ナリトシテ連レテ來タ、ソコデ事重大デアルト云フノデ、守備隊ハ營口ノ憲兵隊ニ之ヲ移牒致シマシテ、事實ノ調査ヲ依頼シテ、嚴肅ナル調査ヲ開始スルコトニナッタノデアリマス、其當時警察ガ引擧ゲマシタ眞犯人ハ干雲霖、姜學敏、姜學武ノ三人デアリマス、所ガ愈、已ムナク守備隊ガ憲兵隊ニ報告シタカラ、憲兵隊ノ出動トナッタ、所ガ憲兵隊ハ之ヲ容易ナラザルモノデアルト致シマシテ、瓦房店警察署ニ向ッテ犯人ヲ引渡シテ呉レ、コチラデ調査シナケレバナラヌカラト云フノデアリマシタ、其結果ガ、犯人ハモウ普蘭店ニ送リマシタト云フコトヲ言ッテ、警察ガ取合ハナイノデアアル、此間ノ消息ダケデモ、相當ニ疑ヲ挾ム所ノ問題デアルト思フノデアリマス、ソコデ已ムヲ得ヌカラ憲兵隊ハ徹底的ニ本件調査ノ必要ヲ痛感致シマシテ、全力ヲ擧ゲテ調査ノ結果、今擧ゲタ干雲霖外三名ノ犯人ガ全然虛偽ノ犯人デアリ、捏造ノ犯人デアルコトガ略々分タノデ、此處デ愈、憲兵隊デ調査致シマシタ

結果、瓦房店ノ、即チ商總會長趙鵬程、或ハ萬人、其他ノ巨商ノ一密輸入團ト云フモノヲ發見スルニ至ッタノデアリマス、而モ同地警察署長ハ其署長以下數名ガ加擔サレテ居ル、是等ハ莫大ナル收賄者ト言ハレテ居ルノデアリマス、時ニ末光同警察署長ハ此事ガ分タト云フノデ、一大狼狽ヲシテ、即時營口ノ憲兵隊ニ行キマシテ、サウシテ大畑隊長ト面會シテ、是ガ揉消シ運動ヲ開始シタガ、容易ニ是ハ事ガ濟マナイ、ソコデ關東廳方面ニ於キマシテモ常常ナ狼狽ヲシテ、東川奉天警察署長ト云フモノハ、其方面ニ於ケル相當ナ勢力者デアアル、其方面ニ泣キ付イテ、共同シテ揉消シ運動ヲシテ、遂ニ是モ成功セズ、已ムナク外務省ハ營口領事館ニ向ッテ檢事ノ任命ヲシナケレバナラナカッタ、ソコデ檢事ノ任命ハ、高田書記生ヲシテ檢事取扱ヲ外務省ハ任命サレタノデアリマス、本件ニ付テハ昨年ノ委員會ニ於テ外務政府委員ハ之ヲ認メラレテ、今尙ホ速記録ニ殘ッテ居ルニ拘ラズ、此處デ高田檢事取扱ヲシテ警察署長其他ノ者ヲ逮捕ニ向ハセタノデアリマス、逮捕ニ向ヒマシタ所ガ、警察ハ俺ハ行カナイト、斯ウ云フコトニナツテ、警察權ヲ有セザル、日本ノ司法權ヲ代表スベキ、司法權行使ノ途ニアリマスル此高田檢事取扱ノ事務ハ執行不能ニ終ッタ、是ガ唯其儘トナリマシテ、日本ノ司法權ノ發動ハ、犯人アリト雖モ如何トモスルコトハ出來ナイ、是レ我ガ日本ノ外地ニ於キマスル司法權、行政權行使ノ上ニ於ケル重大ナル、將來ニ於ケル禍根ヲ貽スモノデハゴザイマスマイカ、斯ルコトヲ外地ノ官界ガ之ヲ爲ス、斯ルコトデハ我ガ日本ノ外地ニ於キマスル統制、或ハ司法權、行政權ハ全ク

支離滅裂デ、己レ中心ニ悉ク行動ヲ爲シ得ルト云フコトモ疑ハレル、是等ハ此一局部ニ起ッテ問題トセズ、苟モ帝國ノ威信ヲ中外ニ發揚セント致シマスルノニハ、時ノ政府ハ之ニ對シテ所謂「一刀兩斷」解決ヲ與ヘテ、國民ノ疑惑ヲ一掃サルベキ必要アリト痛感致シマスルガ、政府ハ何ト御心得ナサレテ居リマスカ、此點ヲ明ニシテ貰ヒタイ（拍手）此重大事件ガ過日一部ノ政府委員ニ於テ、アノ問題ハ不起訴ニナリマシタ、不起訴ニナッタ言ッテ、ドッチガ本當ノ犯人ナンダ、元ト拵ヘタ干雲霖等ガ、警察カラ言ヘバ眞犯人ダト言フ、憲兵隊ノ調査ニ依ルト云フト、瓦房店ノ商總會長等ガ悉ク密輸入團デアリマス、常識ヲ以テシテモ分ルデヤアリマセヌカ、自分ノ管轄ニアル所ノ其鐵道ガ、五日間ニ亙ッテ夜間進行スル貨車ガ、ヤハリ此空轉ヲサセテ、其間ニ密輸入シタル所ノ品物ヲ皆降ロサスノデアアル、其事ガ健全ナル帝國ノ名譽アル、代表スル警察ニ於テ檢事取扱出來ナイトハ何事デアアル、一日一回出來タナラ、犯人ガ逃亡シタト言ヘバ、是ハ已ムヲ得ナイガ、五日間ニ亙ッテ連續シタ所ノ繼續犯罪デアアル、是分ラスト云フコトハ、ドウ致シマシテモ私共ハ考ヘ及ブ所デハゴザイマセヌ、是等ノ問題ヲ明ニシテ置カナケレバナラヌ、要スルニ當時ハ此行政權ヲ、關東廳ヲ廢止シテ對滿——所謂軍部ニ之ヲ收メルト云フ時分ニ擧グ當時ノコトデアリマスルカラ、軍部ノ調査サレタコトガ事實デアアルカ、警察署長ガ——高田檢事取扱ヲ任命サレタ外務省ガ間違ッテ居ルノカ、又是ハ司法權ノ發動ニ依ッテ調べニ行ッタケレドモ、自分ガ警察權ヲ持タナイカラ、此處デ遂ニ警察官

吏ヲ逮捕スルコト能ハザルニ至ツタ、是ガ我ガ日本現代ニ於ケル司法警察官ト檢事トノ對立デ、將來ニ於ケル改革シナケレバナラヌ根本モ外地ト同ジデアリマス、司法大臣、司法省ハ此點ヲ餘程御考ニナラナケレバ、左様ナコトガ内地ニモ少クアリマセヌゾ、斯様ナコトデ我ガ日本ノ憲法、我ガ日本ノ司法權、我ガ日本ノ行政權ノ確保ト統一ハ、何ニ依ツテ爲スコトガ出來得ルノデアリマセウカ、私共ハ外地ニ於キマスル今ヤ我ガ日本ノ内容ハ、國民ノ生活ハ、實ニ此小サキ磯取蘆島ニ詰込マラレテ生活スルコト能ハズ、一人ノ「パン」ヲ七人、十人デ爭ツテ居ル日本帝國ノ現狀デハアリマセヌカ、此時ニ當リマシテ外地ニ於ケル所ノ政治、外地ニ於ケル所ノ行政、司法權ガ斯様ナコトデ、信賴シテ吾々ガ行ケルコトガ出來マセウカ、此點ヲ外務大臣、拓務大臣等ハ、又本件ニ關聯致シマシテ、幾分軍部モ關係ガアリマスガ、本件ハ憲兵隊ノ擧ゲタモノガ是カ、警察ノモノガ是カ、外務省ガ任命サレタ高田檢事取扱ノ行動ガ是カ、其間ニ於ケル明確ナル答辯ヲ煩シテ、國民ノ疑惑ヲ一掃致シタイト存ジマス

次ハ特別會計、大藏省專賣局ニ關スルモノデアリマス、專賣局ハ先程申上デマシタヤウニ永年ニ互ツテ非常ナ弊害ガアル、煙草ノ買入、今度モ煙草ヲ捲ク紙ヲ買入ノ爲ニ、ヤハリ豫備金支出ヲ致シテ居リマスルシ、又鹽ノ過剰生産ニ依ツテ、豫算ニ不足ヲ生ジタカラト云フコトデ、緊急缺クベカラザル所ニ流用スル所ノ豫備金ヲ流用シテ居ル是ハ私共議會政治ノ上ニ於ケル缺點、缺陷ハ茲ニアツタコトヲ申シテ居タコトハ數年デゴザイマス、丁度專賣局ノ豫算ガ二百

萬圓見積ラレテ居ッテ、ソレヲ其一文モ殘サズニ、ソックリ取ツテシマッテ、サウシ鹽ハ、私ハ一昨年ノ本議場ニ於キマシテ、即チ大藏省ノ專賣局ガ滿洲鹽ヲ安く買ウテ、其間ニ不正ガアル、而モ鹽ヲ回送スル回鹽株式會社ト云フモノガアル、アノ當時不景氣デ、何レノ會社デモ五分以上ノ配當ハ政府モ禁ジ、爲スコト能ハザルニ拘ラズ、回鹽會社タケハ二割乃至三割ノ配當ヲシテ居ル、政府ハ此鹽ヲ運ブダケノモノデアリマシテ、此間ニ不自然ナル支出ヲ爲シテ、其當時モ豫備金ヲ支出シタカラ、本員ハ斯様ナコトハ斷ジテ許スベキモノデナイト申上ゲタ筈デアリマス、然ルニ今又年月ヲ多ク經ザルノニ、又再ビ斯ウ云フコトガアツテ、此二百萬圓ト云フ金、貴重ナル國民ノ膏血ヲ何ニ依ツテ使ハレタカ、鹽ノ生産ガ足ラナカツタ、サウシテ鹽ハ日本ノ國內ニ於テ幾萬「キロ」ノ剩餘ガアル、外地ニ出スモノガ幾ラト云フ計算ガ付イテ、年々豫算ニ依ツテ之ヲ取ツテ居ルノニ、二百萬圓ト云フ所ノ鹽ノ生産費ハ莫大ナル量ニ上ルノデアリマス、此量ノ如キハ二箇年間使ヒ果シテモ、マダ使ヒ果セヌ程ノ鹽ヲ買込ンデ居ル、斯様ニシテ豫算ノ所謂流用、惡用ヲ致シマシテ、豫算ノ餘リニ付テ斯様ナコトヲスル、豫算ガ尙ホ餘ルノニ、豫備金ニマデ手ヲ付ケルト云フ如キハ、歷代ノ我が政府及ビ大藏當局ノ行政執行ノ上ニ於キマスル所ノ大ナル失態デアアル、大藏行政上ノ大ナル失態デアリマスルカラ、是等ノ點ヲ能クオ互ガ改革ヲ爲ス所ノ途ヲ圖ルニアラザレバ、帝國議會ノ權能ノ問題ニ缺ケル所ガアルノデハナイカ、吾々ハ飽マデモ此點ヲ追究致シマシテ、大藏當局ニ伺ッテ、一大改革ヲ茲

ニ叫バナケレバナラスノデアリマス

次ニ海軍省、十年三月青森縣ノ東海面ニ於テ潛水艦伊號五十三號竝ニ六十三號ハ、此處デハ觸衝トナッテ居ル、吾々ハ衝突ト言ヒマスガ、觸衝ダカラ大シタコトハナイニ違ヒナイ、之ニ對シマシテ相當ナル豫備金支出ヲ爲サレテ居ルコト、續イテ本州東方海面激浪ニ遭遇シテ、驅逐艦夕霧ノ損傷ノ爲ニ費用ガ要ル、其結果ニ於テ其金ヲ要求スルノダト云フコトニナッテ居リマスガ、然ラバ此青森縣東海面ニ於ケル潛水艦五十三號ト六十三號トノ其觸衝ノ程度、之ニ要シマシタ費用ノ實際ノ見積ヲ御伺シタイ、同年九月ノ東方海面激浪ニ遭遇シタ驅逐艦夕霧ノ損傷ノ程度、又是ハ激浪ノ爲ニ損傷ヲ來シタノデアアルカ、他ノ障礙物ト是ガ衝突ヲシテ、此莫大ナル豫算ヲ要求シナケレバナラス程ノ費用ガ入用ト相成ツタノデアアルカ、其邊ノ内容ヲ詳細ニ御示シアリタイト思ヒマス、又倫敦軍縮會議ニ對シマシテ、御承知ノ通り四十一萬餘圓ヲ要求シテ、是ガ悉ク費消サレテ居リマス、是亦豫備金ヨリ支出シテ居ル問題デアリマスルガ、此倫敦軍縮會議ノコトニ付テハ、今日本員ハ彼此レ申シマセヌ、所謂國家ノ體面、國家ノ將來ヲ慮リマシテ何モ申シマセヌ、唯此四十一萬餘圓ノ中ニ、機密ニ屬スルモノガ幾何デアアルカト云フコトヲ、御示シテ願ヒタイト思フノデアリマス、次ニハ外務省——拓務省ニモ多少關係ガアリマスガ、ヤハリ外地ノ綱紀問題デアリマス、青島領事館ニ起リマシタ大不正事件、即チ是デアリマス、此點ニ付テ私ハヤハリ豫備金ヲ、即チ中華民國、滿洲ニ於ケル所ノ領事裁判事務ガ多イ爲ニ、莫大ナル御要求ニ相成ツテ居ル、此青島領事館

ノ副領事ニ茂木藤次郎ト云フ者ガ居ッテ、此人ガ勤務中、官金ト公金ヲ合計シテ約四十二萬餘圓ヲ費消致シタル事件、此巨額ノ金ハ政府ノ言フ所デハ、昭和二年四月ヨリ十年五月ト仰セニナッテ居ルヤウデアアル、ケレドモ事實茂木某ハ昭和十五年時代カラ投機ニ手ヲ出シテ有ユル濫費ト、有ユル放漫ナル生活ヲシテ居タコト云フコトヲ、本員等ハ之ヲ知ツテ居ル、假令政府ノ言ハレル昭和二年カラ十年迄ダト致シマスルニシテモ、此莫大ナル官金公金ヲ費消致シマスルノニハ、數年間ニ互ル繼續犯デアリマス、其巨額ノ費消サレテ居ル事實ニ徴シマスレバ、其當時犯罪アリト認メルコトハ當然デアアル、ソレガ爲ニ歳出歳入ニ莫大ナル支障ヲ來シテ居ルデハゴザイマセヌカ、其費消項目ハ主トシテ船舶出入港取扱手数料ヲ橫領シテ居ルコト、ソレカラ旅券査證料ヲ橫領シテ居ルコト、ソレカラ居留民團ヨリ納付ノ政府貸付金ニ對スル利息七年ト八年度分、約十三萬四千圓ヲ橫領シテ居ル、收入印紙ノ賣上代金、居留民團ニ交付スル所ノ青島小學校ヘノ補助金、或ハ對支文化事業特別會計ノ分ダケデモ八萬餘圓、其他デアアルノデゴザイマス、之ヲ合計致シマスルト、四十餘萬圓ノ巨額ニ上ルノデアリマスルガ、政府ノ言ニ從フモ、約八年間ノ繼續犯デアアル筈デアリマス、此長キニ互リマスル大不正事件ガ、今日ニ至ル迄判明シナカッタト云フコトハ、是ハドウ云フコトデゴザイマスカ、此點ガ外地ニ於キマスル官紀モ、會計法モ全ク支離滅裂ダト——私ハ皆トハ申シマセヌ、先程申シマシタガ、是等ヲ見マシテモ實ニ驚クベキコトデハゴザイマセヌカ、内地ニモ固ヨリ斯様ナ例ハ少クアリマ

セヌガ、併シ外地ニ居ラレマスル官吏ハ僅カノ數デアリマシテ、斯様ナコトガアルト云フコトハ洵ニ遺憾ノ極ミデアリマス、然ラバ政府ハ斯ル監督上ノ無責任ガ誰ニ歸スルノデアリマスカ、外務大臣ニアルノカ、時ノ總領事ニアルノカ、其無責任ナ八年間ノ長キニ互ル所ノ、斯ウ云フ綱紀紊亂ヲ默認シテ、無視シテ、サウシテ帝國議會ニハ其報告ナクシテ、議會ヲ欺イタトモ言ヒ得ルコトデゴザイマセウ、是等ハ如何ニ相成ルモノデアリマスルカ、當時斯ル官金保管ノ責任ニアリマシタ者ハ誰デアリマスカ、之ヲ伺ヒタイ、私ノ推定スル所ニ依レバ、當然總領事デナクテハナラナイ、今日ノ會計法ノ上カラ申シマシテモ、其出納官吏タル者ハ當然ハ總領事デアル、サウシテ茂木某ト云フモノハ會計補助官デアッタ、補助官ト言ヘバ分掌官吏デアリマスカラ、隨テ是ニ於テ……

(議長退席、副議長著席)

是ガ國家ノ官金及ビ公有物ヲ費消シタニ對スル、責任ノ歸屬點ヲ發見シナケレバナラスコトニ相成ル、會計法ノ命ズル所ハ、全然御無視ニ相成ッテ斯様ナコトヲ默認サレテ居ルノカ、法律アリト雖モ之ヲ眼中ニ置カズト致シマスルナラバ、國家ノ機構、國家ノ統制、何ニ依ッテ運用致スコトガ出來ルノデアリマセウカ、然ラバ何故ニ八年間、私ノ考デハ丁度十箇年間ニナリマスガ、此不正ガ判明セザルカト云フ所ニハ、共犯ガアルノデハナイカ、一人ノ領事官補デ以テ四十幾萬圓ト云フ金ハ、容易ナラザルモノデアリマス、是ガ一人ノ力ニ於テドウシテ消費サレ、是ガ分ラズニ居ルカ、數人ノ或ハ共犯ナクンバ、斯ル犯罪繼續ヲスルコトハ斷ジ

テ出來スト思ヒマス、外務大臣ノ之ニ對セラレマスル御所見ヲ伺ヒタイト存ジマス、其後金員ノ辨償方法ハ如何ニ相成ッテ居リマスルカ、國家ニ損害ヲ掛ケタナラバ、明ニ出納官ハ是ガ補償ノ責任ニ任ジテ居ルノデアリマス、其後國家ニ對スル補償ハ如何ニ相成ッテ居ルカ、其總領事ハ現在如何ナル所ノ如何ナル地位ニオ居デニナリマスカ、如何ナルコトヲ爲サレテ居ルカ、一切ノ實情ヲ明答アリタイト思フノデアリマス、尙ホ御注意ニ申上ゲナケレバナラス、帝國議會トシテモ考ヘナケレバナラスコトハ、會計法ノ法規ノ三十五條ニ依リマシテモ「出納官吏ハ法令ノ定ムル所ニ依リ現金又ハ物品ヲ出納保管スヘシ、出納官吏ハ其ノ出納保管ニ係ル現金又ハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負ヒ會計検査院ノ検査判決ヲ受クヘシ」ト命ゼラレテアリマス、其第三十六條ニハ、出納官吏其保管ニ係ル現金又ハ物品ノ亡失毀損シタルトキハ、善良ナル管理者ノ注意ヲ怠ラサリシコトヲ會計検査院ニ證明シテ、其責任解除ノ判決ヲ受クベシ、其判決アルニ非ラザレバ、如何ナルコトアルト雖モ、斷ジテ責任解除ノ途ニ出ヅルコトハ相成リマセヌ、其ノ亡失毀損ニ付辨償ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス」トアルノデアリマス、今會計規則ニ依リマスルト、第二百三十一條ニ「出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル現金ノ出納保管ニ付單ニ自ラ事務ヲ執ラサルコトヲ理由トシテ其ノ責任ヲ免ルルコトヲ得ス」トアル、出納官吏デアリシ其當時ノ總領事タル者ハ、絕對ニ其責任ハ免ルル所ノ餘地ハアリマセヌ、又其百三十四條ニハ「各省大臣ハ出納官吏又ハ出納員ノ行爲ニ因リ政府ニ損失ヲ生セシメタリト認ムル場合ニ於テハ會計檢

査院ノ判決前ト雖其ノ出納官吏又ハ出納員ニ對シ辨償ヲ命ズルコトヲ得」トアリマスガ、之ニ對シテ外務大臣ハ如何ナル御處置ヲ今日マデ御執リニ相成ッタカヲ伺ヒタイ、又百三十六條「出納官吏ノ帳簿金櫃ハ毎年三月三十一日又ハ轉免、死亡、退職其ノ他異動アリタルトキ所管大臣検査員ヲ命ジテ之ヲ検査セシムヘシ」トアリマシテ、絕對ニ毎年検査ヲシナケレバナラスコトニ相成ッテ居ル、此検査ヲ毎年致シマシタナラバ、此十年間ニ互ル所ノ繼續犯ヲシテ、國家ニ莫大ナル損害ヲ掛ケルコトガ出來得ルモノデハゴザイマセヌ、此點ハ果シテ政府ハ嚴肅ニ法規ノ命ズル所ヲ行ッテ居タノデアルカ、是等ノ點ニ於テ政府ノ所信ヲ行ハレテ居ッタナラバ、一通ハ即チ其立會ウタ所ノ現職官ニ——一枚ハ検査ヲ致シマシタ所ノ者ニ渡シ、一枚ハ時ノ主務大臣ニ向ッテ御送りシナケレバナラスカラ、ソレハ毎年ノ報告書ハ外務省ニ現存シテアルト云フコトガ、當然ノ歸結ト思ヒマスルガ、是ガアリマスカドウカ、私共過般來——私ハ一口申上ゲマスガ、現外務大臣ヲ私ハ御責メスル譯デハゴザイマセヌ、過般ノ決算委員會ニ於キマシテモ、アナタニサウ云フコトヲ申シテ居リマス、併ナガラ前任者ノシタコトト雖モ、現在國務大臣トシテ其席ニオ居デニナルカラニハ、全部ノ責任ヲ雙肩ニ擔フト云フコトハ當然ノ歸結デアリマス、又是ガ處置ニ付キマシテモ、當然ナル責任ガ茲ニ歸屬シナケレバナラスコトハ、御諒承ニ相成ッテ居ル筈ダト思フ、是等ニ對シマシテ外務大臣ノ明快ナル御答辯ヲ煩シマシテ、サウシテ日本國民全體ガ相當ニ之ヲ認識シテ居ル問題デアリマスカラ、國民ガ此疑惑

ヲ一掃スルコトガ出來マスルヤウナ途ヲ御執リニナルト云フコトガ、更始一新内閣ノ使命ナリト信ズルノデゴザイマス

次ハ内務省第一豫備金

(副議長退席、議長著席)

昭和九年、昭和十年度支出ニ付テ御伺シタイコトガアリマス、豫算ニ内務省ガ非常ナ杜撰ナ御豫算ヲナサレタノデアルカ、驚クベキ項目ガアリマス、ソレハ軍事救護費ノ件デアリマスガ、當初豫算ヲ立テラル、ニ當リマシテハ、慎重精査ヲナサレテ、帝國議會ニ豫算ヲ御請求ニ相成ルノガ、議會ニ對スル時ノ政府ノ當然執ルベキ途デアアルノデゴザイマスガ、其當初豫算ハ百八十一萬餘圓ヲ議會ニ御請求ニ相成ッタモノト思ヒマス、政府ノ責任トシテ當然ノコトデアリマス、其百八十八萬圓デ済ムモノニ對シテ、又百萬圓ト云フ此緊急已ムベカラザル豫備金ヲ御要求ニナッテ居ル、此點ハドレダケノ御見込違ヒデアッタノカ、ドウ云フ理由デ、是ダケノ、殆ド七割以上ノ増加ヲ來スト云フコトハ、内務當局當初ノ豫算編成ノ一大失態デアアルノカ、或ハ又何等カノ非常ナル事件ノ結果、斯様ナコトガ招來シタノデアルカ、固ヨリ吾々ハ軍事救護費ノ支出ニ付キマシテハ、絕對ニ是ハ必要デアリマシテ、之ヲ阻ム者デモナケラネバ、邪魔ヲスル者デモアリマセヌ、此救護ヲ要シマスル所ノ國民ニ對シマシテハ、帝國ハ喜ンデ是ガ救護ノ任ニ當ルコトハ當然ナル責務デアリマス、唯當初豫算ノ査定ニ莫大ナル缺點ガアッタノデアアルカ、其責任、是亦何人ガ御負ヒニナルノデアアルカト云フコトヲ承ッテ置キタイ、其次ニハ第一豫備金支出中ニハ警察費連帶支辨費ト云フモノガアリマス、是ハ十年度末ノ

三月二十九日、其年度ハ一日シカアリマセヌ、モウ餘ス所ノ其年度ハ一日シカナイニ、莫大ナル豫算ヲドウシテ之ヲ御消化ニ相成ツカ、是ガ今マデノ我が日本ノ政府ノドウモ非常ナ缺點デアリマス、明日一日シカナイ時ニ何百万ト云フ金ヲ取ル、ドレダケノ魔術ガアルカ知ラヌガ、其間ニドウシテはダケノ金ガ使ヘルカ、此點ハ豫算惡用ノ事實ノ例ト言ハナケレナリマセヌ、之ニ關聯致シマシテ思當ルコトハ、警察費ノ緊急要求ヤ増大ノ場合ニハ、多クハ已ムヲ得ナイコトデモアリマセウ、併シ現在ノ如キ官權ノ濫用、人權ノ蹂躪、續イテ暴行脅迫ヲ助長スルガ如キ警察費ノ増大ニハ、斷ジテ反對シナケレバナライ、是等ノ人權蹂躪、憲法無視、選舉干渉ノ不法行為ニ付テハ、特別議會ニ於テ、モウ既ニ内務大臣其他ノ方々ハ十分ニ御認識ニ相成ツテ居ルコト思ヒマス、併シ私ハ此處デ、不穩文書其他ノ取締法案ノ行惱ミモ、是ハ議會ノ罪ニアラズシテ、今日マデ政府官憲ガ法ノ惡用曲解ヲシテ來タ結果ノ產物デアッテ、其罪ハ斷ジテ政府ニアルト言ハナケレバナリマセヌ、本員ガ人權蹂躪、暴行脅迫ヲ助長スル爲ニハ、其警察費ノ増大ヲ來シテハ相成ラス、嚴禁スベキモノダト今申シマシタガ、然ラバ其一例ト致シマシテ茲ニ申上ガマス、澤山申上レバ時間ガアリマセヌカラ、一例トシテ、今日マデ選舉法違反取締ニ關スル官權ノ濫用ニ付テハ、各先輩諸公ヨリ有ユル事實ヲ摘發サレマシテ、之ヲ御述ベニナリマシタガ、私ハマダ其中ニ現レテ居ラヌ一ツノ例ヲ申上ガテ、内務大臣、司法大臣、總理大臣等ノ御反省ノ基礎ニ致シテ見タイト存ズルモノデアリマス、又現

在此帝國議會デ官權濫用、人權蹂躪ノ聲高キ時ニ於テ、マダ其聲ガ高イノニ、事實ニ於テ地方ニ於テハ、今日今モ毆ラレツ、アル事實ヲ私ハ見テ居ル、帝國議會ヲ侮辱スル是ヨリ甚シキモノハゴザイマスマイ、實ニ恐怖地獄ヲ今日出現シテ居ルノデゴザイマス、此點ハ何レ私ハ別箇ノ機會ニ於テ政府ニ御問致シタイト云フ考デ此處ニハ申シマセヌ、一ツノ實例ト申シマスノハ、昨年ノ四月長クキ滿洲國皇帝陛下我國ヲ御訪問ニ相成リ、其御京都市ヘ御訪問ノ榮ヲ賜ッタノデゴザイマス、其前ニ於テ警察ハ萬一ノ事アッデハト、有ユル方面ノ人々ヲ多數檢束致シタノデアリマス、其中ニ年二十一歳ノ白面ノ書生鰐淵清實ナルモノガゴザイマシタ、此者ハ正業ヲ持ッテ、或ル有數ナル製本屋ニ數年間印刷工トシテ勤メ、熟練工ノ一人デアリマス、此者ガ色々ナ疑惑ヲ受ケテ、遂ニ京都市西陣警察署ニ引張ラレタノデアリマス、其拷問ノ仕方ハ、此處デ申上ゲルノモ帝國ノ恥辱トシテ、私ハ御控ヘ申シマス、今日德川專制政治ハゴザイマセヌ、畏クモ英邁ニ涉ラセラル、天皇陛下ヲ戴キ奉リ、今日日本國民ノ總テハ、陛下ノ忠良ナル赤子デゴザイマス、此者ニ對シテ何等法ノ據ルベキモノナキニ拷問ヲ致シテ、有ユル毆打、有ユル苦シミ、有ユル所ノ方法ヲ用ヒテ、遂ニ四月四日午後七時死ニ至ラシメタ事實ガアル、之ヲ致シマシタ者ハ時ノ警部補田中、又之ニ加擔致シタル者モ數人アツタデアリマス、其田中文一郎ガ主トナッテ數人ト共ニ遂ニ撲殺シタノデアリマス、是等ハ今回ノ選舉ニモ斯様ナ例ガ少クナイコトハ、過般來ノ議場ニ於テ相當ニ論議サレテ居リマス、併シ是ハ選舉ニハ關係

ハアリマセヌ、王道政治、仁政ヲ以テ御臨ミアラセラル、滿洲國皇帝陛下御來臨ニ當リマシテ、其下ニ於テ斯ノ如キコトノ行ハレタト云フコトヲ見ル時ニ、吾々今日日本國民ハ何ノ顔アッテ之ニ相對スルコトガ出來マセウ、斯ルコトヲ私共ガ今日ニ見ルコトハ、實ニ恐ルベキモノデアリマシテ、而モ是等ノコトヲ爲シタ所ノ署長ガ、管理監督ノ任ニアル署長ガ、今ニ其任ニアッテ恬トシテ其責任ヲ顧ミル所ガナイト云フコトニナルナラバ、日本ノ官界ノ綱紀ノ紊亂、官紀ノ紊亂、實ニ驚クベキモノガアルト國民ハ思ウデアリマセウ、是等ニ對シテ内務及司法大臣ハ如何ナル御感ジヲ御持チニナルカ、此恐ルベキ此世ナガラノ活地獄ヲドウシテ救済スルカト云フ具體案ヲ示スニ非レバ、吾々ト致シマシテ、國民トシテ安心シテ今日ノ政務ヲ託スルコトハ出來ナイ、之ニ對スル確固タル御所見ヲ兩相ヨリ承リタイノデアリマス、茲ニ一言簡單ニ申加ヘテ置キタイノハ、法律ハ如何ナル規定ガアリマシテモ、我が日本ノ國民ハ忠良ナル帝國ノ國民デアリマス、其ノ陛下ノ赤子デアリマスノニ向ッテ、官憲ガ多クヲ罪人ノ如クニ認識スル態度ハ、遺憾千萬ノ極デハゴザイマスマイカ、我が憲法御發布ノ御勅語ノ中ニモ「朕カ祖宗ノ惠撫慈養シタマヒシ所ノ臣民ナルヲ念ヒ」云々ト仰セラレタ、又御勅諭ノ中ニハ「朕我カ臣民ハ即チ祖宗ノ忠良ナル臣民ノ子孫ナルヲ回想シ」ト仰セニナッテ居リマス、明治大帝御登極ノ御降シ給ウタ御製ノ中ニモ「罪アラバ我ヲ罪セヨ天ツ神民ハ朕ガ生ミシ子ナレバ」ト仰セ出サレテ居ル、又一ツニハ「降ルニツケ、照ルニツケテモ思カナ水田ニ立テ賤ハ如何ニト」

大御心ヲ國民ノ日常ニマデ御馳セニナッテ居ルノデアリマス、憲法ノ上ニ於キマシテハ即チ「法律ニ依ルニ非スシテ逮捕監禁審問處刑ヲ受クルコトナシ」ト保障セラレテ居ル、是レ明治大帝ノ大御心デアリマス、今日ノ官憲ガ憲法ヲ輕視シ、之ヲ無視スルノハ、明治大帝ニ對シ奉リ叛逆者ト言ハレデモ辯解ノ辭ハナカラウト思フ、同時ニ之ヲ助長致シマスルコトハ、皇室ニ對シマスル念慮ガ薄クナルノデハナイカト云フコトヲ國民ハ疑フノデハナイカ、官吏タル者ハ此陛下ノ大御心ヲ體シテ、信ヲ盡シ、實ヲ盡サナクテハナラス、其犯人ヲ檢舉シテ之ヲ自白セシメルノニハ、昔ノ大岡裁キノ如キモノヲ警官ニ能ク讀マシテ、又司法當局モ能ク之ヲ御覽セラレテ、今日ノアナタ方ノ裁キヲ爲サル上ノ至寶ト爲サレタイ、私共マダ申上ゲタイコトハ多々アリマスガ、一方ニ於テ莫大ナル豫備金、國民ノ膏血ヲ取ツテ置イテ、サウシテソレヲ以テ斯ノ如キコトニ相成ルトスルナラバ、我が日本ノ民心ノ惡化ハ其處カラ發シテ參リマス、警察ニ行ツタ者デ罪ナキ者デモ反感ヲ起シテ、今ニ見ロト云フ心ヲ茲ニ懷カシメルコトハ、日本ノ國民精神惡化ノ根源モ此點ニ於テ製造スルデハナイカト云フ感ヲ國民ニ懷カスニ至ルノデアリマス、之ハ餘程御考ヤ政府委員ガ貴キニ居ッテ貧シキヲ忘ル、ト云フコトハ、治國平天下ノ要諦デハゴザイマセヌカラ、此邊ヲ能ク御觀味下サッテ本員ノ此質問ニ對シテ、國民ノ疑惑ヲ一掃スルニ足ルベキ、現内閣ヲ信頼スルニ足ルベキ、明快ナル御答辯アランコトヲ御願致シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切りマス（拍

手)

○議長(富田幸次郎君) 有田外務大臣

(國務大臣有田八郎君登壇)

○國務大臣(有田八郎君) 只今ノ御質問ニ

對シテ答辯致シマス、瓦房店ノ警察署ノ警官ノコトニ付キマシテハ、取調ベマシタ所、警口領事館警察ニ於キマシテハ、一昨年以來關係者八名及ビ警察官三名ニ對シテ、訊問取調ヲ繼續致シマシタガ、何レモ事實ヲ否定シテ居リマスノミナラズ、本件唯一ノ證據トナルベキ滿人ノ自白モ信ヲ置キ難イ狀況デアリマシテ、犯罪ノ證據ガ十分デナカッタ爲ニ、昨年ノ十月二十一日不起訴處分ニ付スルコトトナツタノデアリマス、又之ニ關聯スルト稱セラレテ居リマス所ノ滿人ノ妻學敏外二名ハ、普蘭店ニ住居ヲ有シテ居リマシタ爲ニ、瓦房店警察署ニ於キマシテ之ヲ檢舉シ、關東州官廳ニ引渡サレ、地方法院ニ於キマシテ取調ベマシタケレドモ、是亦證據不十分ニテ釋放サレタト云フコトニ相成ツテ居ルノデアリマス、次ニ倫敦會議ノ費用ノ機密費ハ幾許デアルカト云フ御質問デアリマスガ、是ハ七万五千圓デゴザイマス、第三ニ茂木副領事ノ事件ニ付テ御尋デアリマスガ、本事件ガ何故多年ニ互リ發覺セラレナカッタカト申シマスルト、色々ノ事情モゴザイマスルガ、青島ニ於キマシテハ小學校並ニ中學校ノ經營ニ付キマシテハ、民國ニ對シマシテ政府ガ毎年十六七萬圓若クハ二十數萬圓ノ補助金ヲ交付シテ居リマスノト、又政府貸付金利子ト致シマシテ民國ガ毎年政府ニ納メル十二萬圓ヲ、青島總領事館ガ取扱ツテ居リマシタ特殊ノ事情ガアッタノデアリマス、然ルニ茂木ハ自己ノ横領ニ依リマス不足金ヲ彌縫スル爲ニ、

之ヲ交互ニ差繰リナガラ、補助金交付ノ遲延ニ付キマシテハ、民國側ニ對シマシテ滿洲事變發生以來我國ノ財政ノ都合上、本省ヨリノ送金ガ遅レ勝チデアルカラシテ、補助金ノ交付ノ遅ル、ノハ事情已ムヲ得ナイト稱シマシテ民國ヲ欺瞞シ、民國ニ於キマシテモ亦斯ル説明ニ對シテ格別疑ヲ懷カズ、隨テ外務省又ハ總領事ニ對シマシテ、補助金交付遲延ニ付テ抗議ヲ具申セルコトガアリマセヌ、又貸付金ノ利子ニ付キマシテハ、民國ニ於キマシテ昭和七年八月頃カラ、元金ノ償還延期ト利子低減ノ運動ガ繼續シテ居ッタノデアリマス、茂木ハ之ヲ奇貨ト致シマシテ巧ニ利用シテ、大藏省ニ對シマシテハ屢、官廳名義ヲ以テ、民國側ニ對シ利子ノ納付方ヲ督促ヲ爲シツ、アルガ如キ文面ノ偽電ヲ發シテ居リナガラ、其實他方民國カラハ償還期限前ノ利子バカリデナク、期限後ノ分ニ付テモ政府ニ於テ何等ノ諒解ヲモ與ヘマセヌノ、勝手ニ年四分ノ利子ヲ年二分ニ引上ゲ、而モ歲入徵收官ガ納入告知書ヲ發セナイノ、期限後ノ利子ナリト稱シマシテ之ヲ受領シ、以テ自己ノ横領セル國庫金ノ不足ヲ填補致シタモノデアリマス、在外公館ニ於キマス歲入及ビ歲出金ニ付キマシテハ、責任者デアル出納官吏カラ、本省ニ對シテ定期的ニ證明書類ヲ提出致シマシテ、檢査ヲ受ケルコトニ相成ツテ居リマスルガ、青島總領事館カラノ會計上ノ證明書類ハ、從來遅レ勝チデアリマシタケレドモ、提出シテ來マスルモノハ辻褄ガ合ツテ居リマシテ、書類上ニ於キマシテハ完備致シテ居リマシタノデ、雜務ノ多イ在外公館ト致シマシテハ、多少遲延スルコトガアリマシテモ、事情已ムヲ得ナイト致

シマシテ、從來本省トシテハ之ヲ會計檢査院ニ提出シテ、檢査ヲ受ケテ居ッタノデアリマス、長ク發見サレナカッタ事情ハ、右申述ベマシタヤウナ事情カラデアアルノデアリマス、此公法上ノ賠償責任ヲ負ヒマス者ハ出納官吏デアリ、官廳デアアルコトハ申スマデモナイノデアリマスガ、事件ガ何分ニモ複雜致シテ居リマスルシ、又昭和九年勅令第二十五號ニ依リマシテ、出納官吏ノ辨償ニ基ク債務ニ付キマシテハ、昭和九年二月十一日以前ニ於ケル事由ニ依ルモノハ、將來ニ向ツテ之ヲ免除セラレテ居リマスノデ、本事件ノ判決確定ノ上デ、慎重取調ノ上決定致シタイト存ジテ居ルノデアリマス、差當リ當時ノ總領事、出納官吏デアリマス坂根總領事ニ對シマシテハ休職ヲ命ジテアルノデアリマス、是等ノ前任出納官吏ノ監督其他ノ問題ニ付キマシテハ、判決確定ノ上ニテ篤ト研究ノ上、適當處分ヲ致シタイト考ヘテ居ルノデアリマス、此茂木副領事ノ事件ハ在外公館ニ於キマシテ起ツタ極メテ不祥ナ事件デアリマシテ、外務省ト致シマシテハ其監督ノ責任上、其他ニ付テ洵ニ遺憾ニ堪ヘナイノデアリマシテ、何トモ申譯ハナイノデアリマス、將來ニ付キマシテハ十分監督ヲ嚴重ニ致シマシテ、斯ル不祥事ノ再ビ生ジナイヤウニ十分注意致ス積リデアリマス(拍手)

(政府委員中島彌國次君登壇)

○政府委員(中島彌國次君) 只今ノ福田關

次郎君カラノ御質問ニ對シマシテ御答辯申上ゲマス、大藏省專賣局ニ於キマシテ、昭和九年十一月頃第一豫備金二百萬圓支出シテアルコトニ關シマシテ、御非難ガアリマシタガ、是ハ鹽ノ購買及ビ賠償ノ爲ニ起ツタ

コトデアリマシテ、當時ニ於キマシテハ、非常ニ天候ニ惠マレマシタガ爲ニ、内地ノ鹽田ニ於キマシテ非常ニ多額ノ鹽ガ生産サレマシタノデ、豫算ガ不足シマシタカラ、已ムヲ得ズ豫備金ノ支出ヲ爲シタノデアリマス、モウ一ツノ原因ハ、内地ノ工業ノ發達ニ伴ヒマシテ、海外カラノ鹽ノ輸入ガ當時非常ニ盛ンデアリマシテ、是ガ爲ニ又豫算ノ不足ヲ生ジテ參リマシテ、已ムヲ得ズ豫算外ノ支出ヲシタノデアリマス、此二ツガ原因トナリマシテ、二百萬圓ノ第一豫備金ノ支出ヲ爲シタノデアリマス、此支出ニ付キマシテハ憲法ノ條章及ビ會計法ノ規定ニ照シ、斷ジテ不當ノ支出デゴザイマセヌ、即チ第一豫備金ハ避クベカラザル豫算ノ不足ヲ補フモノデアリマシテ、大藏省ノ關スル限り、不當ノ支出ハ斷ジテ爲シテ居ナイト云フコトヲ茲ニ斷言スル次第デアリマス、之ヲ以テ答辯ト致シマス(拍手)

(國務大臣林賴三郎君登壇)

○國務大臣(林賴三郎君) 福田君ノ御質問

中、司法部關係ノコトニ付テ御答ヲ致シマス、昭和九年度ニ於キマシテ、百五十七萬圓ノ豫備金支出ヲ致シマシタノハ、同年度ニ於キマシテ、豫定ヨリハ約六千五百人ノ收容者ノ増加ガアツタ結果デアリマス、其收容者ハ大體申シマス、竊盜、賭博、富籤、詐欺、横領ト云フヤウナ刑法犯デアリマシテ、現實有罪ノ判決ヲ受ケテ收容サレタ者ガ多數アル次第デアリマスノデ、豫メ多數ノ收容者アルベキコトヲ豫期シテ、此豫備金支出ヲ爲シタ譯デハナイノデアリマス、第二ノ京都ノ警察署ニ於テ、不法ノ處置ガアツタト云フ事柄デアリマスガ、私ハ具體的ノ事件ニ付テハ御答スルコトヲ避ケマスガ、

人權ヲ尊重スベキコトハ當然ノ事柄デアリ
マシテ、苟モ不法ニ人權ヲ蹂躪シタヤウナ
事實ガアリマシタラバ、其何人タルヲ問
ハズ嚴正ナル處置ヲ講ジマシテ、サウ云フ
事柄ノ無イヤウニ期スル所存デアリマス(拍
手)

〔政府委員村上春一君登壇〕

○政府委員(村上春一君) 御答致シマス、昨
年ノ春青森縣ノ東海岸ニ於キマシテ、伊號
第五十三潜水艦ト同第六十三潜水艦トガ、
深夜演習中追撃演習ヲヤツテ居リマス際ニ
接觸致シマシテ、艦體ニ損傷ヲ來シマシタ
コトハ洵ニ遺憾トスル所デアリマス、而シテ
其被害額ハ艦體ノ方ガ二萬二千餘圓デアリ
マシテ、軍需品ノ方、詰リ兵器其他ノ方ガ二萬
七千餘圓デアリマス、ソレカラモウ一ツ、ヤハ
リ昨年ノ海軍大演習中ニ、第四艦隊ガ丁度本
邦ノ東海面ニ於キマシテ演習中、未曾有ノ颱風
ニ遭ヒマシテ、非常ナ大キナ珍シイ三角波ガ
襲來致シマシタ結果、夕霧ト初雪、此二ツノ
驅逐艦ガ非常ニ翻弄サレマシテ、其結果
艦首ニ損傷受ケ、其他兵器、機關ニ相當ノ
損傷ヲ受ケタノデアリマス、ソレガ船體ノ
方デ約二百萬圓ノ損害ヲ被リマシタ、軍需
品ノ方デ八十萬圓、合計二百八十萬圓ノ被
害ヲ受ケタノデアリマス

〔政府委員男爵肝付兼英君登壇〕

○政府委員(男爵肝付兼英君) 只今福田君
ノ御質問中、内務省ニ關シマスル件ニ付テ
私ヨリ御答申上ゲマス、第一ノ御質問ハ、
軍事救護費ニ於キマシテ、第一豫備金ノ百
餘萬圓ヲ支出シタルコトハ、餘リニ豫算ト
ハ懸隔ガアリ過ギハシナイカト云フ御質問
ノヤウデゴザイマシタ、本件ニ付キマシテ
ハ、昭和九年度豫算額ハ約百八十萬圓デゴ

ザイマスガ、此經費ハ所謂補充費デアッテ、
前三箇年間ノ支出決算額ノ平均ニ依ッテ、豫
算ヲ計上致シタモノデゴザイマス、所ガ昭
和九年度ニ於キマシテハ、滿洲事變及ビ全
國各地ニ起リマシタル所ノ冷害、旱害、及
ビ養蠶不況等ニ因リマシテ、傷病兵及ビ其
家族等ノ救護ヲ要スルモノガ急増致シマシ
テ、是ガ救濟ノ必要切實ナルモノガアツタ爲
ニ、本金額ヲ豫備金ヨリ支出致シタルデゴ
ザイマス、第二ノ御質問ハ、警察費連帶支
辨金ノ中デ、昭和十年三月二十九日ニ豫備
金ヲ支出シタルハ、怪シカラヌデヤナイカ
ト云フ御質問ノヤウデゴザイマシタ、本件
ハ北海道及ビ府縣警察費ノ増加ニ伴ヒマシ
テ、國庫ノ下付金ヲ要スルコトガ、多カッタ
ノデゴザイマスルガ府縣ノ警察費ノ支出ニ
對シマシテハ、其約六分ノ一ヲ國庫ヨリ下
付スルコトニナツテ居リマスルノデ、隨テ
北海道方面カラ其年度ニ於キマスル不足額
ヲ要求シテ參リマシタコトニ對シマシテ、
其不足ガ年度末ニ判明致シマシタルノデ、國
庫ヨリ之ヲ下付致シタルデゴザイマス、左
様御諒承ヲ願ヒタイト存ジマス

〔政府委員平手勘次郎君登壇〕

○政府委員(平手勘次郎君) 只今福田君ノ
御質問ノ中、陸軍省所管ニ關スル事項ヲ御
答申上ゲマス、九年度ノ滿洲事件、第一豫
備金支出ノ滿洲事件費ハ、國際情勢ノ必要
ニ鑑ミマシテ、在滿航空部隊ノ緊急充備ヲ
必要ト致シマシタ爲ニ、ソレニ要スル經費五
百九十四萬餘圓ヲ支出ノ必要ヲ生ズルニ至
リマシタ、モウ一ツハ匪賊討伐ノ爲ニ、三百
四十九萬餘圓ヲ支出ヲ要スルコトニナリマ
シタ次第デアリマス、御諒承ヲ願ヒマス
○福田關次郎君 一寸此席カラ御許ヲ願ヒ

タイ

○議長(富田幸次郎君) 許可致シマス

○福田關次郎君 マダ本員ノ質問ニ對シマ
スル御答ハ満足スルコトガ出來マセヌ、殊
ニ内務當局ガ、警察官ノ不法事件ニ付キマ
シテ、何等ノ御答ガナイト云フコトハ甚ダ
遺憾ニ思フノデアリマス、又外務大臣ノ御
答辯モ、瓦房店ノ問題ニ對シマシテハ甚ダ
遺憾ナル御答辯デアリマス、又司法大臣
ガ、具體的ノ事ヲ能ク知ラナイデ、具體的
ノ事ハ申セナイト仰セニナルコトモ、是等
ハ既ニ御承知デナクテハナラナイ、其警部
補ハ既ニアナタノ部下デアル裁判官カラ、
二年六箇月ノ刑ヲ御受ケニナツタノデアリ
マスカラ、サウ云フ事ヲ裁判所カラ御報告
ガナイ筈ハナイノデアリマス、併シ其事ニ
付テ内務大臣モ居ラレマセヌカラ、何レカ
ノ機會ヲ以テ更メテ御問スルコト致シマ
シテ、本日ハ他ノ日程モアリマスルシ、時
間モアリマセヌカラ、此程度ニ止メテ置キ
マス

○議長(富田幸次郎君) 三宅正一君

〔三宅正一君登壇〕

○三宅正一君 私ハ、只今福田君ガ諸種ノ
點ニ付テ詳シク御質問ニナリマシタルノデ、
唯一點災害豫算ノ問題ニ付キマシテ、中島
大藏政務次官ニ對シマシテ御質問ヲシタイ
ト考ヘルノデアリマス、只今上程ニナリマ
シタル豫備金支出ノ中ニモ、所謂風水害、冷
害等ノ災害ニ對シマスル支出ノ承諾ヲ求メ
ラレテ居ルノデアリマスルガ、之ニ關聯致
シマシテ、私ハ昨年カラ本年ニ掛ケマシタ
一道一府二十數縣ニ亙リマスル所ノ、大雪
害ニ關シマスル問題ニ付テ、大藏當局其他
政府當局ニ對シマシテ注意ヲ喚起シタイト

考ヘルノデゴザイマス、本年ノ雪害ガ、所
謂數十年來未ダ曾テ見ザル所ノ大雪害デア
リマスルコトハ勿論デアリマスケレドモ、
私共ガ第一ニ御注意ヲ申シタイ點ハ、數十
年ニモ見ザル雪害デアルトハ申シナガラ、
本年鐵道ガ斯ノ如ク停リ、四箇月モ汽車ガ
不通デアッタト云フ事實ニ對シマシテハ、東
海道其他表日本ニ對シマシテ使ッテ居ラレ
鐵道ノ費用ノ十分ノ一ヲ、裏日本ニ對シテ
使ハレルナラバ、私共ハアノ數十分ノ一ニ
災害ヲ輕減シ、防止スルコトガ出來タト思
フノデアリマス、此意味ニ於テ、本年ノ雪
害ガ裏日本ニ對シテ、特ニ痛切ニ感ゼラレ
マシタコトニ對シマシテモ、今日迄ノ表日
本、所謂都會中心ノ政治ノ方針ノ弊害ガ、
偶、現レタモノデアルト云フコトニ付テ、如
何ニ御考ヘニナルカト云フコトヲ私ハ先ヅ第
一ニ御伺シタイノデアアル(「ヒヤ」拍手)
其災害ノ事實ニ付テハ、東北本線、信越線、
羽越線、上越線、其他所謂鐵道省ノヤツデ
居ラレマス鐵道ガ、多キハ二十日ニ亙ッテ
停リ、少キモ十日間以上停ラナイ處ハ殆ド
ナカッタト云フ狀態デアアル、私設鐵道ニ至リ
マシテハ、最モ長ク停リマシタ鐵道ハ、御
承知ノ通り信州ノ豊野カラ新潟縣ノ飯山ニ
至リマスル所ノ彼ノ飯山鐵道ノ如キハ、十
二月カラ四月ノ末マデ五箇月ニ亙ッテ腰ヲ
抜カシテ居ッタト云フ事實ガアルノデアアル、
五箇月停ッテ居ル鐵道ガアツデ、ソレヨリ以
外ニ交通機關ガナイト云フヤウナ狀態ニ於
テ、如何ニ深刻ナル災害ヲ其地方民ニ及ボ
スカト云フコトニ付テハ、此私設鐵道ガ非
常ナ損傷ヲ持ッテ居リマスル場合ニ於テ、之
ニ對シマシテ一定ノ除雪補助費等ヲシテ、
本線ガ通ズル限リハ、少クトモ私設鐵道ハ

通ズルヤウニ致サナケレバ、私共ハ所謂其地方ノ産業ト云フモノヲ救フコトガ出來ナイト考ヘルノデゴザイマス(拍手)更ニ所謂大深雪ニ依ッテ、御承知ノ通り新潟縣長岡市ニ於ケル大野屋ト云フ宿屋ノ如キハ——御泊リニナツタ方々ハ澤山アルト信ジテ居リマスルガ、屋根ノ雪ヲ下シマスルノニ、千圓デ人夫ガ引受手ガナクシテ、千七百圓ノ金ヲ拂ッテ居ルト云フ事實ハ、雪ガ降ラス表日本ニ於テ、私共ハ想像モ及バナイ所ノ、裏日本ノ慘害デアルト云フコトヲ痛感スルノデゴザイマス(拍手)斯ウ云フ點ニ對シテ、政治ト云フモノガ公平ヲ期セナケレバナラナイト云フナラバ、是等ノモノニ對シテ、所謂雪ニ對應スル施設ヲ政府ガ考ヘテ、其施設ニ依ッテ雪ノ被害ヲ少シデモ逃ゲルト云フコトガ、即チ私ハ税金ノ上ニ於テモ、家屋ノ構造ノ上ニ於テモ、色々ノ點ニ付テ裏日本ヲ振興シテ、日本ノ半分ヲ半身不隨ニ陥レナイヤウニスル意味ニ於テ、私共ハ絕對ニ必要デアルト云フコトヲ痛感シテ居ルノデゴザイマス(拍手)

更ニ御承知ノ通り、所謂サウ云フ地方ニ於キマシテ、例ヘバ私ハ新潟縣ガカラ新潟縣ノ例ヲ申上ゲルノデアリマスガ、刈羽郡ノ高柳村ト云フ處ニ於テハ、長イ雪ノ爲ニ小學校ヘ通學ガ出來ナイ、一村ニ十一ノ學校ガアツテ、高等小學校ニ寄宿舍ヲ持ッテ居ルノデアアル、諸君、日本中デ、東京ニ於キマシテハ何千軒ニ一軒ノ學校デ済ミマスル時ニ於テ、雪デ以テ衰ヘテ居ル寒村ニ於テ、學校ガ十一校アツテ、高等小學校ニ寄宿舍ヲ置カナケレバナラスト云フ狀態ニ付テハ、是ダケデモ私ハ義務教育費ノ分擔下渡金ト云フモノヲ、雪害地帯ニ對シテ相當ニ考

慮スルコトガ、政治ノ公平ナリト痛感セザルヲ得ナイノデゴザイマス(拍手)然ルニサウ云フ地方ニ對シテ、甚シキ大雪ノ爲ニ村財政ガ殆ド破産スル程、各戸ノ屋根ノ雪下シノ助成ニ金ヲ要スル時ニ於キマシテ、義務教育費ノ稅源ハヤラス、費用ダケハオ前ノ方デ持ッテ置ケト云フ態度ガ、私ハ東北ヲ先頭ニシテ、東北振興ニ特殊ノ考ヲシナケレバナラス程衰ヘサシタ——政治ノ怠慢ガ東北、裏日本ヲ衰ヘサシタモノデアルト、私ハ痛感セザルヲ得ナイノデゴザイマス(拍手)更ニ所謂今年ノ雪害ノ爲ニ家畜ガ何千頭、何万頭ト死ンデ居ルノデアアル、是モ新潟縣ノ統計デアルケレドモ、新潟縣ニ約五万頭居リマスル中ニ於テ、外ヘ出テ運動ノ出來ナイ爲ニ、所謂青草ヲ食ハナイ爲ニ、馬ガ骨軟症ト云フ病氣ニナツテシマツテ、四五万頭ノ中一万五千頭ガ、或ハ斃レ、或ハ農耕ニ使フコトガ出來ナイヤウナ狀態ニナツタ、之ヲ雪ガ降ッテモ骨軟症ニ罹ラナイヤウニ、出來ルダケノ施設ヲシテ、雪ガ降ッタマガ使ヘラダケノコトヲ致シマスルコトハ、私ハ政治ノ責任デアルト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマス、更ニ雪ノ爲ニ所謂耕地方決潰シテ居ル、苗代ガ出來ナイ、マダ山村ニハ雪ガアル、斯ノ如クシテ私共ハ必然ニ凶作ガ來ルト云フ事情ヲ惧レザルヲ得ナイノデゴザイマスルガ其河川ガ潰レタ、耕地ガ潰レタ、又果樹——梨畑デアルトカ、桃畑デアルトカ、櫻桃デアルトカ云フヤウナモノ、二十年辛苦シテ作りマシタ梨畑ハ全部潰レテシマツタ、之ヲ桃栗三年柿八年ト云フガ、少クトモ八年掛ラナケレバ元ヘ戻ラナイト云フ狀態ヲ考ヘマスル時ニ於テ、之ニ對シマシテ急速ニ復舊ノ費用ヲ計上シテ出

シマスルコトハ、私ハ所謂裏日本ニ對シマスル所ノ、急速ヲ要スル適切ナル仕事デアルト云フコトヲ考ヘザルヲ得ナイノデゴザイマス、是等ノ點ニ付テ私ハ今日ノ所謂東北地方ノ窮乏、裏日本ノ窮乏ト云フコトガ、雪ト云フ自然災害ト、之ニ對シテ今日マデ政治ガ顧ミナカッタ、政治災害——政治飢饉ト雪飢饉ト兩方ヲ受ケテ居ルノデアルト云フ點ニ付テ、如何ニ御考ヘニナルカ、サウシテ災害ノ復舊ト云フモノニ對シテハ、チヨビ——ト出シテ、食ヘヌヤウニナツテハ又出スト云フヤリ方デハ駄目デアッテ、ヤッテ行ケルダケノ巨額ヲ早ク十分ニ出スト云フコトガ、私共ハ必要デアルト考ヘルノデゴザイマス、幸ニシテ所謂各派共同ノ決議案ト云フモノガ出ヨウト云フ狀態ニナツテ居ル時ニ、中島商工大臣ハ(笑聲)此點ニ對シマシテ如何ナル御考ヲ御持チデゴザイマスカ、御尋致シマシテ降壇スル次第デゴザイマス(拍手)

(政府委員中島彌次君登壇)

○政府委員(中島彌次君) 只今三宅君カラ熱烈ナル、雪害對策ニ付キマシテ御質問ガアリマシタコトニ付キマシテハ、洵ニ御尤ナ次第デゴザイマス(笑聲)北海道、東北及ビ新潟縣其他雪害ヲ被ッタ地方ニ對シマシテハ、洵ニ御同情ニ堪ヘナイ次第デアリマシテ、政府ハ之ニ對シテ非常ナル心配ヲ致シテ居ル所デアリマス(總理大臣)ト呼フ者アリ(笑聲)昭和十一年度ノ實行追加豫算ノ中ニ三百五十万圓ト云フ大金ヲ以テマシテ(笑聲)此雪害救済ヲ計畫シテ居ルノデアリマス、尙ホ是ニテ不十分ト認メマシタトキニハ、二千一百万圓ノ第二豫備金ヲ動員致シマシテ、是ガ對策ヲ講ジタイト思ッテ

居リマス、尙ホ是ニテモ不十分ナリト認メマシタナラバ、有ユル手段ヲ講ジマシテ、御満足ノ行クヤウナ方法ヲ講ジタイトスルノガ、政府ノ考デアリマスルカラ、政府一同ヲ代表致シマシテ御答致ス次第デアリマス(拍手、笑聲)

○三宅正一君 只今中島次官カラシテ、政府ヲ代表シテ非常ナ御適切ナル御答辯ヲ拜承致シマシテ、雪害地一同ト致シマシテ、私共非常ニ感激シタノデゴザイマスガ、本年ノ所謂雪害ハ、例ヘバ新潟縣ノ縣廳ガ四月五日マデノ分トシテ本省ヘ差出シマシタ損害ガ三千數百萬圓、山形縣ガ二千數百萬圓、之ヲ一道一府二十二縣ヲ加ヘマスルナラバ、二億圓以上ノ雪害ヲ被ッテ居ルノデハナイカト考ヘルノデゴザイマシテ、僅ニ三百萬圓ヤ四百萬圓ノ金ヲ以テシテハ到底救済スルニハ足ラス、燒石ニ水程デモナイト考ヘルノデアリマシテ、其點ニ付キマシテハ、如何ニ雪害ト云フモノガ深刻ヲ極メテ居ルカト云フ點ニ付テ、更ニ認識ヲ深メラレマシテ、必要ナル費用ハ何處マデモ出スト云フ、一ツ熱意ヲ加ヘラレマスルコトヲ念ヲ押シテ、單ニ駄法螺デナシニ、其言明ヲ實行シテ戴キタイト思フノデアリマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 政府ノ答辯ハアリマセヌ——是ニテ質疑ハ終局致シマシタ、各案ノ審査ヲ付託スベキ委員ノ選舉ニ付テ御諮リ致シマス

○松永東君 日程第六ハ政府提出、昭和十一年度一般會計歲出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案ノ委員ニ併セ付託セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ
○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ

○松永東君 此際暫時休憩セラレンコトヲ望ミマス

〔贊成々々〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 松永君提出ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ暫時休憩致シマス

午後五時休憩

午後七時三分開議

○議長(富田幸次郎君) 休憩前ニ引續キ會議ヲ開キマス

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、職業紹介法中改正法律案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、職業紹介法中改正法律案ノ一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長熊谷直太君

職業紹介法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 職業紹介法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 熊谷 直太

衆議院議長富田幸次郎殿

〔熊谷直太君登壇〕

○熊谷直太君 只今上程セラレマシタ職業紹介法中改正法律案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス、委員會ニ於テハ先ヅ委員長、理事ノ互選ヲ行ヒマシタ、次ニ政府ノ提案ノ理由説明ヲ求メマシタ、之ニ對シマシテハ委員小柳君、田万君、村岡君、渡邊君、中村君、福田君、山口君等ヨリ、詳細ナル法案ノ核心ニ中ル質問ガアツノデアリマス、殊ニ山口君ヨリハ、可及的速ニ國營實施ヲ希望スト云フ所ノ希望ガアツタノデアリマス、勿論是ハ希望デアリマシテ、希望條件デアリマセヌ、委員會ニ於キマシテハ、政府ノ二大眼目トシテ居リマス所ノ點、即チ職業紹介事務局ヲ廢止シ、之ニ對シテ内務大臣及ビ地方長官ヲシテ、連絡及ビ監督ノ機關ヲラシメテ、由テ以テ職業紹介ニ關スル行政ノ圓滑ナル遂行ヲ爲サントスルノ趣旨、是ガ第一點、第二點ハ、職業紹介所ハ市町村ノ外、特別ノ必要アル場合ニ限リマシテ、道府縣ニ於テモ之ヲ設置スルコトヲ得ルト、此二點ニ付キマシテハ、滿場ノ委員ハ之ニ贊成シマシテ、結局滿場一致ヲ以テ之ヲ可決シタノデアリマス、ドウゾ本會議ニ於キマシテモ、此趣旨ヲ御酌取リ下サイマシテ、滿場一致ヲ以テ

御贊成アラシコトヲ希望シマス、此段御報告致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クコトニ致シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

職業紹介法中改正法律案
第二讀會(確定議)
○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、重要輸出品取締法案、輸出絹織物取締法中改正法律案、輸出組合法中改正法律案、及ビ昭和九年法律第四十五號中改正法律案ノ四案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、重要輸出品取締法案、輸出絹織物取締法中改正法律案、輸出組合法中改正法律案、昭和九年法律第四十五號中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長増田義一君

マス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、重要輸出品取締法案、輸出絹織物取締法中改正法律案、輸出組合法中改正法律案、昭和九年法律第四十五號中改正法律案、右四案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長増田義一君

重要輸出品取締法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

輸出絹織物取締法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)
輸出組合法中改正法律案(政府提出)
第一讀會ノ續(委員長報告)

昭和九年法律第四十五號中改正法律案(貿易調節及通商擁護ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一 重要輸出品取締法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 増田 義一

附帶決議

一 重要輸出品取締法及輸出絹織物取締法ニ依ル検査並輸出組合法ニ依ル統制ニ關スル取締ニ付テハ外地ニ於テモ十分内地ト連絡協調ヲ保チ取締上ノ缺陷ヲ生スルコトナキヤウ遺憾ナキヲ期セラレタシ
一 政府ハ本法實施ニ依リ生産者並中小商工業者ニ及ボス影響ヲ考慮シ適切ナル方策ヲ講スヘシ

報告書

一輸出絹織物取締法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 増田 義一

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一重要輸出品取締法及輸出絹織物取締法ニ依ル検査並輸出組合法ニ依ル統制ニ關スル取締ニ付テハ外地ニ於テモ十分内地ト連絡協調ヲ保チ取締上ノ缺陷ヲ生スルコトナキヤウ遺憾ナキヲ期セラレタシ

一政府ハ本法實施ニ依リ生産者並中小商工業者ニ及ホス影響ヲ考慮シ適切ナル方策ヲ講スヘシ

報告書

一輸出組合法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 増田 義一

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一重要輸出品取締法及輸出絹織物取締法ニ依ル検査並輸出組合法ニ依ル統制ニ關スル取締ニ付テハ外地ニ於テモ十分内地ト連絡協調ヲ保チ取締上ノ缺陷ヲ生スルコトナキヤウ遺憾ナキヲ期セラレタシ

一政府ハ本法實施ニ依リ生産者並中小商工業者ニ及ホス影響ヲ考慮シ適切ナル方策ヲ講スヘシ

報告書

一昭和九年法律第四十五號中改正法律案(貿易調節及通商擁護ニ關スル件)(政府提出、貴族院送付)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 増田 義一

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一重要輸出品取締法及輸出絹織物取締法ニ依ル検査並輸出組合法ニ依ル統制ニ關スル取締ニ付テハ外地ニ於テモ十分内地ト連絡協調ヲ保チ取締上ノ缺陷ヲ生スルコトナキヤウ遺憾ナキヲ期セラレタシ

一政府ハ本法實施ニ依リ生産者並中小商工業者ニ及ホス影響ヲ考慮シ適切ナル方策ヲ講スヘシ

(増田義一君登壇)

○増田義一君 只今上程サレマシタ重要輸出品取締法案外三件ノ委員會ノ經過並結果ヲ御報告申上ゲマス、此四ツノ法案ハ何レモ躍進日本ノ海外貿易發展ノ爲ニ必要ナル案デアリマシテ、委員會ニ於テハ、委員ト

商工大臣及ビ政府委員トノ間ニ質疑應答ガ頗ル澤山重ナラレマシタ、其中ノ主ナルモノヲ申上ゲレバ、輸出統制ノ目的ヲ以テ此案ガ出テ居ルガ、是ガ爲ニ我ガ輸出貿易ハ壓迫拘束サレルノ憂ハナイカトノ質問ニ對シテ、政府デハ從來動モスレバ粗製濫造ノ弊ニ陥テ、ソレガ爲ニ品質ノ低下ヲ來シ、海外市場ニ於テ信用、聲價ヲ失墜スルノ虞ガアルノデアル、ソコデ此重要輸出品ノ検査制度ヲ設ケ、更ニ其輸出ノ取締ヲ行ヒ、

以テ海外市場ニ於ケル本邦重要輸出品ノ聲價信用ヲ高メルコトハ、我ガ輸出貿易ヲシテ益々發達セシムル所以デ、決シテ壓迫拘束スルノ憂ハ斷ジテナイト云フ答辯デアリマス、次ニ粗製濫造品ヲ朝鮮ニ送ッテ、朝鮮カラ海外ニ輸出スルヤウデアアルガ、之ヲドウ取締ルカノ質問ニ對シテハ、朝鮮ニ於テモ輸出品ノ検査ヲ内地ト同一標準ノ下ニ檢査ラシテ取締テ居ルカラ、決シテ心配ハナイト云フ答デアリマス、其次ニ重要輸出品十八種掲ゲデアアルガ、其以外ノ輸出品ハドウ取扱フカト云フ問ニ對シテハ、省令ヲ以テ更ニ追加スルト云フ答辯デアリマス、又輸出組合カラ輸出統制認可申請ニ對シ、中々認可ニ手間取ルガ、是ハドウ云フ譯カトノ質問ニ對シテハ、認可申請ガ頗ル多イノト、其内容ノ調査ニ時ガ掛ルノデ簡單ニハ許可出來ナイガ、將來ハ出來ルダケ速ニ認可スルヤウニ努力スルト云フ答デアリマス、次ニ輸出組合ガ輸出檢査ヲ爲スノデアアルガ、其檢査機關ノ費用ガ掛ル、ソレハ政府デ補助スル意思アリヤ否ヤトノ質問ニ對シテハ、檢査員ノ俸給其他ニ對シ相當ノ交付金ヲ支出スル、現ニ支出シテ居ルト云フ答デアリマス、其次ニ生絲ハ我國ノ最大輸出品ナルニ拘ラズ重要輸出品取締法案ノ中ニ加ハッテ居ナイノヘドウ云フ譯カトノ質問ニ對シテハ、生絲ハ農林省ノ所管ニナッテ居ル、道理カラ言ヘバ商工省ノ所管ニ移スベキ筈ダケレドモ、ソレハ行政ノ機構ヲ改正シナケレバ今ハ已ムヲ得ヌト云フ答デアリマス、次ニ生絲ノ輸出統制ヲ必要トセザルカトノ質問ニ對シテハ、政府ハ勿論同感デアルト云フ答デアリマス、其次ニ輸出組合ニ依ッテ輸出ノ統制ヲ圖ラント

シテモ、其組合ニ入ルベキ資格アル者デアッテ組合ニ入ラナイデ、値段ヲ賣崩スト云フヤウナ者ガアル、即チ「アウト・サイダー」デアアルガ、之ニ向ッテドウ取扱フカトノ質問ニ對シテハ、輸出組合法ニ依ッテ主務大臣ハ組合員タル資格ヲ有スル者ニシテ、其組合ノ定ムル取締又ハ制限ニ服従スベキコトヲ命ズルコトガ出來ルノデアアル、故ニ拘束命令ヲ實行シテ統制ヲ圖ル積リダト云フ答デアリマス、又輸出組合ニ依ル統制ノ爲ニ輸出商ハ大分利益ヲ占メルガ、生産者ハ甚ダ利益ガ少ク、不利ヲ蒙ッテ居ルガ、是ハドウスルカトノ質問ニ對シテ、輸出組合ノ利益ノ壟斷ニハ嚴重注意ヲ與ヘテ輸出業者ノミガ儲ケヌヤウニ協調サセルコトニ向ッテ、適當ノ取締モスレバ監督モスルト云フ答デアリマス、尙ホ中小輸出業者ガ大輸出業者ノ爲ニ壓迫セラレルガ、之ニ對シテ何カ取締ル方法ハナイカトノ質問ニ對シテハ、法規ノ定ムル所ニ依ッテ出來ルダケ政府ハ大輸出業者ニ對シテ取締ルモノハ取締リ、以テ中小輸出業者ヲ保護スル積リデアルト云フ答デアリマス、其他詳細ハ速記録ニ譲リマス

質疑ガ終局致シマシテ愈々討論ニ入リマシタガ、民政黨ノ川橋豐治郎君カラ附帶決議ヲ提案サレマシタ、ソレハ

重要輸出品取締法及輸出絹織物取締法ニ依ル検査並輸出組合法ニ依ル統制ニ關スル取締ニ付テハ外地ニ於テモ充分内地ト連絡協調ヲ保チ取締上ノ缺陷ヲ生スルコトナキヤウ遺憾ナキヲ期セラレタシ

此附帶決議ヲ附シテ賛成ノ意ヲ表サレ、政友會ノ大本貞太郎君ヨリ同ジク又附帶決議ガ提案サレマシタ、ソレハ

政府ハ本法實施ニ依リ生産者並中小商工業者ニ及ホス影響ヲ考慮シ適切ナル方策ヲ講スヘシ

此附帶決議ヲ附シテ賛成ノ意ヲ表サレマシタ、第一控室ノ水谷長三郎君ハ本案ニ反對意見ヲ述ベラレ、斯クシテ採決ノ結果、此四ツノ法案ニ對シテハ、大多數ヲ以テ可決サレマシタ、尙ホ川橋大本兩君ノ附帶決議ニ對シテモ、大多數ヲ以テ可決サレマシタ、最初申上ゲル如クニ我が日本ノ海外貿易發展ノ爲ニ、極メテ必要ナル案ト認メテ可決シタノデアリマスルカラ、滿場諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕
○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○議長(富田幸次郎君) 四案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ四案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議ハアリマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ四案ノ第二讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

重要輸出品取締法案 第二讀會(確定議)
輸出絹織物取締法中改正法律案 第二讀會(確定議)

輸出組合法中改正法律案 第二讀會(確定議)

官報號外 昭和十一年五月十九日 衆議院議事速記第十一號 重要輸出品取締法案 第二讀會(確定議)

昭和九年法律第四十五號中改正法律案(貿易調節及通商擁護ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセス、第三讀會ヲ省略シテ、四案共委員長報告通り可決確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、競馬法中改正法律案ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス
○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセスカ
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、競馬法中改正法律案ノ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長八田宗吉君

競馬法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

一競馬法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 八田 宗吉

衆議院議長富田幸次郎殿

(八田宗吉君登壇)

○八田宗吉君 只今上程ニナリマシタル競馬法中改正法律案ノ委員會ニ於ケル經過ノ大要ヲ御報告申上ゲマス、本委員會ハ十五日、十六日及ビ十八日ノ三回ニ互リ開會致シマシタ、委員各位ヨリハ御熱心ナル質疑

ガアリ、政府ニ於キマシテモ懇切ナル答辯ガアツタノデアリマス、政府ノ説明ニ依レバ近時競馬ノ發展ハ寔ニ著シキモノガアリマシテ、競馬施行ニ關スル諸般ノ情勢ハ、競馬法制定當時ト著シイ變化ヲ示シ、現在ノ制度ハ此變化シタル情勢ニ處シ、競馬ノ使命ヲ達成スルニ遺憾ナキヲ期スルコトガ困難トナツタ來タノデアリマス、又一面ニ於キマシテ昭和十一年度ヨリ開始セラレマス馬政第二次計畫ノ實施ト關係ヨリ致シマシテ、馬政上競馬ノ機能ヲ發揮セシムル必要ガ、益々重クナツタ來タノデ、政府ニ於テハ現行競馬制度ニ刷新改善ヲ加フルノ必要ヲ認メ、昨年馬政調査會ニ諮問ヲ致シ、而シテ此改正法律案ハ、馬政調査會ノ答申ニ基キ立案シタルモノデアルト云フコトデアリマシタ、而シテ本改正案ノ要點ハ大體次ノ三點ニ在ルノデアリマス

第一ハ競馬施行機關ニ關スル事項デアリマシテ、現在十一ノ競馬俱樂部ニ於テ各獨立シテ施行シテ居ルノヲ、日本競馬會ト云フ權威アル、強力ナル機關タル、全國ヲ通ジテ一箇ノ法人ニ統一シテ施行セントスルノデアリマス、第二ハ政府納付金ニ關スル事項デアリマシテ、從來ノ政府納付金ノ率ハ、勝馬投票券ノ賣得金額ノ百分ノ六以内デアリマシタノヲ、最近勝馬投票券ノ發賣額ガ増加致シマシタノデ、其率ヲ百分ノ八以内ニ改ムルコト、及ビ政府納付金ノ馬事經費充當歩合ヲ、四分ノ三ヲ下ルコトヲ得ズト云フコトニ改メントスルコトデアリマス、第三ハ取締ニ關スル事項デアリマシテ、調教師及ビ騎手ノ取締、及ビ開催職務委員ノ職務執行ヲ妨害スル者ニ對スル制裁ヲ嚴重ニスル等、競馬施行ノ適正ヲ期シタ

コトデアリマス、本委員會ニ於キマシテハ、特ニ陸軍當局ヨリ、軍馬資源ノ維持涵養ト云フ見地ヨリ、競馬ニ期待スル所大ナルモノアル説明ガアツタノデアリマシタ、即チ日露戰役當時ノ所要馬數ハ十九万頭デアッタガ、第一次馬政計畫三十年ヲ了ヘテ、第二次計畫ニ入ラントスル今日ニ於テハ、勿論兵器ノ機械化ノ實現ヲ見ツ、アルガ、戰時所要ノ馬數ハ、日露戰役當時ノ約五倍ニ達シ居ルノミナラズ、今後更ニ此數ハ格段ノ増加ヲ見ルモノト豫想シナクテハナラスシ、又馬匹ノ能力ニ對スル要求モ、益々向上セントスル趨勢ニ在ルニ拘ラズ、馬匹ノ改良功程ハ遺憾ナガラ軍備ノ擴充ニ追隨スルコトガ出來ナイ、仍テ競馬機能ノ充實強化ヲ圖リ、競馬施行ノ適正ヲ期セントスル本改正案ニ對シテハ、全然贊意ヲ表スルトノ意見ノ開陳ガアリマシタ、而シテ質疑應答ノ重ネラレタ主ナル事項ヲ申上ゲマス、一、競馬法ニ依ル競馬ノ統制ハ結構ナルモ、地方競馬ノ改善ニ付テハ、當局ハ如何ナル考ヲ有スルヤ、又地方競馬ニ對スル將來ノ取締方針ニ付テハ、質疑ガアリマシタ、之ニ對シ政府ニ於テハ、地方競馬ノ改善ニ付テハ、目下馬政調査會ニ諮問中ナルヲ以テ、其答申ヲ待ツテ善處スルトノ説明デアリマシタ、又將來ノ取締ニ付テハ、内務省トモ十分聯繫ヲ保ツデ、是ガ取締ニ遺憾ナキヲ期スルトノ答辯ガアリマシタ、二、勝馬投票券ノ發賣金額又ハ枚數等ニ關スル現在ノ制限ノ緩和、又ハ撤廢ニ關スル政府ノ所見ヲ求メラレマシタガ、政府ハ本問題ハ馬政調査會ニ於テモ種々意見ノアツタル所デアリマシテ、將來慎重考究ヲ要スル事柄デアルト思フトノ事デアリマシタ、三、競馬場ノ數ヲ當分ノ内

第二讀會(確定議) 競馬法中改正法律案 第一讀會ノ續

二九三

十一ト定メタル點ニ付テ質問ガアリマシタガ、政府ハ本規定ハ現在ノ所、從前通りニ存置シテ置クノガ、適當デアルト考ヘルトノ答辯デアリマシタ、四、馬政局設置ニ關スル意見、及び其機構ニ關スル質問ガアリマシタガ、政府ハ農林省ノ外局トシテ、長官制度ノ馬政局ヲ設ケ、陸軍側トモ十分連絡ヲ取り、第二次馬政計畫ノ遂行上、遺憾ナキヲ期スルトノ答辯デアリマシタ、五、軍馬ニ對スル陸軍ノ要求ハ、産業上ノ要求ト一致シナイ點ガアルカラ、馬産ニ付テハ此點ヲ考慮シ、十分ナル補助施設ガ必要デアルトノ熱心ナル意見ノ陳述ガアリ、是等ノ點ニ付テハ軍當局ヨリ十分考慮ノ上、遺憾ナキヲ期スルトノ答辯ガアリマシタ、六、政府納付金ノ馬事施設ニ充當スル割合ヲ、四分ノ三ヲ下ルコトヲ得ズト改メタル結果ハ、社會事業ニ充當シ得ル額ガ、減少シナイカトノ質問ガアリマシタガ、政府ノ答辯ハ、今回ノ改正ニ付納付金ノ額ガ増加スル關係上、十年度ノ納付金ノ三分ノ一ヨリモ、將來ハ増加スル計算ナル、併シ從來社會事業ニ充當シテ居タル金額ハ大體百萬圓デアツテ、此金額ハ變更スルノ考ヲ持タナイトノコトデアリマシタ、七、現在ノ各競馬俱樂部ノ資産狀態及ビ收支ノ狀況ニ付テノ質問ガアリマシタガ、政府ヨリハ之ニ關スル詳細ナル説明書ノ提出ガアリマシタ

尙ホ質疑應答ノ詳細ニ付テハ、速記録ニ付テ御承知ヲ得タイト思ヒマス、而シテ討論ニ入り、各委員ヨリ賛成意見ノ開陳ガアリ、希望意見トシテハ、新ニ設ケラレル日本競馬會ノ役員ハ、官吏ノ古手ナドヲ以テ充ツルコトナキヤウトノ希望モアリマシタ、又第一控室ノ黒田委員ヨリハ、本法第

八條ノ改正、三分ノ二ヲ四分ノ三ニ改ムルコトハ、社會事業救護費ニ充ツル金額ヲ少クスル嫌ナキニアラズ、從來ノ通り三分ノ二ニシタイト云フ修正ノ意見ガアリマシタガ、賛成者モナク成立モ致シマセス、採決ニ入りマシテ、全員一致可決致シタ次第デアリマス、何卒委員會決議ノ通り

〔議長退席、副議長著席〕

御可決アラシコトヲ希望致シマス（拍手）

○副議長（岡田忠彦君） 本案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長（岡田忠彦君） 御異議ナシト認メマス、仍テ本案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長（岡田忠彦君） 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長（岡田忠彦君） 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ本案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

競馬法中改正法律案 第二讀會（確定議）

○副議長（岡田忠彦君） 別ニ御發議モアリマセヌヤウデアリマス、第三讀會ヲ省略シテ、委員長報告通り可決確定致シマシタ（拍手）

○松永東君 議事日程變更ノ緊急動議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、昭和十一年度一般會計

歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案、昭和七年法律第一號中改正法律案、昭和九年法律第七號中改正法律案、及び對支文化事業特別會計法中改正法律案ノ五案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長（岡田忠彦君） 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○副議長（岡田忠彦君） 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案、昭和七年法律第一號中改正法律案、昭和九年法律第七號中改正法律案、對支文化事業特別會計法中改正法律案、右五案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長金光庸夫君

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

昭和九年法律第七號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル件）（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

對支文化事業特別會計法中改正法律案（政府提出）

第一讀會ノ續（委員長報告）

報告書

一昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日 委員長 金光 庸夫 衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日 委員長 金光 庸夫 衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日 委員長 金光 庸夫 衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一昭和七年法律第一號中改正法律案（滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件）（政府提出）

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日 委員長 金光 庸夫 衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

報告書

一昭和九年法律第七號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル一時賜金トシテ交付スル公債發行ニ關スル件)(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

報告書

一對支文化事業特別會計法中改正法律案(政府提出)

右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也

昭和十一年五月十八日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿

(金光庸夫君登壇)

○金光庸夫君 只今上程ニナリマシタ各案ノ委員會ニ於ケル經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案、是ハ一般會計ノ所謂赤字公債五億一千二百九十萬圓ヲ發行セントスル案デアリマス、其次ノ昭和十一年一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用ニ關スル法律案、是ハ一般會計ノ窮乏ヲ助ケンガ爲ニ通信事業特別會計、帝國鐵道特別會計、關東局、朝鮮總督府、臺灣總督府、樺太廳、南洋廳ノ各特別會計カラ少シ宛拾ヒ集メマシテ、繰替使用セントスル案デアリマス、第三ハ昭和七年法律第一號中改正法律案、是ハ滿洲事件費ノ財源トシテ、一億七千三百九十萬圓ノ公債ヲ發行セントスル案デアリ

官報號外

昭和十一年五月十九日

衆議院議事速記録第十一號 昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案外四件 第二讀會 二九五

マス、第四ノ昭和九年法律第七號中改正法律案、是ハ滿洲事件ノ延長ニ伴ヒマシテ、軍人行費費財源トシテ公債ヲ發行セントスル案デアリマス、第五ノ對支文化事業特別會計法中改正法律案、是ハ爲替差損ヲ償フ爲メ支出制限超過ヲ認ムル案デアリマス、以上各案共、連日質疑應答ヲ重ネマシタ、今其重要ナル數點ニ付其趣旨ヲ要約シテ申上ゲマスレバ、其一ハ公債漸減主義ノ修正ニ關スル質問デアリマス、馬場藏相ハ公債漸減主義ヲ修正セラル、ヤウ承テ居ルガ、サスレバ今日ノ情勢ニ徴シ、公債漸増ヲ來スモノト思フトノ質問ニ對シ、馬場大藏大臣ハ、公債漸減主義ニ拘束サレナイト云フニ過ギナイノデアアテ、公債漸増主義ヲ採ルト云フニアラズトノ答辯ガアリマシタ、其二ハ公債發行額ノ限度並ニ消化力ニ關スル質問デアリマス、赤字公債ノ毎年ノ發行額ハ、今後五七年間ハ公債ノ消化力ノ點ヨリ考ヘマシテ、大體毎年五六億圓程度ニ止マルノデハナイカトノ質問ニ對シマシテ、大藏大臣ハ赤字公債其他ノ公債ヲ合セ、大體十億圓位マデハ消化力アリト思フトノ答辯ガアリマシタ、又赤字公債ノ發行ガ行詰ル虞ハナイカ、且ツ低金利工作ノ反動作用ニ依ッテ、金利昂騰ノ爲メ公債消化難ニ陥ル虞ハナイカトノ問ニ對シマシテ、大藏大臣ハ、公債發行ガ行詰ルトハ考ヘテ居ラス、又低金利ノ進行ニヨリ景氣ガ好クナリ、資金需要ガ起リ、ソレガ爲メ高金利ニ向フヤウニナルノデアレバ、公債消化ハ困難デハナイト思フ、高金利亦結構ト思フガ、目下ノ所ソレ迄ハ行クマイト思フトノ答辯ガアリマシタ、其三ハ低金利政策ニ關スル質問デアリマス、公債ノ低利借換等ニ依ル低金利政策

ハ、金融ノ實勢ニ依ラズ、統制ノ力ニ依ッテ維持セントスル不自然ノ強行政策デハナイカトノ問ニ對シマシテハ、大藏大臣ハ、不自然ノ強行デハナイ、從來公債發行率ノ据置ガ寧ロ金融界ノ實勢ニ副ヘズ、却テ金利低下ノ趨勢ヲ遮ッテ居タカノ感ガアッタヤウニ思フトデアアテ、實行ノ結果ハ大シタ摩擦モナク、都合好ク行ッテ居ルト思フトノ答辯デアリマシタ、其四ハ公債低利借換ニ關スル質問デアリマス、公債低利借換ハ今後モ續行スルヤ、又今後三分五厘以下ニ引下グルヤトノ質問ニ對シテハ、大藏大臣ハ、借換ハ續行スル積リデアアル、三分五厘ハ當分變更セザル考ナリトノ答辯デアリマシタ、其五ハ、株式配當ニ關スル質問デアリマス、即チ株式配當ヲ制限スル等ノ考ナキヤトノ質問ニ對シ、大藏大臣ハ配當制限ヲ爲ス考ナシトノ答辯デアリマシタ、其六ハ、特別會計資金ノ繰替使用等ニ關スル質問デアリマス、即チ此繰替使用ハ前内閣ガ豫算編成難ニ逢著シタル際ニ、窮餘ノ策トシテ執リタル所ノ、姑息彌縫ノ案デアアテ、我國ノ交通、通信及拓殖ノ進展ニ惡影響ヲ及ボスコトト思フガ、政府ハ今後モ斯様ナ一般會計、特別會計ヲ混亂スルヤウナ案ヲ立ツル積リデアアルカトノ質問ニ對シマシテ、大藏大臣ハ、本案ハ赤字公債増發ヲ避クル爲ノ已ムヲ得ズ立テタモノデアアルガ、十二年度以降ハ一般會計、特別會計ト云ハズ、稅制全般ニ互リ全面的ノ計畫ヲ立テ直ス考ヘデアルトノ答辯デアリマシタ、其他幾多重要ナル質疑應答ガ行ハレマシタ後、討論採決ノ結果ハ各案共原案ノ通り可決致シタ次第デアリマス、何卒滿場一致御賛成アラントヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 五案ノ第二讀會ヲ開クニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ五案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ五案ノ第二讀會ヲ開キ、第三讀會ヲ省略シテ委員長報告ノ通り可決セラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ五案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲公債發行ニ關スル法律案

第二讀會(確定議)

昭和十一年度一般會計歳出ノ財源ニ充ツル爲特別會計ニ屬スル資金ノ繰替使用等ニ關スル法律案

第二讀會(確定議)

昭和七年法律第一號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

昭和九年法律第七號中改正法律案(滿洲事件ニ關スル一時資金トシテ交付スル公債發行ニ關スル件)

第二讀會(確定議)

對支文化事業特別會計法中改正法律案

第二讀會(確定議)

○副議長(岡田忠彦君) 別ニ御發議モアリマセヌ、第三讀會ヲ省略シテ五案共委員長報告ノ通り可決確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此際昭和十一年勅令第七號、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 松永君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、昭和十一年勅令第七號、承諾ヲ求ムル件ヲ議題ト致シマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長金光庸夫君

昭和十一年勅令第七號(災害善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件) (委員長報告)

報告書

一 昭和十一年勅令第七號(災害善後ニ關スル經費支辨ノ爲公債發行ニ關スル件)(承諾ヲ求ムル件)
右ハ本院ニ於テ承諾ヲ與フヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十一年五月十八日

委員長 金光 庸夫

衆議院議長富田幸次郎殿
(金光庸夫君登壇)

○金光庸夫君 本案ハ豫算外緊急支出ヲシマシタル所ノ内務、農林兩省所管ノ災害善後費ノ事後承諾ヲ求ムル案デアリマス、本案ハ慎重審議ノ結果、原案ノ通り承諾ヲ與フルコトニ決定致シマシタ、何卒諸君ニ於カレマシテモ滿場一致御賛成アランコトヲ希望致シマス(拍手)

○副議長(岡田忠彦君) 本案ニ承諾ヲ與フルニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、本案ハ承諾ヲ與フルニ決シマシタ(拍手)

○松永東君 議事日程變更ノ緊急勸議ヲ提出致シマス、即チ此際政府提出、米穀自治管理法案、米穀統制法中改正法律案及ビ糶共同貯藏助成法案ノ三案ヲ一括議題ト爲シ、委員長ノ報告ヲ求メ、其審議ヲ進メラレンコトヲ望ミマス

○副議長(岡田忠彦君) 松永君ノ勸議ニ御異議アリマセスカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○副議長(岡田忠彦君) 御異議ナシト認メマス、仍テ日程ハ變更セラレマシタ、米穀自治管理法案、米穀統制法中改正法律案、糶共同貯藏助成法案、右三案ヲ一括シテ第一讀會ノ續ヲ開キマス、委員長ノ報告ヲ求メマス——委員長東武君

米穀自治管理法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

米穀統制法中改正法律案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

糶共同貯藏助成法案(政府提出)

第一讀會ノ續(委員長報告)

報告書

米穀自治管理法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十一年五月十八日

委員長 東 武
衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 内外地ヲ通ジ米穀ノ生産統制方策ヲ樹立シ代作ノ獎勵ニ對シ適切ナル方策ヲ講ズベシ

二 速ニ米穀ノ國營檢查ヲ斷行スベシ

三 米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生産者、米穀業者及消費者ノ代表者ヲ加フベシ

四 産業組合ノ指導監督ヲ勵行シ其ノ官僚化ト營利化トヲ排除シ殊ニ違法及脫法行為ノ絶滅ヲ期シ組合本來ノ使命ニ基キ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルベシ

五 本法ノ實施ニ際シテハ米穀取引所並米穀業者ニ重大ナル影響ヲ與ヘザルヤウ特ニ注意シ損害アリタル場合ニハ適當ナル對策ヲ講ズベシ

六 政府ハ米穀ノ生産機關ト配給機關トノ利害ヲ調節シ共存共榮ノ方途ヲ講ズル爲調査會ヲ設クベシ

七 朝鮮及臺灣ニ於テ本法實施ノ目的ヲ達スル爲内外地官廳ノ協力ニ付特ニ留意シ萬遺憾ナキヲ期スベシ

報告書

一 米穀統制法中改正法律案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十一年五月十八日

委員長 東 武

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 内外地ヲ通ジ米穀ノ生産統制方策ヲ樹立シ代作ノ獎勵ニ對シ適切ナル方策ヲ講ズベシ

二 速ニ米穀ノ國營檢查ヲ斷行スベシ

三 米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生産者、米穀業者及消費者ノ代表者ヲ加フベシ

四 産業組合ノ指導監督ヲ勵行シ其ノ官僚化ト營利化トヲ排除シ殊ニ違法及脫

三 米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生産者、米穀業者及消費者ノ代表者ヲ加フベシ

四 産業組合ノ指導監督ヲ勵行シ其ノ官僚化ト營利化トヲ排除シ殊ニ違法及脫法行為ノ絶滅ヲ期シ組合本來ノ使命ニ基キ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルベシ

五 本法ノ實施ニ際シテハ米穀取引所並米穀業者ニ重大ナル影響ヲ與ヘザルヤウ特ニ注意シ損害アリタル場合ニハ適當ナル對策ヲ講ズベシ

六 政府ハ米穀ノ生産機關ト配給機關トノ利害ヲ調節シ共存共榮ノ方途ヲ講ズル爲調査會ヲ設クベシ

七 朝鮮及臺灣ニ於テ本法實施ノ目的ヲ達スル爲内外地官廳ノ協力ニ付特ニ留意シ萬遺憾ナキヲ期スベシ

報告書

一 糶共同貯藏助成法案(政府提出)
右ハ本院ニ於テ可決スヘキモノト議決致候此段及報告候也
昭和十一年五月十八日

委員長 東 武

衆議院議長富田幸次郎殿

附帶決議

一 内外地ヲ通ジ米穀ノ生産統制方策ヲ樹立シ代作ノ獎勵ニ對シ適切ナル方策ヲ講ズベシ

二 速ニ米穀ノ國營檢查ヲ斷行スベシ

三 米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生産者、米穀業者及消費者ノ代表者ヲ加フベシ

四 産業組合ノ指導監督ヲ勵行シ其ノ官僚化ト營利化トヲ排除シ殊ニ違法及脫

法行爲ノ絶滅ヲ期シ組合本來ノ使命ニ基キ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルベシ

五 本法ノ實施ニ際シテハ米穀取引所並米穀業者ニ重大ナル影響ヲ與ヘザルヤウ特ニ注意シ損害アリタル場合ニハ適當ナル對策ヲ講ズベシ

六 政府ハ米穀ノ生産機關ト配給機關トノ利害ヲ調節シ共存共榮ノ方途ヲ講ズル爲メ調査會ヲ設クベシ

七 朝鮮及臺灣ニ於テ本法實施ノ目的ヲ達スル爲メ内外地官廳ノ協力ニ付特ニ留意シ萬遺憾ナキヲ期スベシ

〔東武君登壇〕

○東武君 米穀自治管理法案、米穀統制法中改正法案、粗共同貯藏助成法案、右三案ノ委員會ノ經過及ビ結果ヲ御報告致シマス、委員會ハ五月十一日ヨリ本日マデ、午前午後通ジテ七回ニ互テ慎重ニ審議ヲ致シタノデアリマス、委員會ニ現レマシタ質問應答ノ概要ヲ極メテ簡潔ニ御報告申上ゲマス

一、何故ニ本案ヲ短期ナル特別議會ニ提出シタカ、之ニ對スル農林大臣ノ答辯ハ、元來本案ハ政府ガ提出シテ居ルガ、其起リハ第六十五議會當時、即チ齋藤內閣當時、本院一致ノ決議ヲ以テ、現行統制法ノ缺陷補正ノ必要上、速ニ臨時議會ヲ召集シテ、内地外地一貫シタル政策ヲ定ムベシト云フ決議ヲ以テ、時ノ政府ニ要求シタノデアリマス、其後齋藤內閣倒レ、岡田內閣ニ依リ米穀對策調査會ヲ開キ、各政黨ノ代表者、學者、經驗者ヲ集メ、數箇月ニ互テ調査立案シテ經過ヲ有スルモノデアリマス、且ツ昨六十七議會ニ於テ、委員會ヲ開コト實ニ十八回ニ互テ慎重審議ヲ重ネマシテ、

各政黨トモ練リニ練ッテ出來上ツタモノガ、今回政府提出案トナツタモノデアリマス、故ニ——農林大臣ノ答辯デアリマスルガ、農林問題ト致シマシテ、此爾ト米ノ問題ヲ解決セザル以上ハ、何事モ其他ノ問題ニ對シテ前進スルコトガ出來ナイヤウナ、事情ノ下ニ置カレタモノデアリヲ以テ、政府ハ短期間ト雖モ、責任ヲ以テ提案シタノデアルト云フ答辯デアリマシタ

二、本案ハ米穀政策トシテ不徹底デハナイカト云フ、之ニ對シテ農林大臣ハ、此法案ガ完全無缺ト云フコトハ勿論言ヘスカモ知レヌ、併シ目下ノ米穀事情ヨリシテ、此案以上ノモノヲ作ルコトハ困難デアル、農林大臣トシテ、此案ハ現行統制法ノ補完法デアル、現行統制法ノ存在スル限りハ、此法案ハ絕對必要デアル、專賣トカ、國家管理トカ云フ根本方針マデ、行ク所マデ行ケバ、或ハ不完全デアルカモ知レヌ、然ラバ政府ニ於テ根本方針ハアルカト云フ質問ニ對シマシテハ、マダ定ツタモノハナイガ、何等カノ方法ニ依リ調査を進メテ見タイト云フ意味ノ答辯ガアリマシタ

三、本案ハ農林省傳統ノ高米價政策ノ現レデハナイカ、此質問ハ世間デヨク唱ヘラレル議論デアリマス、政府ノ方針トシテハ、決シテ何時ノ時代デモ、高米價政策ト云フヤウナ政策ヲ執ツコトハナイ、即チ統制法ニ於テモ最低米價、最高米價ヲ定メテ、生産者ハ最低米價ニ依ッテ保障ヲサレテ居ル、消費者ハ最高米價ニ依ッテ保障サレテ居ルノデアル、更ニ此法案ニ依ッテ統制貯藏サレタ場合ハ、現行ノ統制法ニ於テハ、最高ノ價格デナケレバ米ハ一粒モ賣ルコトハ出來ナイノデアアル、ケレドモ此自治管理案ヲ

施行スレバ、米價ガ最低値段ヨリ一割ノ値上ノアツタ場合ハ、是ハ貯藏統制米ヲ賣放スコトガ出來ル、即チ解除スルコトニナルノデアルカラシテ、消費者ニ對シテモ、生産者ニ對シテモ、不公平、偏頗ナ處置ヲ執ル立前デハナイト云フコトガ、全然明カデアルト云フコトデアリマシタ

四、此法案ヲ實施スレバ大農ハ救ハレルガ、小農、貧農ハ却テ不利ノ立場ニ進ムノデハナイカ、斯ウ云フ質問ガ屢々繰返サレタノデアリマスルガ、此質問モ極メテ重要ナ質問デアリマシタガ、特ニ小會派ノ諸君ニ於テ、熱心ニ質問應答ヲ重ネラレタノデアリマス

〔副議長退席、議長著席〕

政府ノ之ニ對スル答辯ハ、此法案ノ過剩米有無ノ調査ハ、十一月一日ニ全國ノ生産集計ガ出來ルノデアルガ、其過剩米ガアルカナイカト云フ決定ヲスル前ニ、早米ノ持切レナイ生産者ハ、投賣リヲスルト云フヤウナ場合ガアル、併ナガラソレハ全國的ニ見レバ極ク少數デアル、米穀ノ出廻統計ヨリ見レバ、僅ニ一〇〇%中ノ八%位シカ、早米ニ依ッテ賣出スト云フヤウナ者ハナイノデアルカラシテ、極メテ小部分デアルカラシテ、斯様ナ心配ハナカラウ、尙ホ是等貧農ノ青田賣トカ、或ハ白田賣トカ、黒田賣ト云フコトハ、是ハ委員會ニ出タ言葉デアリマスルガ、私共初メテ聞イタノデアリマシタガ、青田賣、黒田賣、白田賣ト云フハ、マダ耕作シナイ時ニ賣ル、白田賣ト云フハ雪ノ降ル時ニ賣ルト云フコトダサウデス、斯ウ云フヤウナモノガ貧農ニハアルノデアルガ、之ニ對スル救済ト云フコトハ——此米穀自治管理案ニ依ッテ救済ヲスルト云フコトハ、是

ハ不可能デアル、要スルニ農村全般ノ問題デアルカラシテ、或ハ金融、農村更生ト云フヤウナ方面ノ、他ノ方法ヲ講ズルヨリ外ハナイト云フ答辯デアリマシタ

五、外地米ノ生産制限ハ如何ナル程度デアルカ、政府ノ方針ヲ伺ヒタイ、是ハ拓務大臣ガ委員會ニ屢々出席致シマシテ、誠意ヲ以テ應答セラレタノデアリマスガ、朝鮮デハ産米ノ増産計畫ハ、從來ノ分ハ施設ヲ繼續シテ居ルノモ多少アル、併シ新規出願ノモノハ一切不許可ノ方針ヲ執ラレテ居ルト云ッテ居リマス、且ツ代作獎勵ニ對シテハ、是ハ代作トシテ北羊南棉——北ノ方ニハ羊、南ノ方ニハ棉花ト云フ方針ヲ執リマシテ、漸次其方面ノ開發ニ努力中デアルト云フ辯デアリマシタ

六、六十七議會ニ於テ本案ニ對スル附帶決議ノ經過如何、之ニ對シテハ既ニヤリツツアルモノモアル、即チ米穀ノ生産統制ノ方策、米穀新規開拓利用増進ト云フヤウナコトニ付テハ、既ニ政府ハ是ハ種々ノ加工事業ヲ研究致シテ居ル、既ニ之ヲ企業化スルマデニ進ンダモノモアルト云フ御答辯デアリマシタ、國營検査ノコトハ、是ハ至急斷行ノ方針デアルモ、豫算ノ關係ニテ未ダ實行スルコトガ出來ナイ、是非決議ノ趣意ニ基キ、近ク實現スル積リニテ、著々準備ヲ進メテ居ルト云フ御答辯デアリマス

産業組合ニ關スル件、産業組合ノ違法、脫法行爲ノ取締ヲ嚴ニシテ、官僚化、營利化ヲ排除スルコトノ附帶決議ガ附イテ居タノデアリマスガ、政府ハ勿論其趣意ニ基イテ監督シテ居ル、全國一萬三千餘ノ組合ニ對シテ十分ナル監督ハ、豫算ノ關係ニ於キマシテ、不十分デアルコトハ免レマセヌ

ガ、決議ノ趣意ニ對シテハ最モ嚴肅ニ之ヲ實行シツ、アリ、且ツ將來モ此方針ヲ進ムモノデアルト云フ數次ノ言明ガアリマシタ、商業組合ノ助長、中小商工業改善ノ爲メ商工中央金庫設立、是ハ既ニ本院ニ於テ法案ヲ通過致シテ、目下貴族院ヲ審議中デアル、中間配給機關ニ影響ヲ與ヘザル件、此點ニ關シテハ政府ハ最モ留意シ、既ニ農林省ニ於テハ配給改善協議會ト云フモノヲ組織シテ、米穀業者、取引所關係者、運輸業者等ノ代表者ヲ委員ニ任命シテ、數十回ニ互ツテ各種ノ方面ヨリ其利害影響ヲ調査シ、本法案實施ニ際シ、直接米穀業者其他利害關係者ニ摩擦ノナキヤウ、慎重考慮ヲ拂ヒ研究中デアル、既ニ成案ヲ得タルモノモアルシ、マダ未成案ニ屬スルモノガアルト云フ御答辯デアリマシタ

以上ハ大體質疑應答ノ概要デアリマス、昨年委員會ニ於キマシテ、殆ド十數回ニ互ツテ論究シ盡シタ問題デアリマスガ爲ニ、此質問應答ニ新シキ事項トシテノ質問ハアリマセズ、大體質疑應答ノ概要ヲ茲ニ申上ゲルノデアリマスルガ、詳細ハ速記録ヲ御覽願ヒタイ、唯島田農林大臣ノ御答辯ノ中ニ、昨年ノ委員會ニ現レナイ答辯ガ二ツアルト記憶致シテ居リマス、其一ツハ、此法案ハ農村問題トシテ、最モ重大ナ因縁ヲ有スル法案デアル、此法案ガ片付カナイ限リニ於テハ、今後ノ農村問題ハ何事モ前進スルコトガ出來ナイ、故ニ政府ハ重大ナル責任ヲ以テ、此法案ヲ此短期ノ特別議會ニ提

案シタモノデアルト云フ、決意ト誠意ヲ披瀝サレタノデアリマス、其二ハ、米穀對策トシテノ根本方針デアアルカト云フコトニ對シテ、是ハ速記録ヲ御覽ニナレバ分リマスルガ、米穀統制法ノ補完法デアル、統制法ノ存在スル限リニ於テ、此法案ハ絕對ニ必要ナルコトハ申ス迄モナイ、然ラバ補完法デアリ、暫定法デアルト云フ以上ハ、何カ根本的ノ方針デモナケレバナラスガ、ソレハドウカト云フ質問ニ對シマシテ、根本法ハマダ決ツタモノハナイ、何等カノ方法ニ依リ、此根本方針ニ於テ進ム爲ニ、豫メ調査研究ヲ怠ラスト云フ、極メテ含蓄ノアル答辯ガアリマシタ、此二ツハ昨年ノ委員會ニ現レナイ答辯デアリマス

ソコデ討論ヲ終結シマシテ、民政黨ヲ代表致シマシテ川崎委員ヨリ附帶決議ヲ附シテ賛成ノ發言ガアリマシタ、政友會ヨリモ三善委員ヨリ同様ノ賛成ノ意見ガ述べラレマシタ、此附帶決議ハ七項ニ互ツテ居リマス

附帶決議

一 内外地ヲ通ジ米穀ノ生産統制方策ヲ樹立シ代作ノ獎勵ニ對シ適切ナル方策ヲ講ズベシ

二 速ニ米穀ノ國營検査ヲ斷行スベシ
三 米穀自治管理委員會ノ委員ニハ生産者、米穀業者及消費者ノ代表者ヲ加フベシ

四 産業組合ノ指導監督ヲ勵行シ其ノ官僚化ト營利化ヲ排除シ殊ニ違法及脫法

行爲ノ絶滅ヲ期シ組合本來ノ使命ニ基キ其ノ健全ナル發達ヲ圖ルベシ

五 本法ノ實施ニ際シテハ米穀取引所竝ニ米穀業者ニ重大ナル影響ヲ與ヘザルヤウ特ニ注意シ損害アリタル場合ニハ適當ナル對策ヲ講ズベシ

六 政府ハ米穀ノ生産機關ト配給機關トノ利害ヲ調節シ共存共榮ノ方途ヲ講ズル爲調査會ヲ設クベシ

七 朝鮮及臺灣ニ於テ本法實施ノ目的ヲ達スル爲内外地官廳ノ協力ニ付特ニ留意シ萬遺憾ナキヲ期スベシ

是ガ附帶決議デアリマス、而シテ小會派ト言ウテハ何デスガ、三宅委員ヨリシテ更ニ希望決議ノ陳述ガアツタノデアリマスガ、此希望決議ニ對シテハ、農林大臣ノ答辯ニ依ッテ豫メ諒承サレタト云フコトデアリマシタカラ、採決ヲ致シマセズ、右三案ヲ一括シテ採決シマシタ所、委員會ノ全會一致本法案ヲ可決サレマシタ、希クハ速ニ本院ニ於テ報告通り御賛成アラシコトヲ切望シテ報告ヲ終リマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 質疑ノ通告ガアリマス、之ヲ許可致シマス——田島勝太郎君(田島勝太郎君登壇)

○田島勝太郎君 私ハ本三案ガ國民生活ニ關シマシテ重大ナル影響アルニ鑑ミ、委員長報告ノ審議セラレマス以前ニ於キマシテ、本案ノ基礎トナルベキ重要ナル二三ノ事項ニ付キマシテ、政府當局ニ質疑ヲ致シタイト思フノデアリマス、政府當局ニ於カレマ

シテハ、明確ナル御答辯ヲ願ヒマシテ、國民ヲシテ本法案ニ對シマシテ危惧ノ念ヲ懷カザラシメヌヤウニ御願致シマス

先ツ第一ニ總理大臣ニ御尋ヲ致シタイト思ヒマス、從來内地外地ノ關係官廳間ニハ、常ニ精神的ニモ、實行的ニモ相疎隔シテ、米穀政策ノ遂行ニ協力セズ、其爲ニ米穀政策ノ效果ヲ減失スルコトハ尠少デアリマセズ、現ニ一例ヲ採リマス、外地米生産費

ノ調査決定ハ、本法施行ノ根本的基礎條件タルニ拘ラズ、内閣總理大臣直屬ノ調査委員會ヲ設置シナガラ、昨年ノ生産費ヲモ決定スルコトガ出來マセズデ今日ニ及ンデ居リマスルノハ、正シク此弊ヲ暴露シテ居ルモノト思フノデアリマス、政府ハ此度内地外地ニ互ル米穀自治管理法ヲ行ハントスルニ當リマシテハ、從來ノ如ク依然關係官廳ノ確執ガアリマスレバ、本法案ノ實行ハ全ク期シ難イト思フノデアリマス、私共ハ各官廳共此意味ニ於テ相協力シ、本案ノ目的タル數量及價格ノ調節ノ爲メ、實效ヲ擧グル義務ヲ負ハナクテハナラスト思フノデアリマス、政府ハ此點ニ對シマシテ、如何ナル見解ヲ有セラル、カ伺ヒタイノデアリマス

次ニ主務大臣ニ對シテ御尋ヲ致シタイト思フノデアリマス、本法ノ實施如何ニ拘ハリマセズ、近來産業組合ト米穀業者、其他中小商工業者ノ間ニハ、相當深刻ナル利害ノ衝突ガアリマシテ、其影響ハ頗ル重大ナルモノト考ヘマス、政府ハ速ニ是ガ調和ノ

シテハ、明確ナル御答辯ヲ願ヒマシテ、國民ヲシテ本法案ニ對シマシテ危惧ノ念ヲ懷カザラシメヌヤウニ御願致シマス

方策ヲ講ジ、其相剋ヲ緩和シ、以テ共存共榮ノ途ヲ圖リ、國民生活ノ安定ヲ期セネバナラスト思フノデアリマス、此點ニ付キマシテ政府ハ如何ナル措置ヲ執ラレントスルノデアルカ、明確ナル御答辯ヲ御願致シマス(拍手)

(國務大臣廣田弘毅君登壇)

○國務大臣(廣田弘毅君) 只今田島君ノ御質疑ニ對シテ、私ニ對スル分ヲ御答辯致シマス、從來或ハ内地外地各、其司ル所ニ忠實ナルノ餘リ、御質問ノ通り遺憾ノ點アリシヤモ知レマセヌガ、本法ガ實施セラレ、内地外地同一ノ米穀政策ニ統一セラル、以上ハ、特ニ各關係官廳ヲ董督シ、共ニ一致協力シテ此米穀政策ガ十分ノ效果實績ヲ擧グルヤウ、萬遺憾ナキヲ期スル考デアリマス、昨年ノ生産費ガ未ダ決定セザルハ洵ニ遺憾デアリマスガ、今後ハ内地外地ノ十分ナル協力ヲ得テ、公正ナル米穀生産費ヲ決定致シタイト思ヒマス(拍手)

(國務大臣島田俊雄君登壇)

○國務大臣(島田俊雄君) 田島君ノ主務大臣ニ對スル質問トシテ、御述ベニナリマシタ點ニ關シマシテ御答ヲ致シマス、只今第二ノ點トシテ御述ベニナリマシタ質問ニ對シマシテハ、洵ニ御尤ト存ズルノデアリマス、本法ノ施行ニ當リマシテハ、萬々御質問ニ現レタル如キ惡影響ノナキコトヲ期シタイト存ズルノデアリマス、産業組合ト米穀業者、其他中小商工業者トノ關係ニ付キマシテハ、十分其利害ヲ調節シ、以テ共存

共榮ノ方法ヲ講ズル覺悟デアリマス、特ニ産業組合ノ違法、又ハ脫法ノ行為ナキヤウ其監督ヲ嚴ニシ、一面商業組合ノ發達ヲ助長致シマシテ、兩者ノ偕調ヲ期シタイト存ジマス、現ニ農林、商工兩省關係ノ方面ニ於キマシテモ、此點ニ付キマシテハ種々協議ヲ致シテ居リマスガ、例ヘバ産業組合ノ白米小賣、其他米穀ノ販賣ニ付キ調整ヲ圖ルコト、竝ニ商業組合ニ對シ、政府ノ米穀買入ニ際シ保證金ヲ免除シ、整理買換ニ際シ政府米ノ隨時賣却ノ途ヲ開キ、又商業組合ノ倉庫ニ政府米ヲ寄託スルノ途ヲ開ク等、商業組合ニ對シテモ産業組合ト同様ノ特典ヲ與フルコトモ、之ヲ實行スル趣旨ヲ以テ考慮致シテ居リマス、尙ホ産業組合ト商業者トノ調和ヲ圖ルガ爲メ、中央及ビ地方ノ必要ニ應ジマシテ、配給調整ニ關スル委員會ノ如キ組織ヲ設ケテ、以テ十分ナル效果ヲ擧グルコトニ付テモ考慮致シテ居リマス、以上簡單ナガラ御答ヲ致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 是ヨリ討論ニ入リマス、通告順ニ依ッテ發言ヲ許可致シマス——

田淵豐吉君

(田淵豐吉君登壇)
○田淵豐吉君 諸君、私ハ經濟學モ餘リ知らズ、又殊ニ米ノ問題ニ付テハ非常ニ無知デアルト思ヒマシテ、餘リ斯ウ云フ席上デ口幅ッタイコトヲ諸君ニ申上グルコトハ御無禮カモ知レマセヌガ、ドウカ暫ク私ノヤウナ草刈リノ言見タヤウナ言モ、尙ホ諸君ガ此法案ヲ贊否スル上ニ於テモ、又貴族院

ヲシテ其職能ヲ發揮セシムル上ニ於テ誤ラサヌヤウニ、國民ニ誤解ノナイヤウニ、新附ノ朝鮮、臺灣ノ人々ニ誤解ノナイヤウニ、戒嚴令下デアツタカラト云ウテ、旨ク行カナカッタト云ウテ、軍事ノ方ヘ餘リ間違ッテ御註文ヲ持ッテ行カヌヤウニ——ソレハ能ク知ラスガ……(笑聲)總テノ點ニ於テ慎重審議シテヤリタイガ爲ニ、私ハ此案ヲ兩三年待ッテハドウカ、ソレガ出來ナケレバ、來年マデ待ッタラドウカト云フコトヲ先日質問致シタノデゴザイマスルケレドモ、ドウモソレガ委員會デハ通ラナカッタラシイ、ソレデ今日ハ諸君ガドウシテモヤラナケレバナラスト云フノデ、民政黨ト政友會トノ妥協ガ出來テ、政府ガ色々ノ諸君ノ註文ヲ容レテ、サウシテ附帶決議トカ希望決議トカ云フヤウナモノヲ附ケテ、諸君ノ商工業者ダトカ、或ハ米屋トカ、サウ云フヤウナ連中ニ納得ノ行カウナ法律的、事實的ノ恩惠ヲ與ヘタラシイ、諸君ガ言ウタンデヤナイカ知ラスガ、ネ、諸君ハ所謂下駄ヲ預ケテ此案ヲ贊成スルト云フ、所ガ序デダカラ廣田君——廣田總理大臣モ、此席ニ居ラレマスカラ言ヒマスガ、私ハ先ノコトト後ノコトト順序ガ違フカモ知レマセヌケレドモ、話ノ順序カラ頭ニ浮ブ通り言ヒタインデス、ソレハ今ノ總理大臣ノ御話デハ、是マデハ内地外地ヲ通ジテ旨ク行カナカッタケレドモ、今度内地外地ヲ通ジテ旨ク行クヤウナコトヲ言ハレテ居ル、私ハ知ラスケレドモ、朝鮮ニ於テ米ハ何石作ルカ、ソレ

モ知ラス、千万石位カ、以下カ、又ソレヲドレ位向フデ食ベテ居ルカ、ソレモ知ラス、日本カラ行ク所ノ不在地主——不在地主ト云ヘバ「アイルランド」ニ於ケル所ノ彼ノ不在地主ガ、年貢ヲ五年毎ニ上ゲテ、ソレデ反對スレバ遂ニ警察及憲兵三四千ヲ以テ之ヲ抑ヘタト云フヤウナ歴史ガアル、肺病ト、サウシテ彼ノ濕地ガ、「アイルランド」ニ於テ起ツタ、先年ハ「ロイド・ジョージ」アタリガ貧窮地方ニ數億ノ金ヲ貸付ケテ之ヲ直シタ、又産業組合ヲ起シテ、今日ハ「アイルランド」ハ産業組合ガ發達ニ依ッテ救ハレタト云フヤウナ御方ガゴザイマス、此間聽イタ、サウ云フヤウナ工合ニ朝鮮人ガ千万石ニ二百萬石ノ割當ヲ食ッテ居ル、日本内地ニ千万石ニ百七八十萬石トハドウ云フ譯ダ、朝鮮人ハ之ヲナンテ言フガ、私ハ問題ダト思フ、喜ブカ、怒ルカ問題デアルト思フ、廣田君ノ其御説明ハ承ハラヌ前——廣田君ノ今ノ御演說ガ當ッテ居ルカ居ナイカ私ハ分ラヌ、分ラヌコトハ贊成シ惡インダ、又此間モ東北ニ米倉ガ何百カ數千モ造ツタラシイ、交通機關、金融機關ノ發達シタ時ニ鐵兜ヲ著テ、田ノ中ニ坐ッテ居ルヤウナ眞似ヲ諸君ハシテ居ルノデハナイカト思ッタ、今回朝鮮ヤ臺灣ニモ何百何千ノ倉ヲ建テルカ知ラス、法律ヤ金錢ガ大キイト同時ニ、其建物ハ外カラ見エル、ソレハ日本内地人ガ建テタ所ノ倉デ、米ヲ高クスル爲ニ出來タダサウナ、朝鮮米ガ餘リ内地ニバカリ入ルカラ、日本ダケノモノデアレバ價ガ高イカ

ラ、日本ダケデホヲヤッテ移入關稅、輸入制限ト云フモノヲスルノデハナイカ、ホンマデヤ、サウシタラ軍人サンダトカ、或ハ帝國主義者ガ旨ク行カナイ、新附ノ民ノ總督ガイケナイ、併シ總督ハ不在地主ノ要望ニ依ッテ、サウ云フコトヲシテ居ルカ私ハ知りマセヌヨ、分ラヌヨ、併シ朝鮮人ガ如何ニ思フカト云フコトハ私ハ分ラヌ、諸君ガ能ク知ッテ居マセウ、私ヨリモ、サウ云フ爲ニ日本ガ特殊待遇ヲシテモ惡イカラト云フノデ、體ノ宜イ所ノ特殊待遇シタモノニ違ヒナイト云フ點ニ付テ、總理大臣ハドウカ、又千万石シカ出來ヌモノニ二百何十万石、日本ハ三割五分、向フハ朝鮮臺灣ヲ合シテ六割五分、朝鮮ニハ四割三步デスガ、其割當ガ朝鮮ニハ内地ノ約十倍持ッテ居ルト云フコトハ、向フガ喜ブカ怒ルカト云フコトヲ聽キタイ、サウ云フヤウナ調査ヤ眞實ガナクシテ、此案ガ帝國統治ノ上ニ宜イト云フコトハ、私ハ言ヒニクイト思フ、諸君ガ知ッテ居ル上ニソレヲヤルノカ、知ラズシテ之ヲヤルノカ、私ハマダ之ヲ耳ニ達シナイト云フコトハ遺憾デゴザイマス、サウ云フヤウナ點ニ付テモ私ハ疑ガアル、是ハ餘程考ヘナケレバイカヌ、私ガ思フノニ、倉ヲ建ッテ一年カ二年ヤッテ、後デ鼠ノ巢ノ喰フヤウナ倉ダツタラ、ア、日本ノヤルコトハ皆是ダ、朝令暮改ダ、アンナ國ハ頼ルニ足ラヌゾト言ハレルカモ知レヌ、ソレハ先日申上ゲタ「イソップ」物語ノヤウナコトガ出テ來ヤシナイカト思フ、ネ、諸君、シツカリシナサイヨ、

ソレカラ農林大臣モ其處ニ居ラレルガ、色色ノ問題ニ付テ農林大臣ハ、只今モ申サレマシタ産業組合ト米穀商、中小商工業者ニ喧嘩サセヌヤウニ旨ク後カラスルト云フコトヲ言ハレルガ、今何故セヌノデアアルカ、今出來ヌデヤナイカ

○議長(富田幸次郎君) 田淵君演壇デ……

○田淵豐吉君(續) サウ云フヤウナコトヲ、今ヤラナケレバナラヌモノヲヤラヌト云フノハ、私ハドウ云フ譯方知ラヌト思フ、サウ云フヤウナ、前ニ決メナケレバナラヌコトヲ決メズシテ、後ハ皆殘シテ、脫法行爲ガドウダト云フヤウナコトヲ後デ言フヨリモ、先ヅサウ云フ行爲ガ起ルカ、起ラヌカト云フコトヲ、案ヲ練ル時ニヤルト云フコトガ、「イソップ」ノ言フ所ノ、是ナラト云フ案ヲ出シテ、少シノ善キ法ヲ堅ク守ルト云フノガ、即チ安寧秩序ノ根柢デアルト私ハ思フノデアリマス、諸君ハ朝令暮改シテ、官僚ノ言フガ儘ニヤッテ居ルノデアアル、私カラ見レバ官僚ノ組織ト産業組合ノ組織ト同ジヤウナモノデアルト私ハ思フ、故ニ私ノ國カラ三十本モ電報ガ來テ居ルノハ——村ノコトヲ惡イコトヲ言ウタラアノ人等怒ルカモ知レマセヌケレドモ、縣知事ダトカ、或ハ經濟部長トカ云フ者ヲ通ジテ、農會ヤ何カラ使喚シテ、向フカラ電報ヲ打タシテ置イテ——議院ガ朝令暮改ニナリハシナイカト私ハ思フ、斯ウ云フヤウナコトデハ諸君ハ一體法案ト云フモノヲ審議スルノ權能ヲ、私ハ持ッテ居ナイト思フ、ソレデ私ハ、

尤モ島田サンモサウダシ、總理大臣モ宜イ加減ナコトヲ言フテ胡麻化スラシイケレドモ、サウハ行カヌ、ソレカラ私ハサッキ渡邊君ニモ逢ッタ、渡邊君ノ惡イコトヲ言フデヤナイケレドモ、今モ現ニ逢ウタ、ソレカラ工藤鐵男君ニモ逢ウタ、サウ云フヤウナ人達ガ何方故ニ此案ニ反對ニ立ッテ、サウシテ彼ノ意見ヲ徹底シナイカト私ハ思フ、私ノ第二控室ニ於テモ大分サウ云フ意見ガ多イノデゴザイマス、然ルニ何ゾ圖ラン、六人位アッテ三人位ノ反對ト贊成トアルト思ッたら、田淵一人ノ反對ダト云フノデ、是デハト思ッテ非常ニ心淋シカッタ、是ハ一體何ヲ物語ッテ居ルカ、是ハ産業議會ニ掛ケテ、サウシテ後帝國議會ニ掛ケタラ私ハ宜イト思フ、諸君ハ既ニ二ツニ分レテ居ル、政友會ハ比較的ニ固マッテ居ルケレドモ、是モ實ヲ言ヘバ三分ノ一反對デ、三分ノ二贊成カモ知レヌ、民政黨ハ半々ラシイ(御世話ヲ言フナ)ト呼フ者アリ(御世話デヤナイ本當ダ、サウ云フヤウナ譯デ、是ハ議員ノ數ヲ集メタラ贊否分ラヌ、反對演說者モ三人位出マセウ、所ガ黨々デ固メテ來ルカラ、結局案ガ出來テ何等ソコニ反對シナイ、サウシテ此本議會デ反對シナイト云フコトハ何ガ爲デアアル、委員會ノ速記録ガアルカラ日本ニ分ルト云フコトハイカヌト思フ、何ガ故ニ反對論者ハ此處ニ立ッテ堂々ノ陣ヲ張ッテ、何故堂々トヤラナイカト云フコトヲ私ハ大イニ之ヲ悲ムノデアアル、今ヤ政黨ハ斯ノ如キ生溫イ態度ニ於テ、國民ノ信用

ヲ失墜シテ居ルト云フノハ確ニ是ハ問題デアルト私ハ斷言シテ憚ラヌ、詰リ産業組織ト議會ノ組織ガ違ッテ居ルノデアリマス、議會ガ現在ノ特殊利益ノ代表タル問題ヲ解決スルニ適當デアアル、議會ハ其ノ能力ガナイ事ガ暴露シテ來マス、此點ニ付テ諸君及ビ國民ノ注意ヲ大イニ喚起シタイト私ハ思フノデゴザイマス、サウシテ諸君、然ラバ田淵ハ何モ知ラヌト言ッテ大キナ口ヲ叩ク、併ナガラ諸君、十年以前ヲ御覽ナサイ、諸君ガ違フカモ知レヌケレドモ、元ノ額ガ多少見エル、其時ノ諸君ハ何ト言ッタ、食糧問題、食糧問題ト、今ニモ飯ガ食ヘヌヤウニ諸君ハ言ッタンデヤラウ、私ハサウデナイ、農業振興ト云フコトガ朝鮮ニマデ及ブカト云フコトヲ私ガ言フノハドウカ、現ニ及ンデ居ルデハナイカ、諸君ノ考ガ多少間違ッテ居ッタ、或ハソレヲ刺戟シタコトハ宜シウゴザイマスケレドモ、亦諸君ハ不戰條約ヲ滿場一致ヲ以テ贊成シタデハナイカ、田淵一人ガ滿洲トノ關係ヲ持ッテ居ル日本及ビ現在ノコンナ世界ノ狀態デハ、不戰條約ト云フモノハ行フベカラザル條約デアアル、正義ノ在ル所必ズヤ戰ガアルト私ハ言ウタリマス、然ルニ滿場ノ諸君ハ之ニ反對シタデハナイカ、サウ云フヤウナ歴史デ、田淵ハ三文ノ値打モナイト云フコトヲ言ッタナラバ、諸君ハ將來諸君ノ法案ヲ可決シタト云フ責任ハ諸君ノ頭上、延イテハ國民ノ頭上ニ必ズヤ懸ッテ來ルト云フコトヲ私ハ斷

言スル一人デアリマス、故ニ諸居ハ其既往ヲ私ハ咎メルノデハナイガ、一人ノ田淵ト雖モ、ヤハリ其理ノアル所ヲ聽カレンコトヲ私ハ願フノデゴザイマス

私ハ第一ニ總論カラ始メマスガ、斯ノ如キ案ハ、凶年ナラバイザ知ラズ、豐年滿作ノ時ニ當ッテ、支那デハ昔神ニ祈リ、天壇地壇ニ祈ッテ、支那人ハ豐作ヲ願ハウトシタカモ知レヌ、農壇ニ祈ッテヤツタカモ知レナイ、此來ルベキ所ノ、來ルヤ來ナイノ天ノ力ニ依ッテ、天命ニ依ッテ生ミ出サレタ所ノ、此米ノ豐作ト云フコトヲ願ハズシテ、豐作ヲ來ルモノトシテ諸君ハ假定シテ、其假定ヲ喜バズシテ、直チニ金ノ問題ニ入ッテ、損ハシマイ、却テ得シヨウト云フヤウナコトヲ考ヘルノハ、ツケ上ッテ居ハシナイカ、蟲ガ良過ギハシナイカト思フ(笑聲)諸君、豐作ダツタラ惡イノカ、堤防ノ決潰下コロデハナイ、飢饉年ノコトヲ憂ヘテ、米ヲ食ウテ、米ノ洪水ノ日ニ到著スルト云フノハイケナイト云フ、豐作ノ來ルノヲ何モ慌デフタメイテ、此特別議會ニ豐作ノ對策ヲ講ズルト云フノ頭ガチツ諸君ドウゾシテ居ルノデヤナイカ(笑聲)ネ、諸君等一體天命ヲ知ラヌ人間デアル、慾一點張りダカラ、必ズヤ損スルト私ハ思フ、ネ、皆近慾ダ、日本帝國ガドウナラウト、産業組合ニ旨イコトヲ言ッタ選舉ニ上ルダラウ位ニ諸君ガ思ッタノデハナイカ、大ニ注意シナケレバ危イデスヨ(笑聲)ソシナオチヨコチヨイデハ帝國議會ニ出テ來ル資格ガナイト私ハ斷言シテ憚ラス、話ガ横ヘ行ッ

テ甚ダ失禮致シマシタガ(笑聲)私ハ現代ノ農民ガ自給自足主義ヨリ商業主義ニ變ジテ來タ、農民ガ作ツタ物ヲ賣ッテ四百圓ノ金ヲ取ル、總收入ノ見積ガ八百圓ノ小サイ農夫、一年間ニ稼グトスルト、其内ノ四百圓ト云フモノヲ、即チ物ヲ賣ッテ金ニシテ、サウシテ此金錢ヲ使フト云フコトニナッテ居ッテ、金錢經濟ニナリ、商業的ニナツタサウデゴザイマス、此時ニ當ッテ井ヲ穿ッテ飲ミ、田ヲ耕シテ食フダケノコトデハ、國民ノ義務ガ果セヌヤウニナツタ、ソレモ出來ル人モアリマセウガ、斯ウ云フ時代ニ於テ、吾々ハ必シモ此商業的ニナリ來ッタト云フコトヲ、頭カラガミミ言フモノデハナイ、營利主義ニナリ來ッタカラト云フコトヲ罵倒スルノデハゴザイマセヌケレドモ、農業ハ農業ノ本分ガアル以上ハ、何處マデモ其營利主義ヲ伸バスト云フコトデハイケナイ、左様ニスレバ家族主義ニ大ナル變動ヲ來スノデハナイカ、日本ノ國體ノ一部ノ最モ強イ所ハ、此家族主義デアリ、農民主義ダナクチヤナラスト思フノデゴザイマス、米屋即チ小ナル所ノ此商人ハ又家族主義デゴザイマス、細君モ子供モ米ヲ擔ウテ行クト云フノハ、百姓ト似テ居ルノデゴザイマス、此「ゲマイン」ナリ共同的生活、専門的、職業デナイヤウナ人間ト云フコトニ、其根本ヲ置イテ居ルノデゴザイマス、而シテ諸君ノ選出區域ハ何處デアルカト云フト、政治的ニ於キマシテ、或人ハ商人ノ拵ヘタ選舉區デアルト言ウテ居リマス、帝國議會

其モノガ、英國モソレハ土地的、地域的ノ上ニ選舉區ヲ置イテ、ソレカラ選出シテ居ルノデゴザイマス、特殊利益ノ代表ノ爭ニハ洵ニ困ルヤウナ議會ガ、即チ此議會デゴザイマス、サウシテ此商人ハ惡ク言フカモ知ラスガ、米屋トカ或ハ小サイ農夫ト云フモノハ、其關係ガ丁度蟻ト油蟲ノヤウナ關係ヲ今日持ッテ居ル(笑聲)又產業組合ノ方ハ假令共同的生活デゴザイマスケレドモ、利益的ノ半バヲ持ッテ居ッテ、契約主義的ノモノヲ含シタ、此「ゲマイン」シヤフト即チ共同社會デゴザイマス、ソレガ日本の「結ビ付イテ」、ソレガ此金錢獲得ノ多イ方ガ宜イト云フ、資本主義ニカブレテ來テ居ルノデゴザイマス、故ニ茲ニ向後七八年經ッたら、田舎デハ米屋ガナクナルナドト云ッテ居ル人ガアル、或人モ今日モ言ヒマシタガ、サウ云フヤウニナルト、又逆ニ大商人ガ起ッテ、土地ヲ買ッテ農業労働者ヲ募集メテ、大ナル生産機關ヲ持ッテ農業化スルナラバ、現在ノ農夫ハ労働者ニナツテ、サウシテ大ナル農業會社ガ出來ヌトハ私ハ限ラスト思フノデアリマス、斯ノ如ク諸君ハ唯一方ニ行クトヲ知ッテ他方ニ行クトヲ知ラス、人ヲ蹴ッテ自ラ快トスル者ハ、帝國臣民ノ最モ下等ナル一人デハナカラウカト私ハ思フノデゴザイマス(笑聲)少シ言ハ嚴シウゴザイマシタケレドモ……サウ云フヤウナ意味ニ於キマシテ、私ハ此農村ヲ如何ニシテ救済スルカト云フコトハ、大ナル問題デアルト思フノデゴザイマス、私ガ端的ニ申上ゲマス

ルナラバ、既ニ現行ノ統制法ガアッテ行ハレテ居ルノデアアル、相當ヨボノシテ居ルケレドモ、親ガアッテ相當マダ腰ガ立ツノデアアル、ソレニ妙ナ若僧見タイナモノヲ付ケテ、暫定的ノ此法律ヲ作ルト云フコトハ、諸君ハ餘リニ考ヘナサ過ギルト私ハ思フノデアリマス(笑聲)諸君、此統制法ガ旨ク行カナイデ——是マデ辛ウジテ旨クヤッテ來タケレドモ、千万石以上ノ買上ノ時ニ手古摺ッタコトカラ、此後惡クナラスヤウニ、早ク外ノ方ヘ廻セト云フ案モアツタラシイ、併シ諸君、國家ノ損失モ、國民ノ損失モ、或ル程度ニ於テハ一緒デアアル、多少違ッテモ同ジデアアル、ソレモ考ヘナケレバナラス、又現行法ト此法ト違フ所ハ、私ノ意味ヲ以テスルナラバ、日本ノ現代デハ統制ハ上ヨリスル方ガ宜イ、太陽ガ此地球及ビ金星其他ノモノヲ統制シテ居ル如ク、大ナルモノガ小サイモノヲ統制スル方ガヨリ良ク行クノデハナイカ、故ニ何故統制ヲヤルナラバ、現行統制ヲマツト彈力アルモノニ直シテ、サウシテ三十三圓マデ動ケヌト云フコトニシナイデ、凶作ノ場合ハドウデアアル、豐作ノ場合ハドウダト云フ、彈力ヲ此中ニ組込メヌヤウナ筈ハナイノデアアル、サウ云フ技術ノ出來ナイモノハ、現代ノ入組シタ所ノ財政計畫、増稅計畫ナンドハ、私ハ出來ル筈ハナイト斷言シテ憚ラナイ一人デアアル、諸君ヘ之ヲ何ト考ヘテ居ル、實ニ政府ノヤリ方ハ子供ヲシイ御意見デアルト私ハ思フ、ソレハ何故カト云フト、官僚バカリ入ッテ斯ウ云フ案ヲ幾ラ

作ッテ見テモ良クナル筈ハナイト思フ、大野ニ出テ大空ヲ仰イデ、世界ノ大勢ヲ見、日本ノ國情ハ消費者ト或ハ生産者、或ハ中間者ト互ニ寄テ、大ナル社會ニ依ッテ是ガ初メテ決マルモノデアル、斯ウ云フヤウナ者ニ立案サシタト云フコトハ諸君ノ誤リデア、其淺見タイナモノヲ持ッテ來デ、代議士トモアラウ者ガ唯々諸々トシテ希望決議トハナシ、附帶決議トハナシ、實ニ諸君ハ自ラ辱メテ居ル所ノ議員デハナイカト私ハ思フ、私ノヤウナ最モ知識ノ少イ此人間ガ此處ニ飛出スト云フノモ、諸君ガ確ッカリシテ吳レヌカラ、仕方ガナシニ此處ニ出テ來ルノデアル(笑聲)故ニ私ハ二三年御延バシナサイ、若シ出來ストナラバ、來ルベキ通常議會ニ於テ能ク審議ナサイト云フノデアリマス、私ガモウ一ツ持ッテ居ル島田君ニ對スル反對論ハ、此處デ國家管理トカ專賣トカニ持ッテ行キタガ、政友會ハ專賣ヲヤル、民政黨ハ地方自治ノ管理ガ宜イト云フコトガ新聞ニ出タ、噓カホンマカ知レナイガ——一寸見タ、若シ此案ガ專賣ニ行クヤウデアッタラ——私ハ或ル學者ニ聞イタ、專賣ハ二ツノ大ナル缺點ガアルト云ッテ居ル、噓カホンマカ知レナイガ、一ツハ或ル地方ト他ノ地方ノ生産費ガ違フカラ、價格ガ違フ故ニ、一地方カラ他地方ニ密移入ガ起ッテ、法律違反ガ起ル、取締ガ付カヌ、是ガ一ツノ重大ナル缺點デアル、第二ノ缺點ハ、一石ニ付テ十圓違フト、六千万石デ六億圓ト云フ大ナル金ガ要ル、財政上此「バランス」

ガ取り惡イト云フヤウナ、此二ツノ大ナル缺點ガアルサウデゴザイマス、私自身トシテハ今ノ煙草專賣デモサウデス、非常ニギコチナイ、又皆クナイモノヲ喫マサレテ、人民ノ「ゲシユマツク」嗜好マデガ「コントロール」サレテ非常ニ苦シイ、況ヤ市場ニ出ナイ所ノ米ガ半分ゴザイマス、農作物ハ市場ニ半分シカ出ナイサウデス、我ガ作リ我ガ食ベルト云フコトヲ「コントロール」スルト云フコトハ、最モ是ハ重大ナル影響ヲ及ボスト云フノデ、專賣ニハ反對デゴザイマス、サウ云フヤウナ三ツ四ツノ議論カラシテ私ハ專賣法ニ反對シタイ、然ルニ島田君及ビ政友會ノ人々、此歷史ヲ見ルト云フト、此案ハ專賣及ビ專賣的ニ至ル所ノ一ツノ飛石デアルト云フヤウナコトヲ言ハレテ、又其懸念ガアルト云フコトハ、私ハ甚ダ遺憾ニ存ズル一人デゴザイマス、朝鮮ニ渡ルニハ幾ラ馬關マデ歩イテ行ッた所デヤハリ船ニ乗ラナケレバナラス、船ニ乗レナイナラ、今カラ船ニ乗ラヌヤウニ、歩イテ行カヌ方ガ私ハ宜カラウト思フ、早ク諸君ニ引返セト云ッテモ、諸君ハ驕虎ノ勢、私ノ言フコトヲ聞カナイノデアリマス、其意味ニ於テ、私ハ此案ノ動機ニ付テ非常ニ不純ナ點ガアリハシナイカト、私ハ思ウテ居ル一人デゴザイマス、諸君、農村救済ト言ヒマスケレドモ、農業救済モアリマス、農民ノ救済モアリマス、農村ノ救済モアルト私ハ思フノデゴザイマス、諸君、現在ハ日本ハ帝國主義的發展ニ於テ、支那モ我ガ手デ「コ

ントロール」シテ、彼等ヲ能ク治メテヤリタイト云フ、他愛ト自愛トヲ持ッテ居ルノデアリマス、而シテ朝鮮、滿洲、支那ハ農業國デアリマス、日本ハ工業國デアリマス、故ニ是等ヲ打ッテ一丸トシテ行クコトハ、帝國ノ國是上及ビ産業ノ發展上、已ムヲ得ザル行キ途デアルカモ知レヌ、然ラバ農村ガ唯單ニ自己獨リ固クナッテ、田作ノ商軋ヲシテ、農村ダケ自ラ救ハウトシテモ、私ハ救ヘスト云フコトヲ、此前ニ申上ゲタノデゴザイマシタガ、農村ハ兵隊ヲ出シ、納稅ヲシ、サウシテ健康ナル人間ヲ都會ニ送り、サウシテ傷メル者ノ慰安所トナッテ居ル所ノ、此農村ノ存立ト云フコトハ、國家ニ取ッテ最モ必要ナル點デアリマスカラ、國家モ大イニ之ニ酬ユル所ガナケレバナラス、故ニ其救済策トシマシテ、或ハ租稅公課ガ高イカラ、此減少ニ交付金ノヤウナモノモゴザイマセウ、或ハ教育費ノ國庫支辨ト云フモノモ、今ヨリモット増大シテ、彼等農民ヲ救フト云フコトモ必要デアリマセウ、借金ノ整理モ亦大イニ急務デアラウト私ハ思フノデゴザイマス、更ニ進ンデハ米價ノ騰貴ヨリモ、寧ロ肥料ガ半額ニ於テ生産サレタナラバ、農民ハドレ位喜ブコトカト思フノデゴザイマス(「ヒヤ」)「拍手」諸君、私ハ此小サナ百姓ガ、其八百圓ノ一割モ此肥料ニ拂ハナケレバナラス、百圓モ百三十圓モ拂ハナラヌト云フコトヲ聞イテ、ビックリシテ居ル一人デゴザイマス、今ヤ農業ガ滿洲ノ豆ノ上ニ生ヘ、硫安ノ上ニ生ヘテ工業化シテ居ルノハ此故

デアリマス、報酬漸減ノ規則ガ行ハレルノモ此爲デアリマス、或ハ耕境ガ上ッテ行クノモ、亦此ノ爲デアリナイカト私ハ思フノデゴザイマス、斯ウ云フヤウナ點ニ於テ肥料會社ハ百位シカナカラウガ——大キナノ八十位シカナカラウガ、此五百萬戸或ハ數百萬戸ト云フ人ヲ「コントロール」スルヨリモ、僅カ十カ二十位ノ會社ヲ徹底的ニ調べ上ゲテ、之ヲ鞭撻シテ、國家ノ爲ニ彼等ノ生産額ヲ半減セシムルト云フコトハ、庶政一新ノ又一ツノ大ナル覺悟デナケレバナラヌト思フ、故ニ是等ヲ能ク監督シ、導イテ、サウシテ此米ノ食ベ物デアル所ノ、此肥料ト云フモノノ價ヲ半減スルト云フコトハ、必シモ私ハ難カシイ問題デハナカラウカト思フノデゴザイマス、而モ政府ハ——商工省カラ聽ク所ニ依リマス、小川君モコッチラ向イタガ(笑聲)何ガ故ニ此肥料ノ生産費ガ幾何ニ當ッテ、如何ナル缺陷ガソコニハアルカト云フコトヲ暴露スルノデハナク、寧ロ之ヲ匿ッテ、其點ヲ明ニシナイノハドウ云フ譯カト思フ、島田君ハ國民ニ呼ビ掛クル前ニ、先ヅ是ハ小川商相ニ向ッテ鞭撻シテ、肥料會社ノ改革ヲ爲シ、總テノ點ニ於テ之ヲ半減シナケレバ已マナイ方針ヲ執ルト云フヤウナ、大ナル決心ヲ以テ行クナラバ、必ズヤ成功スルデアラウト私ハ思フ一人デゴザイマス、サウ云フヤウナ正シイ所ニ行カズシテ、區區タル所ノ方策ヲ以テ、米ノ二圓、三圓上ルト云フヤウナ、ケチナ考ヲ若シ持ッテ居ルナラバ、本末顛倒ノ甚シイモノデアル、

議會ハ其議決權ノ遊戲デアルト私ハ言ハレ
テモ仕方ガナイト思フノデゴザイマス(「ヒ
ヤヒヤ」拍手)又先日モ大藏大臣ニ一寸言ッ
テ置イタガ、酒造稅デモ重稅ヲ取ッテ居ル、
鹽モ惡稅デアル、貧民ノ方ガ富民ヨリ十倍
モ餘計鹽ヲ食ベルノニ、之ニ同一ノ稅ヲ課
ケテ居ルカラ、鹽稅ハ惡稅デアルト云フコト
ニナッテ居ル、若シ又酒ヲ奢侈品、有毒品トシテ
取扱フナラ別デス併シ國民ノ飲料デアル、元
氣ヲ鼓吹シ、殊ニ農村ノ娛樂ノナイ所ニ慰安
ヲ與フル所ノ、必要缺クベカラザル一ツノ
傳統的ノ飲料デアルトスルナラバ、私ハ鹽
ガ惡稅デアルガ如ク、現行ノ酒造稅モ惡稅
デアルト思フ、故ニ例ヘバ二十圓、三十圓、
四十圓ト云フヤウナ工合ニ、上等ノ酒ニハ
課ケテ、サウシテ百五十圓ノ月給取ノ人ハ
一合デモ酔ヒ、農夫ハ二合飲マナケレバ醉ハ
ナイト云フノダカラヲカシナ話デアル、故
ニ稅ヲ下グレバ、今ノ靜岡縣ノ農民ノ一家
ノ酒代ガ十二圓五十錢ト云フノハ、或ハ七
圓、八圓ニ下ッテ行クノデハナイカト思フ、
又進ンデハ濁酒ヲ許スコトモ必要デアラウ
ト思フ、若シ稅法ガ許シテ、人ガ正直デア
ルナラバ、百姓ニ煙草ヲ作ラセテモ宜カラ
ウト私ハ思ッテ居ル一人デアル、サウ云フコ
トヲシテ百姓ヲ虐メテ、片一方ニ出來モシ
ナイ米ヲイヂクリ散ラスコトハ、本末顛倒
ノモノデアルト言ハレテモ仕方ガアルマイ
ト思フノデアリマス、ソレ等ノ色々ノ救濟
方法ニ依ッテ、農民ヲ救フナラバ宜シイ、社
會大衆黨ノ人モ言ウテ居リマス、私モ言ヒ

マシタ、農村ハ米ヲ買ハナケレバナラス、
米ヲ買フ人ガ四割三分モアル、是ハ困ル、
併シ靜岡縣アタリノ統計ヲ借りテ見マス、
小農ガ七圓何十錢ト云フコトニナッテ居ッテ、
非常ニ巨額ナ金額ニ上ッテ居ラナイガ、併
シ米ヲ買ハナケレバナラス人々ガ多イカラ
困ル人モ多イ、四割三分ノ人ト云フモノハ
米ヲ一旦賣ッテ、サウシテソレヲ又買ウテ
食ッテ居ルヤウナ連中デアルサウデゴザイ
マスカラ、此間ニ於テ政府ガ專賣ダトカ、
イヤ統制ダトカ言ウテ、餘リ固イ難カシイ
コトヲ言フト、是等ノ人ハ假令少額デモ困
ルノデハナイカ知ラト思フ、又米ヲ買フ人
間ガ段々多クナッテ來ル、サウ云フコトガ本ニ
モ書イテゴザイマス、「タウン」即チ都市ト
農村ノ區別ハ英國デハ段々無クナッテ來タ、
歟ハ昔孟子ノ時代ニ於テモ都市デ作ッタク
シイ、今ヤ農村ノ肥料ハ人糞ニ依ラズシテ、
硫酸ノ會社デ造ルト云フヤウニナッテ來居
ル、農村ガ都會ニ入ッテ居ル、又市農會ト云フ
モノガ、現在モ久留米ニソレガアル、東京
ニモ市農會ガアッテ、都市ガ發展スルト、其
地域ニ於テ増大シテ來ルカラ、其間ニ市ト
地方トノ關係ガ出來テ居ル、又電氣モ
起リ、又農村ノ工業化ト云フコトモ
起ッテ、段々ト農村ト都市ト云フモノガ互ニ
一緒ニナッテ來テ居ル、ソレデゴザイマスカ
ラ、ソコニ「エリキ」ガ出來テ來テ、分散主
義ガ工業ノ上ニ行ヘタ、私ハ紀州ノ御坊町
ノ者デゴザイマスガ、其ノ町ノ端ニ繩工場ヲ
拵ヘテ、電氣デ廻シテ居ルト云フヤウナ工

合デ、愈々分散的工業ガ行ハレテ居ル、サウ
シテ農村ノ工業ガ行ハレテ居ル、化學的肥
料其他ノ機械ハ、即チ此農村ガ都市ニ移ッテ
居ル證據デアル、都市ト農村ノ關係ニ於テ、
日本ガ英國ノ如クニ段々ト接近シテ來タコ
トハ事實デゴザイマス、故ニ農村問題ハ唯
單ニ農村ヲ培フダケデハ駄目ダ、此間モ書
イタモノヲ見マシタラ、水ヲ治メントスル
者ハ先ヅ山ヲ治ムベシト云フコトガ出テ居
リマシタ、即チ私ハ農村ヲ治メントスルナ
ラバ先ヅ都會ヲ治ムベシト言ヒタイ(拍手)
農村ヲ治ムベクンバ、先ヅ現代ノ腐敗墮落
シタ所ノ官僚ノ徒ヲ正道ニ立チ戻ラシテ、
彼等ヲシテ眞劍ニ農村政策ヲ確立サセルニ
アラズンバ、必ズヤ好イ結果ヲ農村ニ來ス
モノデハナイ、其源濁ッテ其末淨イモノハナ
イト昔カラ言ウテ居ルノハ、此點ニモ當ル
ノデハナイカト惧レル一人デゴザイマス、
諸君、サウ云フヤウナ方法ニ依ッテ、政府ガ
能ク農村ノ進路ト、サウシテ産業機關ト政
治機關ノ活動、行政機關ニ依ル實行ト云フ
モノガ相俟ッテ、初メテ此現代ノ五百万戸ノ
農民、三千万ニ近い日本ノ農民ガ救ハレル
ノデハナイカト私ハ思フノデゴザイマス、
諸君、政府ハ私ノ眼ヲ以テ見マレバ、是ハ
政治上ノ政府デゴザイマス、産業組合ハ經
濟上ノ政府デゴザイマス、産業上ノ政府ハ
彼ノ佛蘭西ノ「ラヂカル」急激デハゴザイマ
スケレドモ、彼ノ「ソレル」ノ言フ「サンチ
カリズム」ヲ見マス、産業組合ハ政治ニハ
一切携ラナイト云フヤウナ思想ガ、此産業

組合ノ一ツヲ物語ッテ居ルト思フノデゴザ
イマス、産業組合ハ共同的社會デアルト共
ニ契約的社會デゴザイマス、利益代表ノ社
會デゴザイマス、利益團體デゴザイマス、
此ノ政府ガ國民、一般消費者ヲ味方ニ附ケ
テ、サウシテ食ヘナイ者ハ乞食デモ救ウテ
ヤル、病人ハ病院ヘ入レテヤル、廣田君モ
言ハレテ居ルガ、此大キナ金ノアル世ノ中
デ、親子心中ガ去年ダケデ五十組モ六十組
モアルコトハ何事ヲ物語ッテ居ルカ、廣田君
ノ最モ大ナル關心ノ一ツハ天下ノ恩澤ガ是
等ノモノニ及バナカッタト云フコトニ付テ、
痛切ナル所ノ慚愧ノ念ヲ感ジテ居ル一人デ
アルト私ハ思フ、私ハ過グル選舉ニモサウ
云フコトヲ言ウテ廻ッタク所ガ、ヤハリ廣田君
モ其感ヲ同ジウシテ居ルノデアルト思フ、
諸君モ其感ヲ同ジウシテ居ル、是即チ政治
ハ産業ヲ治ムルニアラズシテ人ヲ治ムルニ
アル、昔禹ハ金銀ヲ山ニ埋メタト云フコト
ハ其爲メデアルカト、私ハ思フノデアリマ
ス、産業尊キニアラズ、兵器尊キニアラズ、
日本國民ハ安心立命ノ地ヲ此大空ノ下ニ受
ケテ、安泰ニ其生ヲ遂ゲ、天命ヲ全ウスル
ト云フノガ、即チ日本帝國ノ大ナル使命デ
ナケレバナラナイト思フノデアリマス、斯
ウ云フ意味カラ考ヘマシテ、今ヤ政府ト産
業組合ガ互ニ手ヲ携ヘテ行キマスケレド
モ、結局離レルデアラウト思フ、又産業組
合モ相互ニ色々離合シ來ルト私ハ思フ、故
ニ私ハ中々難カシイ、農民ガ大キナコト言
ウテ農村ト言ヒマスガ、砂漠ノ中ニ農村ハ

居レルモノデハナイ、小サイ小都市ガアツテ、五ニ社會上ニ樂シク暮セルノデアル、物質ノ供給ガ自由ニ物質ヲ選擇シ得ル所ノ社會組織ノ中ニ入ッテ、彼等ハ農村タルコトガ言ヘルノデゴザイマス、彼等ハ言フ託シテ農村アルニアラザレバ國民ハ立タヌト言ヒマスケレドモ、米ハ朝鮮デ作ルコトガ出來ルノデゴザイマス、農民モ亦自覺スル時デアルト私ハ思フ、五ニ考慮スベキ時デアル、ソコデ日本ノ國家乃至民族ノ維持發展ガ其處ニアルト思フノデゴザイマス、サウシテ私ハ米ノ方策ニ付テ、比較的安價ニ賣ラシタテラバ宜カラウト思フ、豐作ノ場合ハ特ニ——諸君、彼ノ佛蘭西革命ニ當リマシテ、佛蘭西ノ「マルセーユ」ノ港ニ麥ヲ棄テテ労働者ガアツタ、オ前ハ何故棄テルノカ、命令ダカラ棄テタ、吾々ハ飯ヲ食ヘヌノニ麥ヲ何故海中ニ棄テルノカ、儂モ飯食ヘヌケレドモ棄テロト云ウテ儲ヘレタカラ棄テ、居ルノダ、今ヤ佛蘭西ハ饑饉ニ遭遇シテ居ル、然ルニ麥ヲ何故棄テルカト云フト、麥ノ所有者タル所ノ資本家ガ麥ヲ海ノ中ヘ入レテ麥ノ量ヲ制限ラシタラ麥ノ値ガ高クナルト云フノデ棄テサセタノデアリマス、ソコデ大イニ激昂シテ佛蘭西革命ノ一原因トナッタト云フコトデアリマス、私ハ何モ挑發スルノデハアリマセヌガ、食フヤ食ハズノ者ガ深川ノ萬年町邊リニウヨ／＼シテ居ルノニ、而シテ小言ヲ云ウテ居ル、米ヲ何十万石モ腐ラシテ居ルト云フコトヲ先ノ統制法デ見ルノデアリマス、又今回モ村々ニ、是ハ吾々

ノ米ヲ吊上ゲル爲ニヤッタト云フ誤解ガ生ジタラ何ト諸君辯解スルカ、ソレガ能ク行ケバ宜イケレドモ、惡ク行ッタラドウカ、朝鮮、臺灣ハドウデス、諸君、「耶律楚材」ノ言ハレタ、一利ヲ起スハ一害ヲ除クニ如カズト言ハレタ此ノ言ハ諸君ニ必要ノ一ツノ言デハナカラウカト私ハ思フ、ヘボ醫者ハ多クノ藥ヲ以テ病人ヲ殺スノデゴザイマス、諸君ガ朝令幕改、マダ決ッテ居ナイヤウナ案ヲ僅カ一時間ヤ二時間デ附帶決議、希望決議ト言ッテ付ケテ居ルガ、自信ノナイモノヲ不信任案モ出セマイト云フヤウナ政府ニ託シテ、之ニ信賴ヲ藉シタト云フヤウナ諸君ハ、餘リニ現實ニ臨ンデ自己ノ利害ニ因ハレテ、國家ノ大計ヲ知ル者デナイト言ハレテモ面目ガアルカト私ハ聞キタイノデゴザイマス、サウ云フヤウナ意味ニ於テ、私ハ廣田君モ言ハレテ居リマスガ、諸君、私ハ此自由ト統制、自由トハ何ゾヤ、北畠吉君ノ言フ所ニ依ルト、「カント」ハ自由ヲ外ニ「ウイルクニユー」即チ氣儘勝手ト云フコトガ對立シテ居ル、自由ハ氣儘デアッテハイカヌト言ハレテ居ル、又「カント」モ一人ノ人ノ自由デ他ノ自由ヲ妨ゲルノハ自由デナイ、自由ハ平等デナケレバナラヌト「カント」ハ言ハレテ居ル、彼ノ觀念論者ノ言フ所眞ナリヤ否ヤ私ハ知りマセヌ、併ナガラ此自由ト云フモノヲ餘リヤルト、自由競争ガ起キテ強イ者ガ天下ヲ取ルカラ、正義ノ觀念ノ「オーダー」即チ秩序ヲ保ツモノガ起ッテ支配ヲ揮ッテ萬民安堵ノ源ヲ立テルノデアアル、自由

ヲ極度ニ伸セバ其ノ結果ハ壓迫ガ來ルト思フガ、統制ハ如何、統制ヲ極度ニヤレバ混亂ガ起ルト思フノデアリマス、今ヤ諸君ノ中ニ混亂ヲ起シテ居ルノハ、他カラ來タ統制ノ爲メデハナカラウカト思フノデアリマス、故ニ此自由ト統制上ニ立ッテ居ル太陽ハ何デアアルカト言ヘバ「オーダー」デアル、秩序デアルト思フ、善良ナル秩序、正義的秩序、英語デ言ヘバ「ジヤスチファイド・オーダー」デアルト思ヒマス、此「オーダー」デアルト思フ、此「オーダー」ハ即チ此「ジヤスチファイド・オーダー」正義ノ秩序ヲ以テ向上シツ、天下ヲ導イテ行クノデアルト思フ、ソコデ「オーダー」ノナイ所、據リ所ノナイ、標準ノナイ所、此自由ト統制ハ必ズヤ壓政、壓迫ニ終リ、混亂ニ陷リ、何等ノ爲ス所ハナイト思フ、廣田君ハ自由的ノ上ニ統制的デアルト言ハレタガ、常ニ此點ニ付テ能ク哲學者、政治家、能ク六千年ノ歴史ヲ見テ現代ノ世相ヲ遠觀シテ政治ヲスルニアラズンバ、統制ト云フコトハ何等意味ヲ爲サヌ、結局下ヲヌモノニナッテシマフト云フコトヲ、私ハ恐レル一人デアリマス、諸君、孔子ノ所謂志ト云フノハ、即チ「ピラミット」ノ三百尺ノ空中ノ一點ヲ求メテ「ピラミット」ガ出來上ッタト云フコトデアリマス、孔子ノ仁ノ志モ亦斯ノ如キモノガアルト思フ、其ノ標準トスル所ヲ置イ

テ、其標準ニ違ッタモノハイケナイ、併シ合ツタモノハ宜イト云フ標準モ決メナイデ、廣田君モサウデアアル、色々ノ集ッテ他元的世界ノ中デ、只割合ヲ掛ケテ、只ソレトソレトヲ取合セテ行クト云フ現狀デハ、一人英傑ガ起ッタナラバガラリト變ッテシマフ、斯ウ云フ世ノ中デハ駄目ダ、據リ所ノアル標準、ガナケレバ天下ハ圓ク治マルモノデハナイト思フ、諸君、獨逸ノ「デニス」モ言ハレテ居ル通り、今ヤ此家族の協同社會ハ益々營利的契約的社會ニ變リツ、アルト言ウテ居リマス、此家族主義カラ社會主義マデノ轉向ガ、現代ノ一ツノ大ナル標準デアルト思フ、諸君、労働黨ノ諸君ハ國家アルカラ現代ノ労働者デアリ、英國ノ労働者ト似テ居ル、ネー、其處ニ前提ガナケレバ諸君ハ立タナイ、諸君ハ或ル程度ニハ反對スルケレドモ、諸君ノ労働者中ニハ官業ノ労働者ガアル以上ハ、政府ガ餘リ壓迫サレマスナラバ困ルカラ、コデ賛成シテ、コ、デ取ルト云フヤウナ方法ヲ用ヒテ居ルカモ知レヌ、サウ云フヤウナ色々ナ「エレメント」、フエルシーデネ・エレメント、違ッタ所ノ「エレメント」ノ合作ニ依ッテ、現代ノ政治ヲ渦卷イテ居ルト思フノデアリマス、此意味ニ於テ日本ノ家族社會ヲ維持シテ、小サイ商工民ト云フ者ハ妻モ子モ孫モ眞面目ニ一緒ニ働クトカ、商店デ働ク、之ニ反シテ資本家ハタ飯ヲ三ケ所ニモ行ッテ食ヒカケテハ、又他ニ行ッテ食ハナケレバナラヌ、常ニ他ニ出テ居ルカラ日曜モ子供ノ顔ヲ見ラレヌト云フヤウナ、

實ニ憐ムベキ人生ノ地獄ニ陥リツ、アル者ヲ救済スルノモ、諸君ノ資木家ニ對スル任務デアルト思フ、サウ云フ意味ニ於テ吾々ハ何處ニ人生ヲ置クカ、人間ニ置クカ、産業ヲ置クカ、産業立タズンバ人ハ餓エテ死ンデシマフ、人間立タズンバ黄金滿溢何等價スル所ハナイ、サウ云フ點ニ付テモ私ハ考ヘテ裁キタイと思フ

諸君、是カラ私ハ現行法ニ付テ少シク述ベテ見タイ、諸君、此現行法ノ關係ニ於キマシテ(モウ宜イヨ)ト呼フ者アリ)聽キナサイ、五十五條ノ關係ニ於キマシテ、若シ此五百万石ガ統制出來ナカッタ時ニハ、更ニ又第二次的ニ統制スルト言フ、是ハ一體ドウ云フ譯デアルカ、其石數モ決メテ居リ、又割當モ決メテ居ナイラシイ、是ハ一體ドウスルノカ、分ラヌデハナイカ、二重ニヤラナケレバナラヌ、ソレダケナラバマダ宜シイ、米屋ノ倉ニアル奴ニマデモ手ヲ著ケテ、持ッテ來ナケレバナラヌト云フ社會ノ混亂ヲ起スデハナイカ、サウ云フヤウナ二重的ノ分ラヌコトヲスルト云フノハ一體ドウ云フ譯ダ、現行統制法ダケデ宜イデハナイカ、來年及ビ再來年ガ必シモ豐作ニナルト云フコトハ、今ノ所分ッテ居ナイデヤナイカ、何ガ故ニコシナコトヲヤッタカト云フコトヲ私ハ聽キタイ、ソレカラ又曩ニ專賣法ニ依ッテ管理ノ前提トシテヤルト云フコトハ、私ハ分ラヌ、又此米ノ價格ニ付テハ私ハ價格ノコトハ分リマセヌケレドモ、二十四圓ヲ最低ト見タノハ、三十三圓二十錢ヲ最

高ト見タノハ、豐凶ヲ合シテ大體統計ト頭デヤッタモノト私ハ思フノデゴザイマス、併ナガラ豐年ノ時ニダケノ問題ガ本回ノ法案ニ限ラレテ居ルノデゴザイマスカラ、何ガ故ニ二十四圓ト云フコトヲ御固執ニナルカト云フコトヲ聽キタイ、何ガ故ニ豐凶ヲ加味シタ所ノモノノ中デ、最低ヲ二十四圓トシタカ、豐作ト云フコトヲ前提トシテ作ッた所ノ案ニ、最低ガ二十四圓ト云フコトハ、何ヲ以テ斯ノ如キ標準ガ起ッタカ、諸君ノ頭ハ少シク杜撰デアルト思フ、政府ノ官僚ノ頭ハ少シク杜撰デアルト思フ、經濟學ノ一頁ヲ讀マヌモノデハナイカト私ハ心竊ニ虞レルノデゴザイマス、又曩ノ場合ハ八圓モ開キガアツタ、今回ノ場合ハ二圓何十錢ノ小幅シカナイト云フノハ、一體ドウ云フ譯カ、統計ト人間ノ心理ト總テ見テ作ッたト云ハレルガ、何ヲ根據ニシテ作ッたカト云フコトハ私ハ分ラナイ、又豐作ノ時ニ二十六圓、豐凶ヲ入レテ三十三圓トシテ、ドッチガ高イカト云フ上ニ付テ考策ヲシタイ、諸君ハ斯ノ如キ簡單ナル數字ニ向ッテ果シテ討檢ヲ加ヘタカドウカト云フコトハ、國民ト共ニ私ハ諸君ニ聽キタイと思フノデゴザイマス、サウ云フヤウナ意味ニ於テ色々ナ缺陷ガアリ、又聞ク所ニ依ルト、私ハ一々讀ミマセヌカラ分リマセヌケレドモ、一町歩ノ反別ヲ持ッテ居ル、即チ小作人、自作農ハ五反歩ヲ持ッテ居ル者ヲ、ソレヲ會員トシテ強制セシムルト云フコトヲ書イテアル、即チソレハ當然是ナリトシテ統制ト云フガ強

制ラシイ、收穫高ヲ論ズルノニ一町ト五反トドレダケ違フノカ分ラナイデヤナイカ、收穫ヲ論ズルノデアアルカラ「インデペンシブ」、集約的ニ作ル、大阪アタリノ反當リ非常ニ多イ所ノ田地ト云フモノハ、假令近畿ニ於キマシテモ、非常ニ其收穫ガ多イデハナイカ、是ハ一體ドウシテヤルカ御考ガ是亦問題デアル、何等據リ所ガナイ、丁度小作人ハ此前ノ案見タヤウデ、私ハ反別ヲ少クスル、收穫モ少クナル、金額モ示サナイデヤッタライカス、此點ニ似テ居ルデヤナイカ、算盤ヲ彈ク上ニ於テハ諸君ハ私ノ上デアアル、諸君ハ何ト考ヘテ居ルカ、如何ニモ杜撰デアリマス、サウ云フヤウナ案ヲ能ク練リニ續ッタ此案ダト言フノハ、是ハ何處ヲドウ突イタラ出ルカ知ラヌト思フ、田淵ハ五分モ見タラ直ダ分ル狀態デアアル、甚ダ失禮ナ申分デアルケレドモ、サウ云フヤウナ現在ノ此案デアル以上ハ、其他ニモ色々ナル缺陷ガ、能ク見レバ出テ來ルノデヤナイカト私ハ思フノデゴザイマス、サウ云フヤウナ意味カラシマシテ、私ハ此案ト云フモノガ非常ニ杜撰ナ案デアッテ、何等的確ナル斷案ヲ下スベキモノデハナイ、此爲ニ米屋ガ何百万人、即チ二十万戸ヲ持ッテ居ル、少クトモ百万人ヲ持ッテ居ルト云フ者ノ生活ニ關係スル案デアルト思ッテ居ル、噓カホンマカ知ラヌケレドモ或ハ販賣組合ト云フモノトノ競争ガ起ルト云フコトヲ言ハレテ居ルノデゴザイマス、社會問題ガ起ルノデゴザイマス、都會ハ米ノ安イノヲ望ンデ居ルヤ

ウナ狀態デゴザイマス、百姓ノ小百姓ハ惑ウテ居ルト云フ狀態デアリマス、帝國農會ハ曩ニ反對シタト云フコトモ聞イテ居ルノデゴザイマス、サウシテ百姓ガ果シテ助カニ力助カラスカ分ラヌモノヲ持ッテ行ッデ、人ノ嫌フ物ヲ押付ケルト云フコトハ、是レ即チ過激案ガ此日本ニ必要デアルト云フヤウナ新シイ案ヲ廣田君ガ出サレタト云フノト多少似通ッテ居ナイカト思フ、斯ウ云フヤウナ自由ノ言論ノナイ所、諸君、果シテ天下ガ治マルカ、私ハ廣田君ニ聽キタイ、或ハ渡邊君ニ聽キタイ、廣田君ハ言論ノ自由ヲ無視スルト云フコトヲ濱田君モ間接ナガラ言ハレタ、直接ニハ言ヒマセヌケレドモ、然ルニ諸君、言論ノ自由ヲ高調スル、甚ダ宜シイ、諸君ハ仲間ノ爲ニ自由ノ所信ヲ此壇上ニ於テ述ベラレヌト云フコトハ、言論ノ壓迫ニアラズシテ言論ノ自殺的行爲デアル、政黨ノ自滅デアルト言ウテ憚カラヌノデゴザイマス、諸君ハ何ヲ以テ田淵ニ答エントスルカ、諸君、言論ノ壓迫ハ惡イ、言論ノ自殺トハ正ニ……(餘計ナコトヲ言フナ)ト呼フ者アリ)餘計ナコトデハナイ、佐藤洋之助君ニハ餘計ナコトト聞エルカモ知レマセヌガ、田淵ニハ餘計ナコトデハナイ、其ノ意味ニ於テ私ハ諸君ガ、今ヤ政黨政治ト云フモノガ段々ト五ニ反對シ、排擠シ合ッテ獨自ノ利益ノ代表ヲ諸君ガ出來ナイカラ、是ハ獨逸ノヤウナ産業議會ニ一度ビ掛ケテ、サウシテ國民議會ニ掛ケル方ガ適當ダト思フ、サウ云フヤウナ手數ヲ要セ

ヌヤウニ、能ク政府モ調査シ、繼續委員デ
議會ハ審議シヨウト云フ諸君デハナイカ、
此重大ナル國民ノ食糧ニ付テ産業組合ト小
賣商人ノヤウナ色々ノ對立關係ヲナス所ノ
因デアル所ノ本案ニ向ッテハ、徒ラニ雷同ス
ルコトヲ止メテ、能ク慎重審議シテ諸君ノ
知識ト良心ト、現在ノ日本ノ狀態トシテ考
ヘテ、又農業者ノ獨立心ヲ傷ツケナイヤウ
ニ、商工業ニ從事シテ居ル人ヲ失神セシメ
ナイデ、而モ希望ヲ持ッテ我が帝國ノ此非常
時ニ即シ、其觀念ヲ養ハスト云フコトガ、
最モ必要ナ時期デアアルニ拘ラズ、諸君ガ漫
然ト政府ノ要請ニ應ジテ之ヲヤツテ、此反對
ニ立ツ者ガ田淵一人シカナイト云フコト
ハ、如何ニモ私ハ寂シク残念ニ思フノデゴ
ザイマス、私ハ米ノ問題或ハ此大ナル所ノ
農業の根本對策乃至商業、工業、社會政策
ニ付テ知ルモノデハゴザイマセヌケレド
モ、現在ノ議會ニ於テ一人モ私共ト共ニ反
對ニ立ツ者ガナイト云フコトヲ、私ハ實ニ
衷心遺憾ニ存ズル所ノ一人デゴザイマス、
ドウカ諸君、此農村文明ヲ作ルガ爲ニ、日
本ノ農村ヲシテ租稅ダトカ、或ハ公課ニ苦
シメラレヌヤウニ、教育費ノ重壓ニ遭ハヌ
ヤウニ、費用ノ重壓ニ遭ハヌヤウニ、彼等
ヲシテ定住シテ日本帝國ノ爲ニ身命ヲ賭シ
テモ已マナイト云フヤウナ、色々ノ政策ヲ
以テ諸君ガスルナラバ、米ハ先ニ法案ガア
ルノニ、又今之ヲ突付クト云フヤウナ、サ
ウ云フ小サナ事ヲナサルマイト思フ、眞ニ
眞劍ニ彼等ヲ思フナラバ、他ノ方法ニ依ッテ

之ヲヤラル、コトガ必要ダト私ハ思フノデ
ゴザイマス、諸君ハ假令諸君ガ農民ヲ助ケ
マシテモ、他ノ者ガ蠶々トシテ農村救済ニ
向ッテ力ヲ入レナクナツタ時ニハ、諸君ハド
ウデアルカ、農民ハ又彼等ノ力ニ依頼シテ
居ル、俺ハ知ラヌト言ハレタラドウデア
ルカ、是レ重大ナル問題デアルト思フ、ドウ
カ諸君ハ現代ノ此非常時ニ當リマシテ、舉
國一致、大イニ働カケレバナラヌモノデ
アル、士農工商ハ最モ活潑ニ有機的ニ、協
心協力シテ我が帝國ノ前途ヲ開イテ行カ
ケレバナラヌ今日ニ當リマシテ、些々區々
タル未ダ來ラザル所ノ豐年ニ向ッテ喙ヲ容
レテ、反對アルニ拘ラズ、之ヲ押通シ、而
モ産業組合ト他ノモノトノ間ニ爭フ起サセ
ルト云フヤウナコトハ、成ベク避ケル方ガ
私ハ賢明ナル諸君ノ面目デハナカラウカト
思ヒマスガ故ニ、甚ダ失禮デハアツケレド
モ、何モ知ラヌ私ガ此處ニ來ルベキ通常議
會ニ於テ之ヲ慎重審議シテ未ダ遅カラズト
思フガ故ニ、私ハ私ノ愚見ヲ呈シテ諸君、
貴族院並ニ帝國ノ臣民、工業労働者、
農民労働者ガ自覺シテ、吾々ハ日本帝國
ノ爲ニ盡シテ豐年ニハ比較的安イ米モ
食ベテ鼓腹擊壤ノ樂ミヲ打立テタイト
云フヤウナ衷心ノ願カラ私ハ此壇上ニ立ッ
タヤウナ次第デ、決シテ他意アラザル次第
デゴザイマス、ドウカ諸君私ノ不適ナルコ
トヲ咎メズシテ、其意ノ在ル所ヲ採ラレテ、
農民ノ爲ニ、商人ノ爲ニ、或ハ工業ノ發達
ノ爲ニ、諸君ガ經濟學ノ知識ヲ持チ、本末

ヲ能ク知り、初メヲ慎ンデ終ヲ知ルト云フ
コトヲ諸君ガヤラレタナラバ、徒ラニス
如キ法律ガ粗製濫造サレナイト私ハ固ク信
ズルガ爲ニ、此壇ニ於テドウカ諸君ガ此案
ニ反對ヲ致サレテ、通常議會マデ持越サレ
ンコトヲ切ニ望ンデ此壇ヲ降ルヤウナ次第
デゴザイマス(拍手)
○議長(富田幸次郎君) 高橋守平君
(高橋守平君登壇)
○高橋守平君 諸君私ハ只今委員長ノ御報
告ニナリマシタ米穀自治管理法案並ニ米穀
統制法中改正法律案、概共同貯藏助成法案
ノ三案ニ對シマシテ賛意ヲ表シ、只今該博
ナル蘊蓄ヲ傾ケテ述ベラレマシタ田淵君ノ
御主張ニ反對スル者デゴザイマス
本法案ハ御承知ノ通り、去ル第六十七議
會ニ於テ本院ヲ通過致シマシテ、貴族院ニ
於テ審議未了トナツタ法案デアリマス、サウ
シテ其當時述ベラレマシタヤウニ、米穀對策
ノ根本デアリマス生産統制ニ關スル方途
ガ何等加ヘテナイノミナラズ、現在ノ米穀事
情、即チ市價ガ最高公定價格ニ近イ三十一
圓ニナツテ居ルノデアリマシテ、而モ此議會
ニ現レマシタヤウニ、東北地方ハ雪害ヲ受
ケテ、トモスレバ本年ノ米作ハ凶作デハナ
イカ知ラト云フコトガ考ヘラレマスル時ニ
最低公定價格ノ確保ト云フコトニ考テ致ス
ヨリモ、上値、即チ最高公定價格ヲ如何ニ
シテ保持スルカト云フコトニ付キテ、考究
スベキ時デアラウト思フノデアリマスルガ、
此法案ニ對シマシテハ、其點ニハ何等觸レ

テ居ラナイノデアリマス、隨テ私ハ此案ノ
全體ニ對シマシテハ、滿腔ノ同意ヲ表スル
者デハゴザイマセヌガ、唯本案ノ内容ヲ吟
味シテ見マスルト、内地ト朝鮮、臺灣トニ
付テ、過剩米ノ統制ニ關スル割當ノ設ケラ
レタルコト、政府ト生産者ト配給機關ト三
者ガ米穀政策ニ對シ協力一致シテ、其安定
ニ直接關與シ、其責任ヲ分ツ制度ガ設ケラ
レタル點、統制米ノ解除條件ガ下値一割以
上ノ時發動スルコトニ依リ、最高價格ニア
ラザレバ賣却セラレザル、過去ニ於テ有ガ
スレノ變態ガ緩和セラレタル點、其他若干
ノ國庫負擔ヲ輕減セラレタルコトナドハ、
米穀統制法ノ補完法トシテ、相當ノ價值ア
ルモノト認メナケレバナラヌト思ヒマス、
今直チニ拔本塞源の徹底セル米穀對策ヲ
樹立セントスルコトハ、幾多ノ困難ノ伴フ
コトハ、大正十年米穀法制定以來本案ノ成
立ヲ見ルマデノ經過ヲ見マシテモ、諒解出
來ルコトデアリマス、即チ民政、政友兩黨
ノ政策協定ニ依リ、本案ヲ取扱ヒ、之ヲ米
穀對策調査委員會ニ移シ、得タ所ノ成案ヲ第
六十七議會ニ提出シテ、本院ガ非常ナル苦
心ノ下ニ大修正ガ行ハレ、出來タノガ此法
案デアリマスカラ、隨テ吾々モ不満足ナガ
ラモ本案ニ、反對論者ノ指摘スル運用上ノ
不安ヲ感ズル趣旨條項ニ對シ、嚴重ナル附
帶決議ヲ附シテ賛成シ、暫ク其實績ヲ見
トスルモノデアリマス、又米穀法中改正法
律案ハ、施行ノ經過ニ顧ミタル改正デア
リマシテ、概共同貯藏助成法案ハ、米穀調節

上必要ナルモノト認メルノデ、此二案モ賛成シタ次第デゴザイマス、併ナガラ米穀問題ハ生産者、配給機關、消費者ヲ繞テ、利害ヲ調節スル重大ナル意義ヲ持ツモノデアリマシテ、米價ノ安定コソハ、農村ノ更生ノ動因デアリ、全國民消費大衆生活ノ安定ヲ結果付ケルモノデアリマスカラ、政府モ生産者モ配給機關モ、一大決意ヲ以テ是ガ解決ニ當ラナレバナラズト存ズルノデアリマス、只今述ベマシタルガ如ク、折角ノ本統制案モ生産統制ヲ忘レテ居ルノデアリマスカラ、過剰米ヲ統制シ、需給ヲ調節セントスル本法案ハ、却テ過剰米ノ生産ヲ獎勵スルノ結果ナルモノデアアルマイカト思ハレルノデアリマス、政府ハ深甚ナル考慮ヲ拂ッテ、如何ナル困難ナコトガアリマシテモ、一日モ速ニ拔本塞源ノ對策ヲ樹立スベキモノデアリ、況シテ今回ノ附帶決議中ニ於テモ、之ヲ強ク要求シテ居ル次第デゴザイマス、殊ニ米穀問題ニ付キマシテハ、常ニ外地米ガ論議ノ中心ニナルノデアリマシテ、此解決ヲ見ナケレバ、自然内外地農民ノ間ニ對立抗争ヲ生ジ、將來恐ルベキ結果ヲ惹起スルコトアラソコトヲ惧ル、モノデアリマスルガ故ニ、本法ノ運用ニ依リ過剰米統制ノ割當、内地三割五分、外地六割五分ヲ、從來ノ行掛リヲ捨テ、農林、拓務ノ兩省間ノ密接ナル協力ニ依リ、其徹底ヲ期シ、將來變化スル移動米ニ關シ絶エザル注意ヲ拂ヒテ、其割當ニ公正ヲ期スベキデアリマス同時ニ、過剰米ノ生産地タル臺灣、朝鮮ニ於キマシテハ、棉花其他ノ代

作ヲ獎勵スルト同時ニ、臺灣ニ在ッテハ南洋方面ニ、朝鮮ニ在リマシテハ滿洲國方面ニ、ソレハ新規販路ノ開拓ト、燃料問題ノ解決ノ一トシテ、無水「アルコール」ノ製造「グリセリン」ノ製造等、新規用途ノ研究ニ十分意ヲ致シ、内地外地ノ關係ヲ眞ニ唇齒輔車ヲラシムルヤウ、努力スベキデアルト思フノデアリマス、尙ホ重大ナ關心事ハ、本法案ガ一タビ議會ニ提出サル、ヤ、第六十七議會以來全國民米穀取扱業者ノ、從來其例ヲ見ザル大衆運動ヲ捲起シ、其生活權擁護ヲ主張シツ、アル一事デアリマス、之ニ付テハ政府ガ本案提出ニ當リ、準備工作ニ不十分ニシテ、斯ル國民生活ノ上ニ直接重大ナル關係ノアル法案ニ對スル、國民ノ理解ヲ與フルニ缺クル所ガアリ、其結果成文化サレザル其背後ニ、産業組合ノ擴大強化ヲ慫慂スルト信ジタル當業者ガ、サラダダニ昭和八年以降、産業組合ガ政府ノ指導ト相俟ッテ、販賣購買ノ事業ニ異常ナル發展ヲ爲シ、國家ノ與ヘタル特權ヲ背後ニ負ヒ、自力更生ヲ雄叫ビトシテ、配給機關、殊ニ中小商業者ノ權益ニ進出シ來リマシテ、一大恐慌ヲ起シツ、アツタ折柄ナレバ、本法案ノ撤去カ、是ガ是正カニ依リマシテ、其脅威ヲ除キ、商權ヲ擁護セントスル、其衷情洵ニ察スベキモノガアルト思フノデアリマス、勿論第六十七議會以來、政府ガ商業組合ノ普及徹底ニ依リ、中小商業ノ組織ノ合理化ト、經營ノ改善ニ依リ、眞ニ配給機能ヲ發揮セル商業組合ト、農村構成ノ唯一ノ機關タル産業組合トノ提携ニ依リ、トモ

スレバ農民ト商人トノ對立尖鋭化ヲ解消セント努メ、本議會ニ商工組合中央金庫法案ヲ提出シ、産業組合ニ與ヘツ、アル特權ヲ商業組合ニモ與ヘ、由ッテ以テ農ニ厚ク商ニ薄キ說ヲ排除シ、全國打ッテ一丸トナリ、共存共榮ノ實ヲ擧ゲントスル指導精神ハ仄見エルノデアリマスガ、本法案運用ニ當リマシテ、一步誤ランカ當業者ノ指摘シタル弊害ヲ實現シ、戒嚴令下ニ心ヲ憂フルモ懣フルニ策ナク、僅ニ通信ニ依リテノミ哀訴シテ居ル當業者ヲシテ、後日悲憤慷慨、政府ヲシテ怨府ヲラシムルノ虞ガアルノデゴザイマスルカラ、特ニ政府ハ附帶條件ノ第四項、第五項竝ニ只今御答辯ニナリマシタ商工大臣、農林大臣、兩大臣ノ答辯ヲ信奉斷行スベキデアルト考ヘルノデアリマス、ノミナラズ本法案ハ米穀政策中ノ寶刀デアリマスルガ、當ニ米穀商ニ對スル打撃ノミナラズ、徒ニ之ヲ弄スレバ農村重要政策ノ第一ナリト期待ヲ掛ケ居ル農民モ亦桎梏ノ下ニ苦シミ、種々煩雜ナル取締ヲ受ケ、物質的ニ精神的ニ受クル犧牲ニ對スル何等ノ代償ヲ得ラレザル結果ヲ生ジ、農村ニ對スル滋養劑ト考ヘルモノガ、却テ其命ヲ縮メル毒藥トナルノデゴザイマス、又本法ハ財政上ノ負擔ヲ輕減スル立前デアリマスガ、仔細ニ檢討スルト、今マデ政府ガ米穀需給調節特別會計法ニ依リ、買上ゲタ過剰米ヲ、金利保管料其他ヲ生産者ニ補助シテ、生産者自身ニ管理セシムルモ、相當價格ノ資金ヲ貸付ケルノデアリマスカラ、一朝其資金ノ回收セラレザル事象ヲ生ジマスレバ、逆ニ

多數ノ關係者ヲ動員シ、失費ヲ増シ、財政上ノ負擔ヲ大ナラシムルモノデアリマシテ、一万圓ヲ得ントシテ二萬圓ヲ損ズル結果トナル虞モアルノデゴザイマス
以上簡單デアアリマスルガ、委員長ノ報告ニ賛成シ、其運用ニ對シ當局ノ注意ヲ喚起シタ次第デゴザイマス(拍手)
○議長(富田幸次郎君) 東郷實君
(東郷實君登壇)
○東郷實君 我ハ只今議題ニナッテ居リマス米穀ニ關スル三法案ニ對スル委員長ノ報告ニ賛成スル者デアリマス、先程委員長ノ報告ニ依リマスレバ、委員會ニ於テハ滿場一致可決ニナツタコト云フコトデアリマスカラ、院內ニ於テハ大ナル反對ハナイト存ジマス、併ナガラ院外ニ於キマシテハ、可ナリ反對ノ陳情等ガオ互ノ手許ニモ參ッテ居ルノデアリマスカラ、此機會ニ於キマシテ、吾々ガ此三案ニ賛成スル理由ヲ闡明致スコトガ、吾々議員ノ任務ナリト存ジマス(拍手) 暫ク御清聴ヲ煩ハシタイト存ジマス(拍手)
此三法案ガ適當ナリヤ否ヤヲ批判スルニ先立チマシテ、我ハ我國ノ米ニ關スル根本ノ方針ヲ、先ヅ認識シテ掛ラナケレバナラスト存ジマス、米ニ對スル國策ハ私ハ二ツシカナイト思フ、第一ハ之ヲ自由放任ニ委ネルカ、サナクバ人爲的ニ調節統制シテ行クト云フコトデアアルト思フ、私ハ國民生活ノ安定ノ上カラ、國防ノ充實ヲ期スル上カラ、又米其モノノ特殊ナ事情カラ之ヲ自由放任ニ任スベキモノデナクシテ、徹底的ニ人爲的調節ヲ行ハナケレバナラズト考ヘル

一人デゴザイマス(拍手)自由放任ヲ主張スル人ノ總括的ナ主張ヲ考ヘテ見マスレバ、理論的ニハ自由經濟思想ニ基イテ居ル、又國策ノ上カラ申上ゲマスレバ、商工立國ニ偏シテ居ル議論デアラウト思フ、嘗テ米穀調査會ニ於テ、或ル有力ナル一人ノ委員ノ人ガ言ハレタコトガアリマス、我國ハ英吉利ト同ジヤウニ島國デアアルシ、此島國ニ於テ國ヲ立テルニハ商工立國デナケレバナラス、ソレニハ優良ナル品ヲ安ク生産ヲシテ、海外ニ賣ラナケレバナラスガ、其爲ニハ成ルベク生産費ヲ安クシナケレバナラス、生産費ヲ安クスル一ツノ手段トシテハ、必シモ高イ米ヲ内地デ作ル必要ハナイ、世界到ル處カラ安イ米ヲ輸入スレバソレデ足リルノデアアル、併シ此方法ヲ執ルトスレバ、平時ハ宜イガ、非常時ニ於テハ甚ダ危險デア

シテモ、論者ノ言フヤウニ吾々ハ成ルベク安イ食糧ヲ國民ニ供給スルコトニ異存ハナイ、併ナガラ安イ食糧ヲ國民ニ供給スル前ニ、平時ニ於テモ非常時ニ於テモ、確實安全ニ國民ノ必要トスル食糧ヲ遺憾ナク供給スルト云フコトガ、ヨリ以上ニ私ハ重大ナ問題デアルト存ジマス(拍手)論者ハ斯ル非常時ニ備ヘル爲ニ、陸海軍ノ國防ヲ充實スレバ足リルト稱シテ居ルケレドモ、果シテ是デ安心スルコトガ出來マセウカ、彼ノ世界大戰ニ於テ、英吉利及ビ獨逸ノ國情ヲ考ヘテ見タ時分ニ、吾々ハ尊イ教訓ヲ得ルコトガ出來マス、英吉利ハ御承知ノ通り千八百四十六年ニ穀物條例ヲ廢止シテ以來、商工立國ノ下ニ内國ノ農村ヲ犧牲ニ供シタ、世界大戰ノ當初ニ於テ英吉利國民ノ必要トスル食糧ノ六分ノ五、即チ一年十二箇月ノ中十箇月分ハ之ヲ海外ニ仰ガナケレバナラス、自產自給ハ僅ニ六分ノ一、二箇月分シカナイ、此憐ムベキ農村ノ狀態、食糧供給ノ狀態ハ如何ニ英吉利ノ政治家、或ハ軍人ノ頭ヲ悩シタカ、アノ戰爭ニ際シテ英吉利ノ政治家竝ニ軍人ノ憂ヘタノハ、如何ニシテ敵ニ勝ツカト云フ問題デナクシテ、如何ニシテ英吉利國民ヲ飢カラ救済スルカト云フ問題デアッタノデアリマス、即チ斯ノ如キ氣ノ毒ナ狀態ニアッタ、商工立國ノ爲ニ農村ガ犧牲ニ供セラレタ英吉利ハ、國民ノ食糧ヲ安全ニ海外カラ輸入スル爲ニ全力ヲ擧ゲテ、英吉利ノ海軍ハ運送船ヲ護送シナケレバナラナカッタ、世界第一ノアノ英吉利ノ大艦隊ガ其爲ニ遂ニ其威力ヲ海戰ノ上ニ極力

用ユルコトガ出來ナカッタト云フ、是ガアノ戰爭ヲ四年半ノ長キニ互ラシタ根本ノ原因ナリトハ、英吉利人自身告白シテ居ル所デアリマス、之ニ反シテ獨逸ハドウデアッタカ、獨逸ハ商工業ノ發展ト共ニ、農村ノ維持、農業ノ發展ニ努力ヲ致シテ居ッタ、世界大戰ノ初メニ於テハ丁度英吉利ト反對、獨逸國民ノ必要トスル食糧ノ六分ノ五ハ、内國ニ於テ生産シテ居ッタノデアリマス、而モ馬鈴薯ガ非常ニ能ク出來テ居ッタ、人間ガ食ベテ餘ル、我ガ日本デアッタナラバ斯ル場合ニ或ハ減反ノ計畫ナドラスルカモ知レスガ、獨逸人ハ斯ノ如キ愚カナ政策ハ執ラナイ、人間ガ食ッテ餘ッタナラバ、他ニ利用ノ道ヲ講ジテ居ル、其餘レル所ヲ豚ニ食ハシ、尙ホソレデモ餘ルト「アルコール」ノ原料ニ供スル、尙ホソレデモ餘リマスカラ、ソレヲ露西亞其他ノ海外ニ輸出シテ居ッタノデアリマス、サウ云フ優良ナ狀態ニアッタ時ニ、アノ戰爭ガ始ッタ、ソコデ各國ハ獨逸ヲ封鎖シ、食糧攻メニシテ、一日モ早く獨逸ヲヤッ付ケヨウト云フヤウナ計畫ヲ執ッタケレドモ、獨逸自身ハ此有リ餘ル馬鈴薯ヲ旨ク利用シタ、輸出ヲ止メ「アルコール」ノ原料ニ供スルヲ止メ、更ニ豚ノ飼料ニスルヲ止メ、人間ノ食糧ニ供スルト云フ此大キナ政策ヲ執ッタ爲ニ、或ル歲月ノ間食糧ニ於テハ遺憾ナキ自給ガ出來タノデアリマス、併ナガラアノ戰爭ガ長キニ互リ、第一線ニ戰フ所ノ兵士ハ滿腹ニ食ヒ、能ク戰ッテ勝ッタケレドモ、三年、四年ト續ク間ニハ獨逸ニ於テモ食糧ノ不足ヲ懸ヘ空腹ニ

堪ヘナイ、即チ獨逸國民ノ空腹ハ其極ニ達スルヤウニナッタ爲ニ、如何ニ陸軍ガ滿腹ニ食ヒ、能ク戰ヒ、能ク勝ッタシテモ、此國民ノ空腹ト戰ッテ勝ツコトガ出來ナカッタ、即チ戰ニ勝チナガラ兜ヲ脱イデ、敵ノ軍門ニ降ッタト云フノガ、アノ真相デアルト云フコトヲ吾々ガ考ヘタ時、英吉利ノ場合、獨逸ノ場合、此二ツノ事實ハ如何ニ戰爭ガ科學的ニナリ、機械的ニナッテモ、依然トシテ最後ノ戰爭ノ決定ヲ爲ス所ノモノハ食糧デア

ル、即チ國民ノ必要トスル所ノ食糧ヲ完全ニ供給スルカ否ヤ、或ハ國民ノ空腹ヲ完全ニ救済シ得ルカ否ヤニ依ッテ、戰爭ノ最後ノ勝負ハ決マルト云フコトヲ、吾々ハ教ヘラレタノデアリマス、私ハ此事實ハ直チニ以テ我國ノ將來ヲトスルコトガ出來ルト思フ、即チ我ガ日本ハ東洋ノ島國デアリマスルガ、今ヤ世界ノ中心ハ地中海ヨリ大西洋ニ移リ、更ニ太平洋ニ移ラントシテ居ル、世界ノ將來ハ太平洋ヲ中心トシテ進マナケリヤナラス、其世界ノ中心タルベキ太平洋ノ真中ニ國ヲ成ス我ガ日本ガ、日本ノ國防ヲ完全ニ充實シ、而シテ我國ガ世界的ニ果サナケレバナラス所ノ大使命ヲ果ス爲ニ必要ナ國防ハ陸軍ニ、海軍ニ、空軍ニ、私達ハ遺憾ナキ充實ヲ期シナケレバナラスト信ズルノデアリマス、併ナガラ如何ニ我國ノ國防ガ充實シテ居ッタ致シマシテモ、我國ノ農政ガ宜シキヲ得ズシテ、農村ガ荒廢シ、更ニ吾々ノ必要トスル所ノ食糧ノ大部分ヲ海外ニ仰ガナケリヤナラスト云ッタヤウナ運命ニ陥ッテ居ルトシタナラバ、非常時ニ

於テ吾々ハ會テ英吉利或ハ獨逸ガ嘗メタト
同ジヤウナ苦益ヲ嘗メナケリヤナラヌコト
ガ決シテナイトハ斷言ガ出來ナイト存ジマ
ス、斯ノ如キ事實カラ申シマスレバ、私ハ
國防ノ第一線ハ農村ニアリト主張スル者デ
アリマス(拍手)即チ我黨ガ兵農兩全ヲ高調
シ、産業ト國防トノ並進ヲ主張スル所以
ハ、茲ニ在リト私ハ信ズルノデアリマス(拍
手)斯ノ如ク食糧自給ノ問題ガ國家ニ取リ、
國民ノ生活ニ取リ、國防ノ上カラ論ジテ必
要デアルト云フナラバ、私ハ國家ハ内地ノ
米作農ニ對シテ有ユル保護ヲ致シテ行クト
云フコトハ、當然ノ處置デナケリヤナラヌ
ト信ジマス、即チ私達ガ米ニ對スル政策ヲ
自由放任ニ委ネズシテ、人爲的調節、統制
ヲシナケリヤナラヌト主張スルノハ茲ニア
ルノデアリマシテ、大正十年來或ハ米穀
法、或ハ米穀統制法、或ハ今回ノ自治管理
法等ガ、次カラ次ニ生レ出ヅルト云フコト
ハ、此大切ナ國策遂行ノ、私ハ現レナリト
信ズルノデアリマス(拍手)

ソコデ米ノ問題ガ斯ノ如キ意味ニ於テ人
爲的調節統制ヲ必要トスルナラバ、私達ハ
此度現レタ所ノ三ツノ法案ヲ批判スル前
ニ、先以テ我國ノ米ノ國策ヲ何處ニ目安ヲ
置クカト云フコトカラ、決定ヲシテ行カ
ナケリヤナラヌト信ジマス、私ハ我國ノ米
ノ問題ハ内地ニ於テ國民ノ必要トスル米
ハ、出來ルダケ内地ニ於テ是ガ生産ニ努メ
ル、併シソレデモ尙ホ不足スル場合ニハ、
之ヲ朝鮮、臺灣等ノ如キ外地米ノ供給ニ仰
ギ、尙ホソレデモ足ラナイ場合カ、或ハ或

ル特殊ナ用途ノ爲ニ必要トスル場合ニ於
テ、初メテ外國米ヲ輸入スル、是ガ我國ニ
於ケル米ノ國策ノ根本ノ方針デナケリヤナ
ラヌト思ヒマス、斯ノ如ク私達ガ考ヘタ場
合ニ、我が内地ダケデハ言フマデモナク米
ガ足ラナイ、過去ニ於テハ特ニソレガ著シ
カッタ、ソコデ中央政府ニ於キマシテハ、朝
鮮若クハ臺灣總督府ニ對シテ、此内地ニ於
テ足ラザル所ノ米ノ補給ヲ爲スガ爲ニ、米
作獎勵ノ達ヲ致シタノデアリマス、私ハ自
ラ臺灣ニ居ッテ米ノ問題ニ携ッタ一人デアリ
マスガ、明治四十一年カ二年デアッタ思
フ、内閣カラ、内地ニ米ガ足ラヌカラ、臺
灣ニ於テモ其補充ノ爲ニ極力米作ノ獎勵ヲ
セヨト云フ達ヲ受ケタ、此中央政府ノ方針
ノ爲ニ臺灣總督府ガ米種改良ノ事業ヲ始メ
タ、其根本方針ハ内地ニ足ラザル米ヲ臺灣
カラ出來ルダケ供給セヨ、故ニ米ノ如キモ、
成ルベク内地米ニ類似シタ、内地ノ市場ニ
賣レ易ク、而シテ内地人ノ嗜好ニ適スルヤ
ウナ品種ヲ選ビ出シテ行カウト云フ方針ノ
下ニ、臺灣ノ米種改良ノ國策ガ成立ッタノデ
アリマス、私ハ朝鮮ノコトハ知リマセヌガ、
朝鮮ノ產米改良モ結局同ジヤウナ精神ニ
依ッテ始ッタモノト思フ、當時ニ於テハ洵ニ
適切ナ國策ガ行ハレタノデアリマス、併ナ
ガラ是等ノ獎勵ガ其效ヲ奏シテ、最近内地
ニ於テ需要スル以上ニ、朝鮮、臺灣等カラ
米ガ入ッテ來ル、殊ニ品質ノ良イ朝鮮ノ米ガ
出來秋ニ於テ殺到スルト云フコトガ、内地
ノ米價ヲ壓迫スル事實ノアルト云フコト
ハ、何人モ否ムコトノ出來ナイ事實デアリ

マス、ソコニ於テカ色々ノ議論ガ出テ來ル、
或ハ朝鮮、臺灣等ノ外地米ガ内地米ヲ壓迫
スルカラ、速ニ朝鮮、臺灣ニ於ケル米作ノ
獎勵ヲ中止シナケレバナラヌト云フヤウナ
議論モ生レ出タノデアリマスガ、是モ已ム
ヲ得ナイ議論デアリマセウ、之ニ對シテ外
地ノ關係ノ方面カラハ、外地米ヲ差別待遇
スルノハ怪シカラヌト云ッタヤウナ議論ノ
起ッタコトモ事實デアリマセウ、是ニ於テ
カ、或ハ農林省ナリ、或ハ拓務省ナリノ意
見ガ、必シモ一致シナカッタカモ知レヌ、併
シ時代ニ依ッテ必要ナ場合ガ來タラバ、從
來探シ居ッタ所ノ政策ナリ、國策ヲ改メテ
行ク所ニ政治ノ妙味ガアルノデアリマス、
私ハ此意味ニ於テ外地、内地ガ今日ノ米穀
事情ニ即シタ所ノ新シキ出發スルト云フ
コトガ、今日ノ急務デアアラウト考ヘテ居ッ
タノデアリマスガ、幸ニ米穀自治管理法案
ナルモノガ茲ニ現レテ今迄ノ缺陷ガ緩和サ
レルコトニ進ンダコトハ、我國ノ米穀國策
ノ一大進歩デアッテ、吾々ハ之ニ賛成セザル
ヲ得ナイノデアリマス(拍手)

併ナガラ諸君、私ハ此米穀自治管理法案
其モノノ實施ノ上ニ於テ、色々ノ缺點モア
リ得ルト思フ、又之ヲ實施シタ結果、果シ
テ吾々ガ期待スルヤウナ眞ノ根本的解決ガ
出來得ルカ、ソコニハ幾多ノ疑問ヲ持ッテ
居リマス、併ナガラ當事者ガ極力此法ノ精
神ヲ實施スルノ努力ヲ致シタナラバ、ソコ
ニ相當ノ成績ヲ擧ゲ得ルト思フ、併シ眞ニ
我國ノ米ノ問題ヲ、根本的ニ解決スルト云
フナラバ、私ハ速ニ内地、外地ヲ打ッテ一丸

トシタ所ノ産業國策ヲ確立シ、食糧政策ヲ
樹立スルト云フコトニ政府當局ハ勿論ノコ
ト、内外舉ゲテ此大キナ問題ニ努力シナケ
レバナラヌト存ズルノデアリマス

更ニ此三法案ヲ批判スルノニ色々ノ説ガ
アリマシタ、或ハ此法案ハ地主、殊ニ大キ
ナ地主ノ爲ニハ有利デアアルカモ知レヌガ、
小作人、殊ニ小農ノ爲ニハ不利益デアアル、
何故ナラバ是等ノ人達ハ米ヲ買ッテ食ヘナ
ケレバナラヌ立場ニアルカラ、米ノ値ノ高
クナルノハ不利益デアアルト云フ主張モアル
ヤウニ思フ、併ナガラ農村ニ於ケル總テノ
階級ヲ別々ニ切離シテ考ヘテ見タナラバ、
斯ノ如キ議論ガ成立チ得ルカモ知レナイ、
併ナガラソレニシタ所デ、米ヲ出來秋
ニ賣ッテ、端境期ニ買ヘナケレバナラ
ヌ立場ニアル農家ニ付テ考ヘ見テモ、此
法案ハ決シテ不利益デヤナイト思フ、何故
ナラバ、出來秋ニ成ベク米ノ値ノ騰ラヌ
ヤウニスル、而シテ端境期ニ成ベク米ガ極
度ニ騰ラヌヤウニスルト云フノガ、此法案
ノ趣旨デアアルトスルナラバ、出來秋ニ米ヲ
賣ル人ノ爲ニ高イ米ノ値段ヲ維持シ、端境期
ニ米ヲ買ヘナケレバナラヌ人ノ爲ニハ、高
イ米ノ値ヲ抑ヘテ行クト云フ效果ガアルト
スルナラバ、私ハサウ云フ階級ニアル農家
ノ爲ニモ、決シテ不利益デハナイト信ズル
ノデアリマス、ノミナラズ吾々ハ、サウ云
フ風ニ階級的ニ批判スルナラバ、必ズシモ
一致スルモノデヤナイ、一人々々其事情ハ
違フノデスカラ、サウ云フ風ナ行キ方ヲセ
ズシテ、大キナ立場カラ農村ヲ考ヘ、農民

ヲ考ヘタナラバ、米ノ値ヲ常ニ相當ナ價格ニ維持安定スルト云フコトガ、總テノ農村ノ潤ヒデアリ、總テノ農家ノ利益デアルト云フコトヲ、私ハ茲ニ斷言シテ憚ラヌノデアリマス（拍手）

更ニ私ハ能ク聞クコトデスガ、此法案ハ米價ノ吊上ヲ目的トスルノダ、更ニ是ハ農村經濟ノ法案デアルト言フノデアリマスガ、私ハ必シモサウデハナイト思フ、即チ此法案ハ必シモ米價ノ吊上ヲ目的トスルモノデヤナイ、吾々ハ先程申シマシヤウニ、米ノ自産自給ハ、國家ノ爲ニ、殊ニ國防上ノ見地カラ必要デアルトスルナラバ、常ニ農家ガ米ヲ作テ算盤ノ採レル程度ニ米價ヲ維持スルト云フコトガ目的デナケレバナラス、ソレト同時ニ、國民ノ必要ナル主要食物デアリマスカラ、其意味ニ於テモ、適當ナ位置ニ米ノ値ヲ維持スル必要ガアル、即チ此二ツノ目的ニ適應スルヤウナ程度ニ於テ調節シテ行クト云フノガ、私ハ此法案ノ眞ノ目的デアルト信ズルノデアリマス、斯ク考ヘテ見タ時ニ、必シモ此法案ハ農村ノ救済ノ爲ノミノ法案デナク、眞ニ農村ノ經濟ヲ維持スル上ニ於テ、必要ナ程度ニ米ノ値ヲ維持スルト同時ニ、多數國民ノ消費スル米ノ値ヲ、是亦或必要ナル程度ニ於テ維持シテ行クト云フ點ニ於テ、ソコニ本當ノ目的ガアル、ソレデナケレバナラス、ソレデアルトスルナラバ、必シモ此法案ハ農村救済ノ爲ノミノ法案デナク、米價吊上ノ法案デモナイ、同時ニ全國民ノ生活ヲ安定セシムル所ノ、重要ナ働キヲスル所ノ法案デ

アルト私ハ信ズルノデアリマス（拍手）デ若シ世間デ言フヤウニ、此法案ノ爲ニ損失ヲ來スヤウナ階級ナリ、或ハ業者ガアルナラバ、ソレ等ニ對シテハ、別ナ手段ヲ講ジテ、是ガ補償ヲスルト云フコトガ當然ノ國家ノ責務デアアル、之ニ對シテハ、諸君ガ附帶決議トシテ色々條件ヲ持出サレ、又農林大臣等モ、ソレニ付テハ善處スルト云フコトヲ言テ居ラレル、當然ノコトデアリマス、私ハソコニ此法案ノ本當ノ目的ガアルト云フコトヲ信ジテ本案ニ賛成スル所以デアリマスガ、併ナガラ（モウ澤山ダ）ト呼フ者アリ）殊ニ私ハ申上ゲテ置キタイ、私ハ本當ニ我國ノ米ノ問題ヲ徹底的ニ解決スルニハ、此三法案デハ不十分デアルト思フ、即チ農林大臣ガ此議場ニ於テ、又其他ノ機會ニ於テ、是ハ米穀統制法案ガアル今日、是ガ補強ノ一ツノ手段ニ過ギナイト言テ居ラレマス、而シテ根本政策ノ樹立ニ付テハ、別ニ考ヘルト言テ居ラレル、ソレデナケレバナラス、私ハ本當ノ米ノ政策ヲ徹底セシムルニハ、更ニ百尺竿頭一歩ヲ進メテ、本當ノ政策ヲ樹立シナケレバナラスト思フ、現内閣ハ庶政一新ヲ主張シテ居ラレマスガ、私ハ庶政一新ハ國民生活ノ安定カラ出發シナケレバナラスト思フ、國民生活ノ安定ハ、全國民ニ遺憾ナク食糧ヲ供給スルト云フ點デアリマセウ、而シテ此問題カラ言ヘバ、米ノ問題ハ農村ダケノ問題デヤナイ、農民ダケノ問題デヤナイ、商工業者ノ問題デアリ、都市ノ問題デアアル、全國民等シク關心ヲ持タナケレバナラス重大ナ

問題デアリマス、故ニ私ハ此必要ナ國策ヲ樹立スル、根本的ナ國策ヲ樹立スル爲ニハ、米ヲ作ル者、作ラザル者、米ヲ賣ル者、賣ラザル者、或ハ米ヲ生産スル者、米ヲ消費スル者、全國民ヲ舉ゲテ、心ヲ一ツニシテ、此大キナ問題ヲ解決スルト云フ所ニ迄進シテ行クナラバ、私ハ譯ナク此根本ノ方策ト云フモノハ、立チ得ルモノダト信ズル者デアリマス、而シテ私ハ既ニ此米ニ對スル根本ノ方策ト云フモノハ、研究ガ出來テ居ルト思フ、而シテ是ガマダ具體的ニ現レナイノハ、或ハ時機ガ到來シナイノデアアルカモ知レヌガ、私ハ當局者ガ斷ノ一字ヲ缺イテ居ル結果ナリト信ズルノデアリマス（拍手）斷ジテ行ヘバ鬼神モ之ヲ避クト古人ハ言テ居ル、斷ジテ行フト云フコトガ、政治家ニ取ツテ最も必要ナ要素デアルト思フ、此意味ニ於キマシテ私ハ島田農林大臣ノ度々本議場、其他ニ於テ言明セラレタアノ言葉ニ信頼ヲ置イテ、此三法案ハ他日根本的法案ガ出來上ル前奏曲トシテ贊成ノ意ヲ表スルコトヲ、茲ニ明瞭ニ致シ置キマシテ、我黨ノ態度ヲ諸君ニ闡明スル次第デアリマス（拍手）

○議長（富田幸次郎君） 永山忠則君

（永山忠則君登壇）

○永山忠則君 私ハ委員長ノ報告ニ賛成スル者デゴザイマス、既ニ東氏、高橋氏ヨリ、論理的ニ學究的ニ賛成ノ意見ヲ述べラレテ居リマスノデ、私ハ此點ノ重複ヲ省キマシテ、農村ノ實情ノ方面ヨリ一二點批判ヲ致シマシテ、贊成ノ意ヲ表シテ見タイト思フ

ノデアリマス、今日農村ガ疲弊困憊シテ居ルト云フコトハ、何人モ御存ジノコトデゴザイマス、今日ノ農村ノ生活ガ非常ナル低下ラシテ居ルト云フコトハ、茲ニ喋々申ス迄モゴザイマセヌデセウ、一日五十錢ノ日給デ數人ノ家族ヲ養ウテ居ルノデアリマス、彼等一人ノ生活費ハ僅ニ十二三錢デゴザイマス、即チ獄中ニ投ゼラレテ居ル囚人ト同ジ程度ノ生活ニ、貧農大衆ハ甘ゼナケレバナラスト云フ實情ニ置カレテ居ル、此貧農ノ狀態、斯ノ如キ苦シイ狀態ニ、農村ガ押處ニアルノデゴザイマセウカ、即チ農村ガ——農民ハ自ラ生産シタルモノニ對シテ、自ラ價格ヲ決定スルノ權利ヲ持ッテ居ラナイノデアリマス、農村ハ自分ノ生産物ニ對シマシテ、價格ヲ決定スルコトガ出來得ナイノデアリマス、然ルニ一方販賣ノ際ニ於キマシテハ、生産費ヲ割ッタ安イ値段デ投資ヲスルノデアルト同時ニ、反對ニ購買スル場合ニ於キマシテハ、生産費ニ利潤ヲ加ヘタ價格デ購買シテ居ルノデアリマス、即チ收入ハ極メテ薄ク、支出ハ大ナル狀態ニナツテ居ルノデアリマス、カルガ故ニ常ニ農村ハ經濟上ノ收支ガ償ヘナイ、ケレドモ此文化ノ狀態ニ於キマシテ、奴隸的生活ノミニ甘シズル譯ニ行カナイ、斯クシテ支出ハ増大ニナリ、收入ハ少クナリ、農家一家ノ負債ハ實ニ一千五百圓ヲ算スルト稱セラレ、總計八十億圓ニ垂ンスルト云フヤウナ現状デアアル、是ハ即チ農村ガ生産物價ヲ自ラ統制スルコトガ出來ナイ、物價ノ價值ヲ自ラ定メル

コトが出来得ない、即ち農村へ共同團結、共同組織ノ精神ニ缺ケテ居ルノデアリマス、農村ハ無智デアリマス、其無智ト共同組織ノ精神ニ缺ケテ居ル所ニ乗ゼラレマシテ、常ニ利潤ハ中間商人ニ搾取サレルト云フ状態ニ置カレテ居タノデアリマス、此處デラレテ居ル状態ヲ農村自體ニ於テ、現状ニ於テハドウシテモ脱スル所ノ力ガナイ、國家ノ強イ權力ニ於キマシテ引上ゲテ戴カナケレバナラスノデアリマス、此意味ニ於キマシテ米穀統制法及米穀自治管理法二案ハ、最も必要ナルモノデアルト私ハ感ズルノデアリマス、即チ本案ハ米穀統制法ノ缺陷ヲ補正シ、米穀統制法ヲ強化スルト云フ意味ニ於キマシテ、全幅ノ賛成ヲセナケレバナラナイト思フノデアリマス、即チ米穀統制法ハ最低、最高ノ價格ヲ、國家ノ力デ保障サレテ居ルノデアリマス、生産費以下デ投資シテ居タ所ノ農民ノ、此不合理ナル状態ヲ合理化シテ、國家ノ力、權威ニ依ツテ、合理化ヲシテ戴イテ居ルノデアリマス、然ル所此米穀統制法ガ出来マシテ、昭和八年ニ大豐作ガアリマシタコトハ御存ジデアリマセウ、其大豐作ガアリマシタ際ニ於テ、農民ハ最低價格デ政府ヘ賣リタイト致シマシテ、殺到シテ申込ダノデアリマス、然ルニ政府ヘ農村ガ眞ニ賣ツタ所ノ米ハ、幾ラデアリマシタデセウ、一千万石以上ノ米ヲ政府ハ買上ゲマシタ、然ルニ其一千萬石カラシテ、其米ノ中ヲ僅ニ一割シカ農會及産業組合ノ手ヲ通ジテ賣ツテ居ラヌノデアリマス、米穀統制法ハ豐作ノ際ニ於キマシテ、

農民ガ投資ヲスルト云フコトヲ、尙ホ防止スルダケノ強イ力ヲ持ツコトガ出来ナカッタノデアリマス、カルガ故ニ此自治管理法案ハ、過剰米ニ對シマシテ自治的ニ保管ヲ爲サシメ、保管米ニ對シマシテハ低價ノ融通ヲ爲シマシテ、投資ヲ防止スルト云フ點ニ對シマシテハ、恐ラク農民ノ總テノ階級ガ利益ヲ得ルモノデアルト、私ハ感ズルノデアリマス、同時ニ又反對ニ昭和九年ニ於キマシテハ、大凶作ガ參リマシタコトハ御存ジデアリマセウ、其凶作ノ際ニ於キマシテ、最高價格デナカッタナラバ政府ハ之ヲ賣ルコトガ出来得ナイ、斯ルガ故ニ有ガスレノ状態ヲ生ジタコトモ御承知デアル、然ルニ本法案ニ依リマスレバ、最低價格一割ノ値上リヲスルト云フコトニ依リマシテ、保管米ノ解除ガ出来ル、是等ニ依リマシテ茲ニ有ガスレノ状態ヲ防グコトガ出来ル、是等ノ點ヲ考ヘタ時ニ米穀統制法ガ存立スル限リニ於テ、此米穀自治管理法案ハ車ノ兩輪ノ如ク、唇齒輪車ノ關係ニアルモノデアルト、私ハ斷言シテ茲ニ滿腔ノ誠意ヲ以テ賛成ノ意ヲ表シテ終ル次第デアリマス

(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 三宅正一君

(三宅正一君登壇)

○三宅正一君 私ハ極ク簡單ニ吾々ノ米穀自治管理法案外二案ニ對シマスル意見ヲ申述ベマシテ、賛成演説ニ代ヘタイト考ヘルノデアリマス、吾々ハ東委員長ガ御報告ニナリマシタ通り、政友會、民政黨ノ諸君ガ御出シニナリマシタ本案ニ對シマスル附帶決

議ト別ニ吾々獨自ノ附帶決議ヲ提出シタノデゴザイマス、之ニ對シマシテ農林大臣ハ十分ニ考慮シテ御希望ニ副フヤウニスルト云フ御言明ガゴザイマシタノデ、其御言明ヲ信賴シテ本案ニ私共ハ賛成スル次第ナノデゴザイマス(ソシナ生溫イコトデ賛成スルノカ「默」ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(富田幸次郎君) 靜肅ニ……

○三宅正一君(續) 其私共ノ考ヘテ居リマスル附帶決議……(何故反對シナインダ)「何ヲ言フカ」ト呼ヒ其他發言スル者多シ)

○議長(富田幸次郎君) 靜肅ニ……

○三宅正一君(續) 吾々ノ本案ニ對シマスル附帶決議ヲ先ヅ朗讀致シマシテ、吾々ノ態度ヲ明白ニシタイト思ヒマス

米穀自治管理法案外二案ニ對スル附帶決議

一、米穀統制法ノ買上規定ヲ簡易化シ、小農ト雖モ容易ニ買上ニ應ジ即刻入金シ得ル様改正スルコト

二、自然災害其他ノ事情ニ依リ飯米難ニ陥リタル場合、政府所有米ノ貸下、拂下又ハ交付ヲ簡易ニ爲シ得ル様米穀統制法ヲ至急改正スルコト並ニ運用ニ付テ考慮スルコト

三、米穀自治管理法ニ於テ小農ノ利益ヲ害セザル様寄託米ニ付テハ即刻最低價格ノ全額ヲ融資シ、尙小農ガ自家用飯米ノ爲寄託米ノ解除ヲ必要トスル時ハ之ニ應ジ得ルノ道ヲ開クコト

四、米穀自治管理法外二法案ニ對シ米價吊上ゲニ墮スルトノ批判ガアルニ鑑ミ、

政府ハ米穀生産費低減ノ爲ニ肥料價格ノ低減ヲ計リ、農民負擔ノ輕減、更ニ小作法並ニ農業保險法ヲ次期議會ニ提出スベシ

五、青田賣等ノ農民金融難ニ對シテハ本法立法ノ主旨ニ顧ミテ至急適切ナル方策ヲ講ズベシ

ト云フノガ吾々ガ農林大臣ノ賛成ヲ得マシタ附帶決議ナノデゴザイマス

諸君所謂我國ニ米穀法ト云フモノガ制定サレマシタノハ大正八年カラデアアル、爾來米穀法ハ第一次ノ改正、第二次ノ改正ヲ經テ更ニ米穀統制法トナリ、今回ソレヲ補強スル爲ニ米穀自治管理法ト云フ法律ヲ制定スルニ至ツタ沿革ヲ持ッテ居ルノデアルガ、米穀統制法ヲ大正十年ニ制定スルニ至リマシタ事情ト云フモノハ、大正七年ニ於ケル米價ノ大暴騰ニ依ル米穀騒動ニ刺戟サレタコトガ、即チ米穀統制法ノ沿革ナノデアアル、諸君、所謂米穀騒動ニ刺戟サレタ米ト云フヤウナ重要ナ生産物ガ投機ノ對象物トナツテ、上ツタリ下ツタリスルト云フコトガ、如何ニ國民生活ニ不安ヲ與ヘルカト云フコトガ、米穀統制ニ入リマシタ我國ノ立法上ノ沿革ノ第一歩デアルト私ハ理解スルノデアアル、而シテ所謂米穀法ノ制定ニ依ツテ、所謂米穀騒動ヲ防グコトハ出来タケレドモ、今度ハ農民ガ生産費ヲ割ツテ賣リマスル所——ノ損ヲシテ賣ルト云フ現象ニ付テハ、農民ガバラクニ居ッテ、資本主義制度ノ下ニ居ル弱者タリト云フ所以ヲ以テ、之ヲ防グコトガ出来ナカッタノデアアル、隨テ米穀法第二次ノ改正ニ

於テ、最低價格最高價格ノ制度ヲ作りマシテ、最低價格ヲ以テ買上ゲシメルコトニ依ッテ、農民ガ損ヲシナクトモ物ヲ賣レルヤウニシナケレバ、農村ガ立タナイト云フコトヲ考ヘタノガ、米穀法ノ第二次ノ改正トナツタノデアリマス、ソレデモ十分ナル效果ヲ擧ゲ得ナイガ爲ニ、更ニ所謂昭和五年六年ノ農業饑饉ヲ中心ニ致シマシテ、アレダケ農民ニ損ヲサセテ置イタノデハ、日本ノ國家全體ガ立ッテ行カナイト云フ見地ニ立ッテ、米穀統制法ノ施行トナリ、最低價格ヲ以テドレダケデモ米ヲ買上ゲテヤル、其代リ最高價格ニナツタラニ賣出スコトニ依ッテ、値幅ヲ縮メテヤラウト云フコトガ、即チ農村對策トシテ米穀統制法ノ布カレタ所以デアルト私ハ解釋スルノデゴザイマス、所ガ御承知ノ通り米穀統制法ノ制定ニ依ッテ、確ニ農村及ビ都市ハ得ヲシタノデアアル、ドノ點ニ於テ吾々ハ得ヲシタカト云フ點ヲ考ヘルナラバ、例ヘバ昭和八年ノ出來秋ニ於テ、アノ大豐作デアッタガ故ニ、恐ラク貧農ガ米ヲ賣ル出來秋ニ於テハ、米穀統制法ナカリセバ、十五六圓デ以テ農民ハ米ヲ投賣スルヨリ外ナカッタト考ヘル、斯ノ如キコトガ如何ニ我國農村ヲ亡ボシテシマフカト云フコトハ分リ切ッテ居ルガ、ソレガ兎モ角モ生産費ニハ該當スルダケノ、二十圓ヲ維持スルコトガ出來タノハ、確ニ米穀統制法ノ農村及ビ都市ニ對スル貢獻デアッタト吾々ハ認メザルヲ得ナイノデアリマス、斯ウ云フ所謂功績ガアッタノデアアル、即チ米穀統制法ノ功績ハ重要生産物デアル米ヲ、投機

ノ對象カラ取上ゲテ、最低價格、最高價格ノ幅ヲ縮メテ、元ハ二十八圓何十錢ト云フ安イ値段ト高イ値段ノ開キガアツテ、消費者モ生産者モ總テ困ツタノヲ、二三圓ノ開キ若ハ四五圓ノ開キニ致シマシテ、農村モ都市モ、米ノ暴騰暴落ニ依ッテ困ラヌヤウニシ、米ヲ博奕カラ取上ゲ、投機カラ取上ゲタト云フ功績ニ付テハ、私共ハ何人ト雖モ、米穀統制法ノ功績ヲ認メナケレバナラヌト考ヘルノデアリマス、而モ其他ニ私共ハ所謂五・一五事件、或ハ二・二六事件ヲ起スガ如キ社會的背景ヲ成ス農村ニ於ケル窮迫、都市ニ於ケル生活難等ガアルニ拘ラズ、大正七年ヲ機會ニシテ、米騒動ヲ起サナカッタ理由ト云フモノハ、政府ハ意識シナカッタガ、米穀統制法ニ依ッテ買上ゲタ米ヲ拂下、貸下、交付等ノ方法ニ依ッテ、都市及ビ農村ニ於ケル飯米飢饉ヲ救済シタト云フ、米穀統制法ノ社會的效果ト云フモノハ、吾々ハ之ヲ大キク評價シナケレバナラナイト考ヘルノデアリマス、斯ノ如キ效果ハゴザイマシタケレドモ、唯米穀統制法ハ一ツノ致命的缺陷ヲ持ッテ、即チ内地ニ於ケル生産費ヲ基準ニシテ最低價格ヲ決メルガ故ニ、内地ノ生産費ヨリ十圓、十二圓ト安イ臺灣及ビ朝鮮ニ對シテハ増殖ヲ獎勵スルノ結果トナツタ、隨テ幾ラ買上ゲマシテモ、臺灣及ビ朝鮮カラ押寄セテ來ル米ノ爲ニ、我が國家財政ハ此儘で行クナラバ破綻セザルヲ得ナイト云フ、一ツノ大キナ缺陷ニ遭遇シタノデアアル、之ニ對シマシテ、所謂米穀自治管理法案ヲ制定スルコトニ依ッテ、之ヲ防ガン

トシタノガ、吾々ハ本法ノ精神ナリト考ヘテ、今日マデ申述べタダケノ效果ヲ以テシテモ、今日米ヲ自由放任ニ任スベキデハナクシテ、色々ナ弊害ハアツデモ、私共ハ米屋ノ苦シミトカ、ソレ等ニ付テハ別ノ方策ヲ政府ガ考慮スルコトニ依ッテ、國家ノ基礎デアル米穀ノ問題ニ付テ、此大原則ヲ此機會ニ確立スルコトガ必要ナリト考ヘテ、本法ニ贊成シタノデアリマス、併ナガラ所謂此米穀自治管理法、其他ノ米穀法ト云フモノハ、重大ナル缺陷ヲ持ッテ居ルト云フコトハ、渡邊鐵藏氏其他反產側ガ指摘サレタ通りデアアル、其缺點ニ付テハ之ヲ是正シナケレバ、小賣商人ニ犧牲ヲ拂ハセ、是ダケノ政治的摩擦ヲ排除ケテ作りマシタ法律ト致シマスナラバ、此缺陷ヲ是正スル點ニ付テ、政府當局ハ十分ナル決意ヲ持ッテ貫ハナケレバ、私共小賣商人ト共ニ政府ヲ糾弾セナケレバナラナイ立場ニ陥ラザルヲ得ナイト考ヘルノデアアル、其缺陷ハ一體何カ……（與黨ニナレト呼ビ其他發言スル者アリ）眞鍋君、能ク聽ケ……

○議長（富田幸次郎君） 私語ヲ禁ジマス ○永山忠則君（續） 米穀關係法案ノ缺陷ト云フモノハ、第一ハ、地主救済ニ陥ッテ居リハシナイカト云フ一點デアアル、第二ハ、高米價政策ニ陥ッテ居リハシナイカト云フ一點デアアル、而シテ此法案ガ農村ニ於ケル絶對多數ノ人口ヲ占メテ居ル中農以下ノ貧農大衆ニ如何ナル影響ヲ與ヘ、如何ナル恩典ヲ與ヘルカト云フ一點、此三ツガ米穀法批判ニ對スル中心デアルト私ハ考ヘル、諸君、米屋ニ是ダケノ犧牲ヲ拂ハセテ、サウシテ是ダケノ摩擦ヲ通シテ作りマシタ法律ガ、若シ貧農ノ爲ニナラズシテ、遊ンデ居ル遊食地主ヲ助ケルダケノ結果ニナル法案デアルトスルナラバ、此法案ハ默殺シナケレバナラヌト私ハ考ヘルノデアアル、此點ニ付テ私共ハ本法ノミヲシテ、此三ツノ缺陷ヲ救フコトハ出來ナイケレドモ、本法ガ大局ニ於テ必要ナリトスルナラバ、此三ツノ所謂批判サルベキ所ノ缺點ニ付テ、之ヲ是正スルコトニ依ッテ、所謂本法ニ贊成シナケレバナラナイト云フコトガ、吾々ガ此五項目ニ互ル特別附帶決議ヲ出シテ農林大臣ノ贊成ヲ得タ次第デアアル、所謂今日ハ米穀自治管理法ノ制定デアルガ、米穀法ノ制定ニ依ッテ、一體昭和八年ニ誰ガ儲ケタカ、米穀法ハ官僚的煩瑣ナル手續ノ故ニ、米ヲ貧農ガ政府ニ買ッテ貰ハントスルニ二圓ノ證據金ヲ積ンデ、同ジ銘柄ヲ百俵ヅ、集メテ政府ニ賣付ケルト、三月經タナケレバ金ガ來ナイト云フ、不合理ナ結果ヲ來シテ居ルノデアアル、金ガ無クテ青田賣リシテ居ル百姓ニ、三月モ經タナケレバ米ヲ賣ッタ金ガ來ナイト云フヤウナ、篋棒ナムヅカシイ條件ナルガ故ニ、折角地主ハ統制法ニ依ッテ最低價格ヲ買ッテ貰ヘルガ、實際ノ農民ハ庭先ニ於テ、最低價格ガ二十圓ノ際ニ、最低價格十六七圓デ以テ、所謂米屋ト肥料屋ニ苦ンデ叩キ賣リヲサセラレテ、米ノ無クナツタ高イ時ニ買ハサレルト云フコトハ、明ニ米穀統制法ノ不都合ナ結果トシテ貧農ヲ苦シメテ、富農及ビ大キナ米屋ダケヲ益シテ居ル

ト云フコトハ、不都合ナ事實デアルト私ハ
思フノデアリマス(拍手)デアルカラシテ私
ハ其點ニ於テ、米穀統制法ヲ補強スル今回
ノ法律ヲ作ルナラバ、先ヅ第一ニ米穀統制法
ノ買上規定ヲ簡易化シテ、一俵ト雖モ買ッテ
ヤル、買ッテ限リハ直チニ金ヲヤルト云フ
コトニシテ、統制法ノ制定ニ依ッテ、農民モ
亦其惠ミヲ得ルコトニシテ戴キタイト云フ
コトヲ、附帶決議トシテ之ヲ附ケタノデゴ
ザイマス、諸君、更ニ私共ハ所謂今日ノ農
村ノ實情ヲ見ル時ニ、農民ガ耕作ヲ繼續致
シマスル爲ニ、米作り米食ハズト云フ現象
ヲ見ナケレバナラナイノデゴザイマス、私
共ハ農村ノ實情ヲ申上ゲル時ニ、御承知デ
ゴザイマセウケレドモ、我國ノ農民ハ五反
百姓ガ多イノデアアル、五反百姓ガ非常ニ高
イ小作料ヲ取ラレマシテ、サウシテ僅カノ
收穫ヲ殘シテ、肥料代ヲ取ラレルト云フ
ト、飯米ハアリハシナイ、其飯米ニ對シマ
シテ、飯米ガナイカラシテ、農民ハ土地ヲ
荒スノデアアル、新潟縣刈羽郡上小國村ニ於
テ、三十町歩ノ耕地ガ役場ノ統計ニ依レバ
荒廢シタノデアアル、何故荒廢シタカ、アレ
ダケ土地ガ足ラヌデ競争シテ居ル時ニ、荒
地ガ出來タノハ何故デアアルカト云ヘバ、
農民ニ飯米ガナイノデアアル、肥料ヲ買フ金
ガナイノデアアル、ダカラ肥料ナシニ稻ヲ
蒔クノデアアル、肥料ナシニ稻ヲ蒔キマスル
ナラバ、雜草ハ繁茂スルデアラウケレド
モ、米ハ繁茂シナイノデアアル、ソレニ對
シテ二十五日耕作スル所ヲ三十日耕作シ
テ、深く掘ルナラバ肥料ヲヤラナクテモ出

來ルカモ知レナイケレドモ、肥料ヲ買フ力
ガナイ、農民ハ米ヲ買フ——飯米ガナイノ
デアアル、ダカラ一番草ヲ取ッテ置イテ、二番
草、三番草ノ時ニハ救農工事ニ出テ働イテ、
飯米ヲ稼ガナケレバナラヌト云フノガ農民
ノ實情デアアル、肥料ヲヤラズニ置イテ、一
番草ダケ取ッテ、アトハ米稼ギニ出テ居ル
ト云フコトガ、雜草ダケ繁茂サシテ、アノ
山地ニ於テ三十町歩ノ土地ヲ荒廢セシメタ
ト云フ此事實ヲ政府ガ見ナケレバ、私ハ政
府ノ農業政策ナドト云フモノハ、上ニリラ
シタモノダト云フコトヲ指摘セザルヲ得ナ
イノデアアル、諸君、此點ニ於テ、米作り繼
續スルト云フ意味ニ於テモ、所謂第二項ノ
附帶決議ハソレデアアル、雪害其他ノ自然災
害ニ依ッテ飯米難ニ陥テ居ル場合ニ於テハ、
政府所有米ヲ拂下ゲル方法ヲ簡易ニシテ、
無償交付ヲスベシト云フヤウニ統制法ヲ改
正シ、其統制法改正ニ至ルマデハ、施行法
其他ニ依ッテ運用ヲ改正サレタイト云フノ
ガ、此意味デアリマス

更ニ米穀統制法ガ愈々布カレマシタ際ニ
於テ、米穀統制ヲヤリマシタ場合ニ於テ、
貧農ガ米ヲ預ケナケレバナラヌ、強制委託
ヲシナケレバナラヌ、小作農ニ付テハ一町、
自作農ニ付テハ五反以上ト言ハレルノデア
アルガ、五反百姓ガ政府ニ米ヲ強制的ニ自治
管理ニ依ッテ管理ヲサセラレタ時ニ、モウ金
ガ無イノデアアル、ダカラシテ最低價格ノ全
額ト云フモノヲ政府ガ融通シナケレバ、貧
農ハ却テ此法律ニ依ッテ迷惑ヲ蒙ルト云フ
コトヲ御承知ヲ願ヒタイ、第三ニ貧農ガ飯

米ガ無クナツタ時ニ、マダ値ガ上ラヌカラ
解除出來ヌカラ、外ヘ行ッテ買ッテ來イト云
フコトニナツタラ、自分ノ米ガ自分ニ食ヘ
スト云フコトニナツテ農民ガ迷惑スルカラ、
貧農ノ飯米ニ關スル限リハ、飯米ガ無クナツ
タ時ハ直チニ之ヲ解除シテ廻サヤウニシテ、
貧農モ此法律ニ依ッテ惠ミヲ蒙ルヤウニシ
ナケレバ、米穀政策ノ根本ニ離レルト云フ
コトヲ農林大臣ニ御聽ヲ願ヒタイノデアリ
マス

更ニ第四ノ問題ハ、是ハ一番重要ナ問題
デアアル、此問題ニ付テハ、私ハ帝國議會ニ
於キマシテ、斯ノ如キ問題ノ今日マデ論議
サレナカッタコトヲ残念ニ思フ、ソレハ今迄
貧農ノ代表ガ出ナカッタ結果デアアル、諸君、
高米價政策ナリト云フ非難ハ私共傾聴シナ
ケレバナラヌト思フノデアアル、米屋ニ是ダ
ケノ犧牲ヲ拂ハセ、政府ガ是ダケノ犧牲ヲ
拂ッテヤル法律デアアル限リハ、其米ノ値段ハ
公正デナケレバナラヌ、其公正ノ基礎如
何、公正ノ基礎トハ農民ガ生産費ヲ割ラナ
イヤウニシテ買上ゲテヤルコトデアアル、其
生産費ニ不當ノ水膨レガアッテハナラナイ、
今日ノ農村ニ於テ、諸君、生産費ノ中ノ一
番大キナ部分ヲ占メテ居ルモノハ、肥料代
ト、小作料ト、税金デアアル、諸君、税金ガ
農村ニ對シテ重クシテ都市ニ對シテ輕イト
云フコトハ、今日誰人モ之ヲ否定スル者ハ
ナイ、税金ヲ下ゲテ米ノ生産費ヲ第一ニ下
ゲナケレバ、此法律ハ活キテ來ナイト云フ
コトヲ私共ハ要求スルノデアアル、第二ニハ
肥料代デアアル、肥料ノ——硫酸ノ相場ハ昭

和其他ニ於テ四十圓ノモノヲ、獨占資本ノ
今日横暴ニ依ッテ八十圓、百圓、百二十圓ト
云フ肥料ヲ買ハサレテ居ル時ニ、米穀統制
法ヲ布イテ米屋ニ犧牲ヲ拂ハセルナラバ、
大キナ三井、三菱、住友等ニ大キナ犧牲ヲ
拂ハセ、之ニ依ッテ四十圓デ出來ル肥料ハ、
四十圓デ農民ニ賣付ケテヤル爲ニ肥料ヲ國
營ニシナケレバ此法律ハ活キナイト云フコ
トヲ、私ハ政府ニ向ッテ強ク要求致シテ置
クノデアリマス

第三ハ小作料ノ問題デアアル、諸君、本年
ノ米穀統制ノ問題ニ於テ政府ノ發表シマシ
タ——私共ガ要求シテ取りマシタ材料ヲ御
覽ナサイ、昭和十年ノ反當リノ收穫ハ、一
反ニ付テ一石八斗デアアル、然ルニ一反ニ付
テノ小作料ハ一石二斗デアアル、一石八斗シ
カ穫レヌ所ヲ一石二斗取ラレシマヘバ、
後ニ農民、小作人ノ手許ニ殘ルモノハ僅ニ
六斗デアアル、然ルニ一反ニ付テノ肥料代
ハ縣ニ依ッテ違フケレドモ、大體ニ於テ
十圓ト踏メバ、宜シイ、サウスルト小作料ト
肥料代トヲ取ラレルト云フト、一反ニ付
テ農民ノ手許ニハ四圓五十八錢シカ殘ラナ
イノデアアル、五反作ッテモ二十圓シカ殘ラナ
イ、是デ税金ヲ拂ヒ、飯米トシテ農民ガド
ウシテ食ッテ行ケルカ、諸君、私共ハ米穀法
ニ依ッテ農村ノ多數ヲ救ハウトシテ、都會ニ
犧牲ヲ拂ハセルナラバ、少クトモ小作法ノ
制定ニ依ッテ原理ニ適ッテ——經濟學ノ原理
ニ適ッテ私共ハ社會主義ノ原理カラ只ニシ
ロト云フコトヲ今日直チニ言フ者デハナイ
ノデアアル、資本主義ノ經濟ノ下ニ於テモ、

肥料代ト農具ノ損料ト税金ト勞働日當ダケハ農民ノ手ニ殘ルヤウニシテ、其アトヲ地主ニヤルト云フコトニシナケレバ、農民ハ體ヲ摺リ減ラシ、娘ヲ出シテ娘ノ命ヲ摺リ減ラシテ、遊食人種ニ奉仕シテ居ル、斯ウ云フ法律ヲ作ッテ米屋ヲ苛メルト云フノデハ、私ハ政治ノ公平ノ原理ニ反スルト思フノデアル、是ガ高米價政策ナリト云フ批判ヲ避ケル爲ニハ、私共ハ政府ハ如何ニ反對ガアラウト、所謂邪利利益ヲ貪ジテ居リマシタ今日ノ遊食地主カラシテ——其勢力カラ如何ナル反對ガアラウトモ、庶政一新ノ見地ニ立ッテ、何處マデモ小作法ヲ制定セラレルコトガ、本法ヲ活カス所ノ唯一ノ途デアルト云フコトヲ政府ニ向ッテ、島田農林大臣ノミナラス、廣田總理大臣ニ向ッテ、坐睡ヲシテ、居ナイデ御聽ヲ願ヒタイガ、一ツ強ク要求シテ置ク次第デアル

諸君、私ハ以上ノ要點ニ於テ、而モサウナッテモ、マダ農村ニ於ケル青田賣、黒田賣、白田賣等ヲヤッテ居リマス貧農ニ對シテハ、本法ハ無縁ノ衆生デアル、斯ノ如キ農民ニ對シテハ、他ノ方策ヲ立テルコトニ依ッテ、サウ云フ農民ノ無クナルヤウニサレマスコトハ、政府トシテ當然ノ任務ナリト考ヘテ、此見地ニ立ッテ、以上ノ附帶決議ヲ附シマシテ、大局ノ上ニ立ッテ、米屋ニハ御氣ノ毒デアルケレドモ、本案ニ賛成シタ所以デアルト云フコトヲ申述ベマシテ、説明ニ代ヘタ次第デアリマス

○議長(富田幸次郎君) 私語ヲ禁ジマス

ス——靜肅ニ——私語ヲ禁ジマス——清瀬一郎君

○清瀬一郎君 諸君、米穀自治管理法案外關係法案ハ、生産者デアリマスル農民ノ生活ノ爲ニハ勿論、取扱業者竝ニ一般消費者ニ對シテ洵ニ重大ナ問題デアリマス、特ニ寸毫ノ過ヲ犯シマス、其結果ハ實ニ重大ナラシコトヲ恐レマス、爰ニ本案ガ第六十七議會ニ提案サレマシタ時ニ、吾々同志ハ之ニ對シ慎重ナル調査ヲ遂ゲ、適切ナル修正ヲ加ヘント欲シタノデアリマシタ、今回政府提案ノ法律案ハ、當時吾々ノ修正ヲ悉ク容レテ居ルノデアリマス、仍テ我が同盟ハ黨議ト致シマシテ、本案ニ賛成スルコトニ決シマシタ、唯同盟内ニハ本案ノ根本精神ニ對シテ、反對ノ信念ヲ持ッテ居ル議員ガアルノデアリマス、斯様ナル國民生活ノ實際問題ニ關シ、議員ノ持ッテ居リマスル信念ハ、之ヲ尊重スベキモノデアリマス、政治ノ公明ハ是カラ始マルト存ジマシテ、吾々ハ是等ノ人々ニ對シテハ、表決ノ自由ヲ認メタノデアリマス、以上ノ理由ヲ開陳致シマシテ、私共ノ黨議トシテ本案ニ賛成スル意思ヲ表明致シマス

申ス迄モナク法律、別ケテモ經濟關係ノ法律ハ法文ノ立テ方、文字ノ巧拙ニ依ッテ、結果ノ生ズルモノデハナクシテ、之ヲ實際ニ運用スル際ノ心得ニ依ッテ、目的ヲ達スルヤ否ヤガ岐ル、ノデアリマス、本案成立ノ際ニ於テハ、政府ニ於キマシテモ、關係團體ニ於キマシテモ、亦組合員タル農民ニ於

キマシテモ、制定當初、今日吾々ガ議場ニ表明スル目的ヲ始終見失ハナイヤウニ、其運用ヲ致シタイト存ジテ居リマス、以上ノ各點ヲ表明致シマシテ、茲ニ吾々ノ態度ヲ明ニ致シマス(拍手)

○議長(富田幸次郎君) 是ニテ討論ハ終局致シマシタ、三案ノ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ御諮リ致シマス、三案ノ第二讀會ヲ開クニ賛成ノ諸君ノ起立ヲ求メマス

○議長(富田幸次郎君) 起立多數、仍テ三案ノ第二讀會ヲ開クニ決シマシタ

○松永東君 直チニ三案ノ第二讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第二讀會ヲ開キ、議案全部ヲ議題ト致シマス

米穀自治管理法案 第二讀會
米穀統制法中改正法律案 第二讀會
榎共同貯藏助成法案 第二讀會

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌカラ委員長報告通り決シマシタ(拍手) 是ニテ三案ノ第二讀會ヲ終リマシタ

○松永東君 直チニ三案ノ第三讀會ヲ開カレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ直チニ三案ノ第三讀會ヲ開キ議案全部ヲ議題ト致シマス

米穀自治管理法案 第三讀會
米穀統制法中改正法律案 第三讀會
榎共同貯藏助成法案 第三讀會

○議長(富田幸次郎君) 別ニ御發議モアリマセヌカラ第二讀會ノ決議通り、可決確定致シマシタ(拍手)

○松永東君 殘餘ノ日程ヲ延期シ本日ハ是ニテ散會セラレンコトヲ望ミマス

○議長(富田幸次郎君) 松永君ノ動議ニ御異議アリマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(富田幸次郎君) 御異議ナシト認メマス、仍テ動議ノ如ク決シマシタ、次會ノ議事日程ハ公報ヲ以テ通知致シマス、本日は是ニテ散會致シマス

午後十時十九分散會

衆議院議事速記録第八號中正誤
頁 段 行 誤 正
一九一 一三一 共進 協贊
衆議院議事速記録第十號中正誤
頁 段 行 誤 正
二五三 一三九 此望決議 此希望決議